大学院環境科学院

年　次　報　告　書

令和6年度

（令和8年10月改訂版）

北海道大学大学院環境科学院

目次

はじめに …… 1

Ⅰ　組織
1　沿革 …… 3
2　歴代研究科長，学院長・研究院長 …… 5
3　教員組織 …… 6
4　事務組織 …… 9
5　各種委員会 …… 10

Ⅱ　学生の受入
6　入学試験 …… 12
7　学生定員と現員の推移 …… 13
8　留学生数の推移と支援体制 …… 16

Ⅲ　教育活動
9　専攻・コース編成 …… 20
１０　カリキュラム編成 …… 21
１１　本学大学院（環境科学院以外）での講義・演習 …… 24
１２　大学院共通授業科目での講義・演習 …… 25
１３　公開コースの開催 …… 28
１４　ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）研修 …… 29

Ⅳ　成果
１５　学位取得状況 …… 31
１６　研究成果発表状況 …… 45
１７　修了後の進路 …… 83

Ⅴ　補遺
１８　規程 …… 86
１９　予算 …… 95
２０　安全管理 …… 95
２１　国際交流協定 …… 96

はじめに

令和６年度の環境科学院の年次報告書を発行いたします。

新型コロナウイルス感染症の流行は社会に大きな影響を与えましたが、令和６年度にはその影響は次第に過去のものとなりつつありました。もっとも、社会や大学の活動にはさまざまな形でその余波が残っており、コロナ禍を経て私たちの教育研究活動のあり方も少なからず変化しました。たとえば、学会や研究交流の多くは再び対面形式へと戻った一方で、学内外の会議や研究打合せの多くではオンライン形式が引き続き利用されています。遠隔地からでも参加できるという利点は大きく、教育研究活動の効率化に寄与している面もありますが、その反面、人と人とのつながりが以前に比べてやや希薄になっていると感じる場面も少なくありません。

教育研究活動においては、フィールド調査、ラボでの実験、コンピュータシミュレーション、データサイエンスなど、多様な研究手法が用いられています。これらの研究活動には、先人や先輩が積み重ねてきた多くの経験と知見が重要な役割を果たしています。しかしながら、こうした経験的な知見の多くは論文などの文字ベースで明示されることが少なく、教育研究活動のなかで伝承されていく側面が大きいものです。私たちは、このような無形資産というべき経験値を時代の変化に応じて見直し、更新しながら発展させていく必要があります。本報告書に記載された現在進行中の取り組みが、環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けた今後の教育研究活動のさらなる発展と新たな更新の礎となることを期待しています。

北海道大学大学院環境科学院
学院長　小西克明

Ⅰ　組　　織

Ⅰ　組織

1　沿革

大学院環境科学研究科

1977（昭和 52）年	4 月 1 日	大学院環境科学研究科が設置される
	4 月 1 日	環境計画学専攻修士課程，環境構造学専攻修士課程，社会環境学専攻修士課程，環境保全学専攻修士課程が設置される
	4 月 1 日	環境計画学専攻博士後期課程が設置される
1978（昭和 53）年	4 月 1 日	環境構造学専攻博士後期課程が設置される
1979（昭和 54）年	4 月 1 日	社会環境学専攻博士後期課程，環境保全学専攻博士後期課程が設置される
1980（昭和 55）年	3 月 10 日	管理棟・研究棟（現在の A 棟）・実験棟（6,898 ㎡）竣工
1987（昭和 62）年	10 月 17 日	大学院環境科学研究科創立 10 周年記念式典・祝賀会を開催
1988（昭和 63）年	2 月 20 日	大学院環境科学研究科創立 10 周年記念公開シンポジウムを開催

大学院地球環境科学研究科

1993（平成 5）年	4 月 1 日	大学院地球環境科学研究科が設置される
	4 月 1 日	地圏環境科学専攻（修士課程，博士後期課程），生態環境科学専攻（修士課程，博士後期課程），物質環境科学専攻（修士課程，博士後期課程）が設置される
	7 月 14 日	アメリカ合衆国イリノイ大学大学院シカゴ校と部局間交流協定を締結
1994（平成 6）年	4 月 1 日	大気海洋圏環境科学専攻修士課程が設置される
1995（平成 7）年	3 月 16 日	インドネシア共和国パランカラヤ大学と部局間交流協定を締結
1996（平成 8）年	2 月 9 日	英国（イギリス）ノッティンガム大学と部局間交流協定を締結 （～2002(平成 14)年 2 月 6 日）
	4 月 1 日	大気海洋圏環境科学専攻博士後期課程が設置される
	12 月 2 日	研究棟（現在の B 棟）（第一期 4,580 ㎡）竣工
1997（平成 9）年	10 月 1 日	大韓民国ソウル大学校と大学間交流協定を締結
	10 月 17 日	ネパール連邦民主共和国トリブバン大学科学技術研究科と部局間交流協定を締結
	11 月 17 日	中華人民共和国蘭州大学資源環境学院と部局間交流協定を締結
1998（平成 10）年	1 月 16 日	マレーシア　マレーシア・サバ大学科学技術研究科と部局間交流協定を締結 （～ 2003（平成 15）年 1 月 15 日）
2000（平成 12）年	3 月 27 日	研究棟（現在の C 棟）（第二期 5,282 ㎡）竣工
	10 月 25 日	大韓民国釜慶大学校と大学間交流協定を締結
2003（平成 15）年	9 月 29 日	大学院地球環境科学研究科創立 10 周年記念シンポジウム・祝賀会を開催

大学院環境科学院

2005（平成 17）年	4 月 1 日	大学院地球環境科学研究院が設置される
	4 月 1 日	大学院環境科学院が設置される
	4 月 1 日	大学院環境科学院に環境起学専攻（修士課程，博士後期課程），地球圏科学専攻（修士課程，博士後期課程），生物圏科学専攻（修士課程，博士後期課程），環境物質科学専攻（修士課程，博士後期課程）が設置される
2006（平成 18）年	8 月 26 日	インドネシア共和国パランカラヤ大学と大学間交流協定を締結
2007（平成 19）年	6 月 13 日	スイス連邦スイス連邦工科大学と大学間交流協定を締結
	11 月 12 日	ロシア連邦 ロシア極東国立大学と大学間交流協定を締結
2009（平成 21）年	1 月 9 日	オーストラリア連邦タスマニア大学と大学間交流協定を締結
	12 月 24 日	講義棟（614 ㎡）竣工
2010（平成 22）年	2 月 11 日	ドイツ連邦共和国ブレーメン大学と大学間交流協定を締結
	3 月 31 日	大学院環境科学院のコースを一部廃止
	4 月 9 日	中華人民共和国蘭州大学と大学間交流協定を締結
	9 月 2 日	中華民国（台湾）国立成功大学と部局間交流協定を締結 （～2016(平成 28)年 3 月 31 日）

	10 月 24 日	ネパール連邦民主共和国トリブバン大学と大学間交流協定を締結
	10 月 29 日	中華人民共和国東南大学と大学間交流協定を締結
	10 月	アメリカ合衆国ハワイ大学マノア校との大学間交流協定に参画
	11 月 25 日	中華人民共和国厦門大学と大学間交流協定を締結
2011（平成 23）年	2 月 3 日	中華人民共和国中国海洋大学と大学間交流協定を締結
	4 月 1 日	大学院地球環境科学研究院の分野を一部再編，大学院環境科学院のコースを一部再編
	4 月 13 日	(株)星野リゾート・トマムとの間で連携協定を締結
	10 月 13 日	中華人民共和国西北農林科技大学と大学間交流協定を締結
	12 月 15 日	環境中間支援会議・北海道との間で連携協定を締結
2012（平成 24）年	1 月	フィンランド共和国オウル大学との大学間交流協定に参画
	3 月 14 日	中華民国（台湾）国立中興大学と大学間交流協定を締結
	4 月 2 日	ロシア連邦 北東連邦大学と大学間交流協定を締結
	5 月 31 日	ドイツ連邦共和国 GEOMAR	Helmholtz Centre for Ocean Research Kiel と部局間交流協定を締結
	6 月 25 日	中華民国（台湾）国立東華大学環境学院と部局間交流協定を締結 （～2018(平成 30)年 3 月 19 日）
	9 月 21 日	(株)星野リゾート・トマム及び占冠村との間で連携協定を締結
	12 月 27 日	大韓民国成均館大学校と大学間交流協定を締結
2013（平成25）年	1 月 22 日	アメリカ合衆国ユタ大学大学院・ナノ研究所と部局間交流協定を締結
	1 月 23 日	中華民国（台湾）国立成功大学と大学間交流協定を締結
	7 月 29 日	北海道コカ・コーラボトリング株式会社との間で連携協定を締結
2014（平成26）年	2 月 5 日	マレーシア　マレーシア・サバ大学熱帯生物保全研究所と部局間交流協定を締結
	3 月 20 日	インドネシア共和国バンドン工科大学と大学間交流協定を締結
	7 月 16 日	フィリピン共和国フィリピン大学と大学間交流協定を締結
	9 月 29 日	マレーシア マレーシア大学テレンガヌ校海洋科学・環境科学部と部局間交流協定を締結
2015（平成27）年	2 月 16 日	ノルウェー王国オスロ大学地球科学科と部局間交流協定を締結
	12 月 28 日	中華人民共和国香港科技大学理学院と部局間交流協定を締結
2016（平成28）年	3 月 17 日	アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリプス海洋研究所と部局間交流協定を締結
	4 月 12 日	マレーシア マレーシア・サバ大学と大学間交流協定を締結
2017（平成29）年	6 月 7 日	中華民国（台湾）国立東華大学と大学間交流協定を締結
	7 月 13 日	ノルウェー王国オスロ大学数学・自然科学部と部局間交流協定を締結（～2023 (令和 5)年 8 月 10 日）
	10 月 23 日	中華人民共和国華東師範大学地球科学部と部局間交流協定を締結
	10 月 26 日	イタリア共和国トリノ大学農学，森林科学及び食品科学部と部局間交流協定を締結
2018（平成30）年	1 月 15 日	インド インド工科大学ボンベイ校と大学間交流協定を締結
	2 月 27 日	インドネシア共和国イスラム大学数学・自然科学部と部局間交流協定を締結（～2024 (令和 6)年 1 月 17 日）
	3 月 26 日	インド インド工科大学マドラス校と大学間交流協定を締結
	4 月 2 日	インド インド工科大学ハイデラバード校と大学間交流協定を締結
	7 月 26 日	ロシア連邦　北東連邦大学と部局間交流協定を締結（～2020(令和 2)年 4 月 15 日）
2019（令和元）年	10 月 15 日	中華人民共和国武漢紡織大学化学・化学工学院と部局間交流協定を締結
2020（令和 2）年	2 月 27 日	タイ王国ヴィデャシリメディ科学技術大学と学術交流協定を締結
2024（令和 6）年	1 月 5 日	インドネシア共和国ハサヌディン大学数学自然科学部と部局間交流協定を締結
	1 月 18 日	インドネシア共和国イスラム大学数学・自然科学部および土木工学・計画学部と部局間交流協定を締結
	5 月 9 日	ベトナム国家大学ホーチミン校自然科学大学 物理・工学物理学部と部局間交流協定を締結
	11 月 5 日	中華民国（台湾）国立中央大学工学院及び理学院と部局間交流協定を締結（参画）
	11 月 12 日	中華人民共和国大連理工大学化工学院と部局間交流協定を締結

2　歴代研究科長，学院長・研究院長

職　　名	氏　　名	在　　任　　期　　間
大学院環境科学研究科長	関　　清　秀	1977（昭和 52）年 4 月 1 日～1979（昭和 54）年 3 月 31 日
	高　桑　栄　松	1979（昭和 54）年 4 月 1 日～1980（昭和 55）年 3 月 31 日
	明　道　　博	1980（昭和 55）年 4 月 1 日～1982（昭和 57）年 3 月 31 日
	太　田　　實	1982（昭和 57）年 4 月 1 日～1986（昭和 61）年 3 月 31 日
	伊　藤　浩　司	1986（昭和 61）年 4 月 1 日～1990（平成 2）　年 3 月 31 日
	黒　柳　俊　雄	1990（平成 2）　年 4 月 1 日～1992（平成 4）　年 3 月 31 日
	小　島　　豊	1992（平成 4）　年 4 月 1 日～1993（平成 5）　年 3 月 31 日
大学院地球環境科学研究科長	堀　　浩	1993（平成 5）　年 4 月 1 日～1995（平成 7）　年 3 月 31 日
	戸　倉　清　一	1995（平成 7）　年 4 月 1 日～1998（平成 10）年 3 月 31 日
	西　　則　雄	1998（平成 10）年 4 月 1 日～2002（平成 14）年 3 月 31 日
	池　田　元　美	2002（平成 14）年 4 月 1 日～2005（平成 17）年 3 月 31 日
大学院環境科学院長・大学院地球環境科学研究院長	池　田　元　美	2005（平成 17）年 4 月 1 日～2007（平成 19）年 3 月 31 日
	岩　熊　敏　夫	2007（平成 19）年 4 月 1 日～2009（平成 21）年 3 月 31 日
	南　川　雅　男	2009（平成 21）年 4 月 1 日～2011（平成 23）年 3 月 31 日
	嶋　津　克　明	2011（平成 23）年 4 月 1 日～2013（平成 25）年 9 月 30 日
	久　保　川　厚	2013（平成 25）年 10 月 1 日～2017（平成 29）年 9 月 30 日
	大　原　　雅	2017（平成 29）年 10 月 1 日～2021（令和 3）年 9 月 30 日
	谷　本　陽　一	2021（令和 3）年 10 月 1 日～2025（令和 7）年 9 月 30 日
	小　西　克　明	2025（令和 7）年 10 月 1 日～

３　教員組織

学院長　　谷本　陽一
副学院長　　小西　克明
学院長補佐　　山中　康裕

6.4.1現在

専　　攻	コ　ー　ス	教　　授	准　教　授	講　　師	助　　教	助　　手
環境起学専攻 専攻長 露崎　史朗	人間・生態システム	露崎　史朗 渡邉　悌二	石川　　守 佐藤　友徳 根岸淳二郎 早川　裕弐 先崎　理之			
	環境適応科学	野呂 真一郎	豊田　和弘		LIU　TONG *鄭　　キン* *齋藤　結大*	
	実践環境科学	山中　康裕			*平田　貴文*	
	国際環境保全	沖野　龍文	ガルシア モリノス, ホルヘ ラム, アバタル			
地球圏科学専攻 専攻長 西岡　　純	生物地球化学	力石　嘉人 鈴木　光次 山本　正伸 西岡　　純	山下　洋平 渡辺　　豊 関　　宰 亀山　宗彦 入野　智久 滝沢　侑子		宮﨑　雄三 岩崎　晋弥	
	雪氷・寒冷圏科学	渡辺　　力 グレーベ, ラルフ・ ギュンター 杉山　　慎	飯塚　芳徳 ポドリスキ, エブゲニ 白岩　孝行		的場　澄人 下山　　宏 箕輪　昌紘	
	大気海洋物理学・気候力学	谷本　陽一 **大島慶一郎** 江淵　直人 三寺　史夫 深町　　康 堀之内　武 藤原　正智	青木　　茂 富田　裕之 安成　哲平 河谷　芳雄	中村　知裕	水田　元太 松田　拓朗 豊田　威信 川島　正行 中山　佳洋	

専　　攻	コ　ー　ス	教　　授	准　教　授	講　　師	助　　教	助　　手
生物圏科学専攻 専攻長 田中　亮一	植物生態・多様性生物学	相場慎一郎	工藤　　岳		久保　拓弥	
	生態遺伝学	越川　滋行 内海　俊介			早川　卓志 佐藤　安弘	吉田　磨仁
	分子生物学	**福井　　学** 森川　正章 山口　良文 田中　亮一 三輪　京子	笠原　康裕 落合　正則 堀　　千明		小島　久弥 鷲尾　健司 曽根　正光 渡邉　友浩 高林　厚史 伊藤　　寿 山内彩加林 小野　清美	
	動物生態学	野田　隆史	小泉　逸郎		大舘　智志	
	海洋生物生産学	工藤　　勲 高木　　力	芳村　　毅 浦　　和寛			
	水圏生物学	長里千香子 仲岡　雅裕 宮下　和士 宗原　弘幸 四ツ倉典滋	伊佐田智規 南　　憲吏 萩原　聖士		山本　　潤 市原　健介	
	森林圏フィールド科学	吉田　俊也 中村　誠宏 揚妻　直樹 高木健太郎 中路　達郎	車　　柱榮 岸田　　治 福澤加里部 小林　　真 植竹　　淳		野村　　睦 大平　　充 倉田　正観	
	耕地圏科学	星野洋一郎 後藤　貴文	中村　　剛 河合　正人		平田　聡之	

専　　攻	コ　ー　ス	教　　授	准　教　授	講　　師	助　　教	助　　手
環境物質科学専攻 専攻長 神谷　裕一	生体物質科学	小野田　晃	山田　幸司 梅澤　大樹		諸角　達也	
	ナノ環境材料	小西　克明 八木　一三 神谷　裕一	廣川　　淳 七分　勇勝 加藤　　優 大友　亮一		中田　　耕	
	光電子科学	ビジュ， ヴアスデヴアン　ピライ **中村　貴義**	髙野　勇太		髙橋　仁徳 薛　晨 黄　端康 岡本　拓也 呉　佳氷	
	環境触媒化学	中島　清隆 高草木　達	菅沼　学史 武安光太郎		大須賀遼太 魯 邦	

※　*斜体*は特任教員・**ゴシック**は再雇用教員を示す。

4　事務組織

6.4.1現在

環境科学事務部	担　当	係　長	主　任	一般職員	特命職	契約職員等
事務長 原田　由美	総　務	山口なつみ 山下　昌利		岩下　　僚	澤田　浩一	小坂　繭子（事務補佐員） 浜口　徳子（事務補助員）
	教　務	芳岡　英美	伊藤　淑恵	黄　　荔 都築　啓子		渡辺智恵子（事務補助員） コール知枝（事務補助員）
	会　計	佐々木 晃裕	松川　晶子	柳澤　仁美		商　かおり（事務補助員）
	図　書	佐々木　圭				

研究院長室秘書	明戸　要枝（事務補佐員）

5　各種委員会

6.4.1現在

委員会名	環境起学	地球圏科学	生物圏科学	環境物質科学	副学院長 学院長補佐	職指定			事務選出委員	事務所掌	備考
専攻長会議	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			総務担当	申合せで明記
学院人事委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			総務担当	
教務委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長	全学教務委員		教務担当	内規で明記
入学試験委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			教務担当	内規で明記
点検評価委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長		事務長	総務担当	内規で明記
将来計画委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長			総務担当	
安全管理委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長		事務長	会計担当	
広報委員会	豊田　和弘	渡辺　　豊	相場慎一郎	加藤　　優		学院長				総務担当	
WEBサイト管理委員会	露崎　史朗 佐藤　友徳	亀山　宗彦 中山　佳洋	吉田　麿仁 鷲尾　健司	加藤　　優 菅沼　学史	学院長補佐					総務担当	各専攻２名
学生委員会	豊田　和弘	渡辺　　力	三輪　京子	神谷　裕一	学院長補佐			全学学生委員		教務担当	内規で明記
留学生委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長	英語プログラム運営委員会委員長		教務担当	内規で明記
ハラスメント防止委員会	露崎　史朗	西岡　　純	田中　亮一	神谷　裕一	副学院長 学院長補佐	学院長	専攻長	全学ハラスメント予防推進員		教務担当	
英語プログラム運営委員会	根岸淳二郎	堀之内　武	内海　俊介	小野田　晃	学院長、副学院長、学院長補佐から１名			学院長が必要と認める者		教務担当	沖野龍文 露崎史朗 豊田和弘
コース代表教員	渡邉　悌二 野呂真一郎 山中　康裕 沖野　龍文	鈴木　光次 杉山　　慎 藤原　正智	相場慎一郎 内海　俊介 山口　良文 小泉　逸郎 高木　　力 長里千香子 中路　達郎 星野洋一郎	小野田　晃 八木　一三 ビジュ,ヴアスデヴアン　ピライ 中島　清隆							

Ⅱ　学生の受入

Ⅱ　学生の受入

６　入学試験

令和６年度

特別推薦入試：修士課程（博士前期課程）生物圏科学専攻・環境物質科学専攻
令和５年５月 22 日（月）

秋季入試：博士後期課程　令和５年８月 22 日（火）
23 日（水）
修士課程（博士前期課程）　令和５年８月 22 日（火）
23 日（水）

秋季推薦／特別入試：修士課程（博士前期課程）
令和５年 11 月 15 日（水）

春季入試：博士後期課程　令和６年２月 19 日（月）
修士課程（博士前期課程）　令和６年２月 19 日（月）
２月 20 日（火）

１０月入学入試：博士後期課程　令和５年８月 22 日（火）
23 日（水）
修士課程（博士前期課程）　令和５年８月 22 日（火）
23 日（水）

入試説明会

第１回　令和５年５月 21 日（日）
第２回　令和５年５月 23 日（火）
第３回　令和５年６月 10 日（土）
第４回　令和５年 10 月 15 日（日）
第５回　令和５年 10 月 17 日（火）
第６回　令和５年 12 月５日（火）

7　学生定員と現員の推移

7－1　入学定員

① 博士後期課程　（単位：人）

専攻	定員数
環境起学専攻	15
地球圏科学専攻	14
生物圏科学専攻	23
環境物質科学専攻	11
計	63

② 修士課程（博士前期課程）　（単位：人）

専攻	定員数
環境起学専攻	44
地球圏科学専攻	35
生物圏科学専攻	52
環境物質科学専攻	28
計	159

７－２　入学者数

① 博士後期課程

（単位：人（%））

専　攻	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
環境起学専攻	11 （73%）	7 （47%）	17（113%）	11（73%）	14（93%）	18（120%）
地球圏科学専攻	8 （57%）	10 （71%）	7（50%）	6（43%）	6（43%）	13（93%）
生物圏科学専攻	8 （35%）	16 （70%）	25（109%）	19（83%）	20（87%）	19（83%）
環境物質科学専攻	14（127%）	3 （27%）	6（55%）	13（118%）	9（82%）	21（191%）
計	41 （65%）	36 （57%）	55（87%）	49（78%）	49（78%）	71（113%）

② 修士課程（博士前期課程）

（単位：人（%））

専　攻	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
環境起学専攻	41（93%）	28（64%）	28（64%）	30（68%）	29（66%）	22（50%）
地球圏科学専攻	27（77%）	32（91%）	37（106%）	29（83%）	32（91%）	34（97%）
生物圏科学専攻	54（104%）	80（154%）	70（135%）	63（121%）	59（113%）	64（123%）
環境物質科学専攻	35（125%）	29（104%）	25（89%）	39（139%）	23（82%）	34（121%）
計	157（99%）	169（106%）	160（100%）	161（101%）	143（90%）	154（97%）

（注１）（　）は，入学定員に対する充足率を示す。

（注２）１０月入学者数を含む。

７－３　在籍者数

① 博士後期課程

（単位：人）

専　攻	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
環境起学専攻	44	39	42	47	44	55
地球圏科学専攻	26	34	37	37	27	29
生物圏科学専攻	53	50	59	70	80	81
環境物質科学専攻	26	31	28	30	27	35
計	149	154	166	184	178	200

② 修士課程（博士前期課程）

（単位：人）

専　攻	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
環境起学専攻	78	68	60	63	63	61
地球圏科学専攻	64	64	73	71	62	67
生物圏科学専攻	114	147	149	137	126	125
環境物質科学専攻	68	66	55	63	66	62
計	324	345	337	334	317	315

（注）各年度５月１日現在の数

８　留学生数の推移と支援体制

８－１　留学生数（全体）

① 博士後期課程

（単位：人）

専　攻	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
環境起学専攻	30	22	37	36	33	39
地球圏科学専攻	13	15	11	15	9	10
生物圏科学専攻	12	7	11	21	28	34
環境物質科学専攻	17	15	24	20	20	26
計	72	59	83	92	90	109

② 修士課程（博士前期課程）

（単位：人）

専　攻	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
環境起学専攻	44	20	32	30	29	29
地球圏科学専攻	7	5	15	9	7	4
生物圏科学専攻	12	8	15	14	17	11
環境物質科学専攻	20	19	19	20	25	21
計	83	52	81	73	78	65

（注）各年度５月１日現在の数

8－2　留学生数（国別）

（単位：人）

地域	日本語による国名・地域名	留学生数	
		博士後期	修士
アジア	インド	9	2
	インドネシア	2	3
	タイ	1	
	大韓民国		1
	台湾	1	1
	中華人民共和国	60	40
	ネパール	2	
	パキスタン	1	1
	バングラデシュ	10	4
	フィリピン	2	
	ブルネイ	1	
	ベトナム	1	
	香港	1	1
	マレーシア	4	
	モンゴル	1	
	ラオス	1	
アフリカ	ウガンダ		1
	エルサルバドル	1	
	オマーン		1
	ガーナ	2	
	コロンビア		1
	ザンビア	1	
	タンザニア	1	
	ナイジェリア	1	
	マダガスカル		1
	マラウイ	1	
	南アフリカ	1	
	モザンビーク		2
	リベリア	1	
	ルワンダ		1
北米	アメリカ合衆国	2	
	カナダ		1
中南米	ブラジル		1
	ボリビア		1
ヨーロッパ	北マケドニア		1
	ルーマニア		1
	ロシア	1	
計		109	65

（注）令和６年５月１日現在の数

８－３　留学生の支援体制

（１）英語プログラム（EPEES: English Program of Environmental Earth Science for a Sustainable Society）による留学生の受入

オンライン等による渡日前入学制度を利用して８名（修士課程１名、博士後期課程７名）が入学した。

（２）JICAプログラム（インド工科大学ハイデラバード校　日印産学研究ネットワーク構築支援プロジェクト（フェーズ２）、ABEイニシアティブ、SDGsグローバルリーダー）の設定

JICAが設定する審査様式や選考日程に沿って、留学生の募集・選考（大学情報の作成や書類審査とテレビ会議による面接）を実施し、令和６年４月に３名（博士後期課程１名、修士課程２名）、令和６年１０月に４名（研究生４名）が入学した。

（３）北海道大学私費外国人留学生特待プログラムによる博士後期課程学生の支援

北海道大学が入学金・学費相当額を支援，受入れ研究者が年間１００万円を超える研究補助員経費を負担する制度により、４名（継続２名，新規２名）の私費留学生を受入れた。

なお、地球環境科学研究院では、毎年２名相当分について教員共通経費を充てる制度を設けている。

また、令和６年度末に研究発表会を行い研究成果の報告が行われた。

Ⅲ　教育活動

Ⅲ　教育活動

９　専攻・コース編成

環 境 起 学 専 攻（４コース）

人間・生態システムコース
環境適応科学コース
実践環境科学コース
国際環境保全コース

地 球 圏 科 学 専 攻（３コース）

生物地球化学コース
大気海洋物理学・気候力学コース
雪氷・寒冷圏科学コース

生 物 圏 科 学 専 攻（９コース）

植物生態・多様性生物学コース
生態遺伝学コース
分子生物学コース
動物生態学コース
海洋生物生産学コース
水圏生物学コース
森林圏フィールド科学コース
耕地圏科学コース

環境物質科学専攻（４コース）

生体物質科学コース
ナノ環境材料コース
光電子科学コース
環境触媒化学コース

１０　カリキュラム編成

修了要件

修士課程：必修科目１２単位を含み，合計３０単位以上修得することを修了の要件とする。
ただし，環境物質科学専攻においては，必修科目１８単位，選択必修科目から８単位以上を含み，合計３０単位以上を修得すること。なお，環境物質科学実習Ⅰ及び環境物質科学実習Ⅱの単位は，修了に必要な単位数に算入することができない。

博士後期課程：必修科目１２単位を修得すること。

環境起学専攻

修士課程

（必修科目）

・ 環境起学論文講読Ⅰ　４単位
・ 環境起学特別研究Ⅰ　８単位

（選択科目）　※基礎論・総論・特論・特別講義は２単位

・ 環境科学基礎論　国際環境保全学総論　自然環境学総論　再生可能エネルギー総論　環境適応学総論　実践環境科学総論Ⅰ　実践環境科学総論Ⅱ　環境汚染比較特論　地生態資源学特論　気候変動影響特論　水循環学特論　環境情報地理学特論　水資源学特論　流域環境学特論　環境保全学特論　寒冷陸圏環境学特論　応用生態学特論　環境適応学特論　環境計量学特論　実践環境科学特論　国際科学コミュニケーション法特論　環境科学英語ライティング特論
・ 環境起学特別講義Ⅰ　環境起学特別講義Ⅱ　環境起学特別講義Ⅲ
・ 環境解析法演習Ⅰ（２単位）　環境解析法演習Ⅱ（２単位）　山岳環境観測法実習（４単位）　統合自然環境調査法実習（２単位）　統合環境地理調査法実習（４単位）　統合環境分析法実習（４単位）　環境起学基礎演習（１単位）　実践環境科学演習Ⅰ（１単位）　実践環境科学演習Ⅱ（１単位）　実践環境科学実習Ⅰ（１単位）　実践環境科学実習Ⅱ（１単位）　実践環境科学インターンシップⅠ（２単位）　実践環境科学インターンシップⅡ（２単位）

博士後期課程

（必修科目）

・ 環境起学論文講読Ⅱ　４単位
・ 環境起学特別研究Ⅱ　８単位

地球圏科学専攻

修士課程

（必修科目）

・ 地球圏科学論文講読Ⅰ　４単位
・ 地球圏科学特別研究Ⅰ　８単位

（選択科目）　※基礎論・総論・特論・特別講義は２単位

- 古環境学基礎論　地球雪氷学基礎論　大気海洋物理学基礎論　大気海洋化学基礎論　生物地球化学基礎論　北極域総論
- 古気候学特論　化学海洋学特論　海洋生物地球化学特論　生態系環境科学特論　生態系物質循環学特論　氷河・氷床学特論　雪氷水文学特論　寒冷圏気象・気候学特論　理論雪氷学特論　大気環境科学特論　極域海洋学特論　大気力学特論　海洋力学特論　気候変動特論　気候モデリング特論　地球流体力学特論　大気海洋解析法特論　遠隔情報学特論
- 地球圏科学特別講義Ⅰ　地球圏科学特別講義Ⅱ　地球圏科学特別講義Ⅲ　地球圏科学特別講義Ⅳ
- 地球圏科学演習Ⅰ（４単位）　地球圏科学演習Ⅱ（４単位）　地球圏科学実習Ⅰ（４単位）　地球圏科学実習Ⅱ（４単位）　地球雪氷学実習Ⅰ（２単位）　地球雪氷学実習Ⅱ（２単位）

博士後期課程

（必修科目）

- 地球圏科学論文講読Ⅱ　４単位
- 地球圏科学特別研究Ⅱ　８単位

生物圏科学専攻

修士課程

（必修科目）

- 生物圏科学論文講読Ⅰ　４単位
- 生物圏科学特別研究Ⅰ　８単位

（選択科目）　※基礎論・特論・特別講義は２単位

- 多様性生物学基礎論　生態学基礎論　分子生物学基礎論　海洋生物環境学基礎論　フィールド科学基礎論　北方生態系の生物多様性基礎論　生物生産学基礎論
- 植物生態・多様性生物学特論Ⅰ　植物生態・多様性生物学特論Ⅱ　生態遺伝学特論Ⅰ　生態遺伝学特論Ⅱ　環境分子生物学特論Ⅰ　環境分子生物学特論Ⅱ　動物生態学特論Ⅰ　動物生態学特論Ⅱ　海洋生物圏環境科学特論Ⅰ　海洋生物圏環境科学特論Ⅱ　水圏科学特論Ⅰ　水圏科学特論Ⅱ　森林圏科学特論Ⅰ　森林圏科学特論Ⅱ　森林圏科学特論Ⅲ　森林圏科学特論Ⅳ　耕地圏科学特論Ⅰ　耕地圏科学特論Ⅱ
- 生物圏科学特別講義Ⅰ　生物圏科学特別講義Ⅱ
- 生物圏科学実習Ⅰ（４単位）　生物圏科学実習Ⅱ（４単位）　フィールド科学特別実習Ⅰ（１単位）　フィールド科学特別実習Ⅱ（１単位）

博士後期課程

（必修科目）

- 生物圏科学論文講読Ⅱ　４単位
- 生物圏科学特別研究Ⅱ　８単位

環境物質科学専攻

修士課程

（必修科目）

・ 環境物質科学論文講読Ⅰ　４単位
・ 環境物質科学特別研究Ⅰ　８単位
・ 環境物質科学基礎論Ⅰ　環境物質科学基礎論Ⅱ　環境物質科学基礎論Ⅲ　各２単位

（選択必修科目）各２単位

・ 分子環境学特論Ⅰ　生体物質科学特論Ⅰ　生体物質科学特論Ⅱ　ナノ環境材料化学特論Ⅰ　ナノ環境材料化学特論Ⅱ　ナノ環境材料化学特論Ⅲ　光電子科学特論Ⅰ　光電子科学特論Ⅱ　環境触媒化学特論Ⅰ　環境触媒化学特論Ⅱ

（選択科目）　※実習は４単位，特論は２単位，特別講義は１単位

・ 分子環境学特論Ⅱ　分子環境学特論Ⅲ
・ 環境物質科学特別講義Ⅰ　環境物質科学特別講義Ⅱ　環境物質科学特別講義Ⅲ　環境物質科学特別講義Ⅳ
・ 環境物質科学実習Ⅰ　環境物質科学実習Ⅱ

博士後期課程

（必修科目）

・ 環境物質科学論文講読Ⅱ　４単位
・ 環境物質科学特別研究Ⅱ　８単位

環境科学院共通科目

修士課程

（選択科目）

・環境科学総論　（２単位）　環境科学研究基礎論（１単位）
・国際環境科学実習Ⅰ（１単位）　国際環境科学実習Ⅱ（１単位）　国際環境科学研究Ⅰ（２単位）　国際環境科学研究Ⅱ（２単位）

博士後期課程

（選択科目）

・国際環境科学特別研究Ⅰ（２単位）　国際環境科学特別研究Ⅱ（２単位）　国際環境科学特別研究Ⅲ（２単位）

１１　本学大学院（環境科学院以外）での講義・演習

環境起学専攻

部局等名	授業科目名	単位数	責任教員	本学院における担当教員	本学院教員の担当コマ数（1コマ＝1.5時間）
One Health フロンティア卓越大学院 Ally コース運営委員会	食品中の重金属や放射性核種による健康への慢性的な影響について見積もる Estimate chronic health effects of heavy metals and radionuclides in food.	2	豊田　和弘	豊田　和弘	30

地球圏科学専攻

なし

生物圏科学専攻

部局等名	授業科目名	単位数	責任教員	本学院における担当教員	本学院教員の担当コマ数（1コマ＝1.5時間）
理学院	多様性生物学研究法	2	高木　昌興	内海　俊介	1
				仲岡　雅裕	1
				四ツ倉典滋	1
				大舘　智志	1
理学院	多様性生物学概論	2	小亀　一弘	先崎　理之	1
				野田　隆史	2
				越川　滋行	2
				相場慎一郎	2
				佐藤　安弘	2

環境物質科学専攻

なし

１２　大学院共通授業科目での講義・演習

環境起学専攻

講義名	単位数	責任教員	本学院における担当教員	本学院教員の担当コマ数（1コマ＝1.5時間）
One program for Global Goals SDGs 実習：スプリングスクール in ASEAN	2	当真　要	根岸淳二郎	3
One program for Global Goals SDGs 実習：サマースクール in Japan	2	当真　要	根岸淳二郎	3
One program for Global Goals SDGs 演習：課題解決に向けた国際共修 PBL（プレゼンテーション）	1	藤田　修	根岸淳二郎	1
環境汚染比較特論	2	豊田　和弘	豊田　和弘	15
環境科学総論	2	渡邉　悌二	渡邉　悌二 露崎　史朗 佐藤　友徳 相場慎一郎	10
環境科学総論（日本語版）	2	山中　康裕	山中　康裕 先崎　理之 廣川　　淳	15
実践環境科学チーム活動演習	1	山中　康裕	山中　康裕	15
実践環境科学チーム活動実習	1	山中　康裕	山中　康裕	15
SDGs からポスト SDGs を目指して	1	沖野　龍文	沖野　龍文 Ram AVTAR LIU Tong	6
Fundamental Course in Environmental Science	2	Jorge García Molinos	露崎　史朗 沖野　龍文 根岸淳二郎 佐藤　友徳 早川　裕弐 Ram Avtar Liu Tong Jorge García-Molinos 先崎　理之 平田　貴文	12
国際環境保全学総論	2	沖野　龍文	沖野　龍文 Ram Avtar Jorge Garcia Molinos 石川　　守 野呂真一郎 早川　裕弐 渡辺　悌二	12

生態学基礎論	2	越川　滋行	小亀　一弘 増田　隆一 野田　隆史 久保　拓弥 先崎　理之 越川　滋行 相場　慎一郎	1
北方生態系の生物多様性基礎論	2	工藤　岳	野田　隆史 工藤　岳 大舘　智志 星野　洋一郎 高木　健太郎 揚妻　直樹 中路　達郎 岸田　治 内海　俊介 小林　真 小泉　逸郎 中村　剛 先崎　理之 植竹　淳 相場　慎一郎	1
Cryospheric Modelling (1)/(2)	2	SUGIYAMA Shin	Thomas Vikhamar SCHULER SUGIYAMA Shin Ralf GREVE Evgeny PODOLSKIY ISHIKAWA Mamoru	12

地球圏科学専攻

講義名	単位数	責任教員	本学院における担当教員	本学院教員の担当コマ数（1コマ＝1.5時間）
南極学特別講義 I	2	青木　　茂	杉山　　慎 青木　　茂 山本　正伸	7
南極学特別講義 II	2	杉山　　慎	杉山　　慎 福井　　学 グレーベ　ラルフ	2
南極学特別実習 I（スイス氷河実習）	2	杉山　　慎	杉山　　慎 白岩　孝行	25
南極学特別実習 II（サロマ湖海氷実習）	2	青木　　茂	青木　　茂 豊田　威信 水田　元太	25
南極学特別実習 III（野外行動技術実習）	2	杉山　　慎	杉山　　慎 白岩　孝行 下山　　宏	17

南極学特別実習 IV（母子里雪氷学実習）	2	箕輪　昌紘	渡辺　　力 杉山　　慎 グレーベ　ラルフ 白岩　孝行 飯塚　芳徳 ポドリスキ　エヴゲニ 的場　澄人 下山　　宏 箕輪　昌紘	30

生物圏科学専攻

講義名	単位数	責任教員	本学院における担当教員	本学院教員の担当コマ数（1コマ＝1.5時間）
北方生態系の生物多様性基礎論（英語）	2	工藤　　岳	工藤　　岳 小泉　逸郎 中路　達郎 先崎　理之 大舘　智志 小林　　真 野田　隆史 岸田　　治 星野洋一郎 内海　俊介 高木健太郎 相場慎一郎 中村　　剛 揚妻　直樹 植竹　　淳	15
多様性生物学基礎論	2	小泉　逸郎	小泉　逸郎	2
			早川　卓志	2

環境物質科学専攻

講義名	単位数	責任教員	本学院における担当教員	本学院教員の担当コマ数（1コマ＝1.5時間）
SDGs 実習：インドにおける特定課題研究（STSI）	2	藤田　　修	ビジュ バスデバン ピライ 小西　克明	2
SDGs 実践科目：STSI 長期特定課題研究（STSI）	2	藤田　　修	ビジュ バスデバン ピライ 小西　克明	2
SDGs 実習：STSI 短期特定課題研究（STSI）	2	藤田　　修	ビジュ バスデバン ピライ 小西　克明	2

１３　公開コースの開催

１３－１　令和６年度　OGGｓ（One program for Global Goals）PARE コース

本プログラムは、文部科学省が行う「大学の世界展開力強化事業」の一つとして平成24年度からPAREプログラムとして実施された。現在は、OGGｓプログラムの一つとして農学院、環境科学院、工学院、水産科学院、情報科学院との共同で、タイの4大学とインドネシアの3大学と大学院教育コンソーシアムを形成し継続実施している。令和6年度においては、OGGｓプログラムに関連したSDGs基礎論に環境科学院から計5名受講し、全体では59名の受講であった。また、サマースクール（SDGs実習in Japan）は北海道大学と壮瞥町を拠点に、スプリングスクール（SDGs実習in ASEAN）はタイ（タマサート大学主催）で実施した。環境科学院からはサマースクールに1名およびスプリングスクールに2名参加し、全体ではサマー・スプリングスクールそれぞれに13および28名が参加した。

１３－２　南極学カリキュラム

南極学カリキュラムでは，極域・寒冷圏における環境とその変化、地球環境への影響等について総合的に学ぶ教育プログラムを提供している。令和5年度はプログラムの基幹をなす，南極学特別講義2科目と南極学特別実習4科目を開講し，規定単位を修得したカリキュラム修了者2名に修了証書（Diploma of Antarctic Science）を授与した。各プログラムは、大学院共通科目の他、本学が推進するラーニングサテライト及びサマーインスティチュート科目として開講しており、環境科学院を中心に，学内他分野の大学院生が各プログラムを受講し，学生間交流や幅広い知識獲得の機会となっている。

本カリキュラムは，極域科学教育に関する国際的な枠組みである国際南極大学(International Antarctic Institute)の一翼を成すものであり，国立極地研究所，神戸大学，ETH，ブレーメン大学，タスマニア大学など国内外の研究機関と連携して，国際的な環境教育・研究を推進するものである。

過去5年間の各講義履修者数，および南極学修了証書の取得者数

南極学特別科目	R2	R3	R4	R5	R6
特別講義I	39	57	73	48	36
特別講義II	15	15	15	18	18
特別実習I（スイス氷河実習）	実施せず	実施せず	6	6	8
特別実習II（サロマ湖海氷実習）	実施せず	実施せず	実施せず	実施せず	14
特別実習III（野外行動技術実習）	31	39	42	34	47
特別実習IV（母子里雪氷実習）	7	12	20	7	12
南極学修了証書	6	5	9	10	2

１４　ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）研修

○令和６年度地球環境科学研究院・環境科学院 FD 研修会
「心理的安全性の高いチームとは？：多様性から成果を生み出すために」
開催日時：令和７年１月１０日（金）１６：００～１７：００
出席者数：５０名

Ⅳ　成　　果

１５　学位取得状況

１５−１　博士論文題目一覧

環境起学専攻

Multi-sensor remote sensing techniques for sustainable management of tropical forest and plantations in Northern Borneo（ボルネオ島北部の熱帯林とプランテーションの持続可能な管理のためのマルチセンサーリモートセンシング技術）ANAK SUAB Stanley（国際環境保全）

Rare earth elements in treated wastewater and river water in Sapporo, Japan-emerging micropollutants（札幌市の下水処理水および河川水中の希土類元素―新興微量汚染物質として）AKTAR Zakia（環境適応科学）

The role of microclimate in maintaining species distribution under climate change: a case study of the northern pika（気候変動下の生物分布における微気候の重要性：キタナキウサギにおける検証）崎山　智樹（国際環境保全）

India’s sustainable energy transitions: Analyzing agriculture land - water - solar energy nexus（インドの持続可能なエネルギー転換：農地 - 水 - 太陽エネルギーネクサスの分析）SUPE Hitesh Ghanashyam（国際環境保全）

Multidimensional assessment of structural dynamics in native fish assemblages in lentic habitats and identification of potential conservation areas（止水域における在来魚類群集構造動態の多面的解析および潜在的保全地域の特定）戴　秉国（人間・生態システム）

An integrated analysis of snow and ice avalanche hazards in the Annapurna Conservation Area, Nepal Himalaya （ネパール，アンナプルナ保全地域における雪崩ハザードの統合的分析）ACHARYA Anushilan（国際環境保全）

Cyanoremediation of heavy metals from aqueous solution by live and dead biomass: An eco-sustainable technology（生細胞と死細胞による水溶液からの重金属のシアノレメディエーション：環境に優しい持続可能な技術）HOSSAIN Md Sabbir（国際環境保全）

Developing a comprehensive framework for sustainable mine closure practices in the Copperbelt Province, Zambia（ザンビア，カッパーベルト州における持続可能な鉱山閉鎖の実行のための包括的枠組みの開発）MUTIMBA Kawisha（国際環境保全）

Mapping periglacial landforms in Daisetsuzan National Park, Japan（大雪山国立公園における周氷河地形のマッピング）孟　宇（国際環境保全）

Development of solvatochromic fluorophores incorporating boron complex and application for biothiols detection in live-cell imaging（ホウ素複合体を含むソルバトクロミック蛍光色素の開発と生体内細胞イメージングにおける生体チオール検出への応用）張　帥（環境適応科学）

Enzyme catalysis for algal secondary metabolites: Studies on halogenated compounds

from *Laurencia* spp. and cyanobacterial homotyrosine（藻類の二次代謝における酵素反応：ソゾ類のハロゲン化合物および藍藻のホモチロシンに関する研究）凌　正一（環境適応科学）

Synergy of multi-source remote sensing and multi-model approaches for understanding post-disaster vegetation dynamics and terrain characteristics in Hokkaido, Japan（北海道における災害後の植生動態と地形特性の理解に向けたマルチソースリモートセンシングとマルチモデルアプローチのシナジー）CHEN Xinyu（国際環境保全）

Geospatial analysis of urbanization dynamics and ecosystem services for sustainable urban development in Dhaka city, Bangladesh（バングラデシュのダッカ市における持続可能な都市開発のための都市化動態と生態系サービスの地理空間分析）BHUIYAN Md Alamgir Hossen（国際環境保全）

The mechanism of summer heatwaves over eastern Siberia and its linkage to atmospheric and oceanic variability in the western North Pacific（東シベリアにおける熱波のメカニズムおよび北西太平洋の大気海洋変動との関係）周　習霊（人間・生態システム）

Proposing a geoeducation framework for China’s geoparks through insights derived from Tokachi-Shikaoi Geopark, Japan（とかち鹿追ジオパークからの知見にもとづく中国のジオパークに対するジオ教育の枠組みの提案）向　世柔（国際環境保全）

Development of radar polarimetry techniques for forest biomass retrieval and disturbance detection（森林バイオマス推定と撹乱検知のためのレーダーポラリメトリ技術の開発）RAJAT（国際環境保全）

The contribution of rural natural capital to quality of life of urban-to-rural migrants: combined empirical evidence from national- and municipality-scale studies in Japan using social surveys and geospatial analyses（地域の自然資本による、地方移住者の生活の質向上効果：日本全国および市町村規模の社会調査と地理空間情報解析を用いた統合的実証研究）髙橋　康夫（論文博士）

地球圏科学専攻

A conceptual model for a vortex-pair-driven western boundary current extension jet: background flow effects on the extension jet and implementation into the real environment（渦対強制による西岸境界流続流ジェットの概念モデル：続流ジェットに対する背景流の効果と現実環境への適用））大西　晴夏（大気海洋物理学・気候力学）

Estimation of freshwater discharge into the Northeast Pacific from the Alaskan mountains and its effects on the subtropical and equatorial ventilated thermocline（アラスカ山岳地帯から北東太平洋への淡水流出の推定および亜熱帯と赤道の通気水温躍層への影響）辛　鵬（大気海洋物理学・気候力学）

Study on the origin and atmospheric emission process of secondary fatty alcohols

in aerosols in cool-temperate forests（冷温帯林におけるエアロゾル中の脂肪族第二級アルコールの起源と大気放出に関する研究）崔　羽皓（生物地球化学）

生物圏科学専攻

Studies on alkane degradation and its molecular mechanisms of *Geobacillus kaustophilus* HTA426 isolated from the Mariana Trench（マリアナ海溝から単離された*Geobacillus kaustophilus* HTA426のアルカン分解とその分子機構に関する研究）NITHIMETHACHOKE Tanasap（分子生物学）

Study on the impact of ploidy levels in shaping morphological and biochemical traits in haskap（*Lonicera caerulea* L. subsp. *edulis*）（倍数性レベルがハスカップ（*Lonicera caerulea* L. subsp. *edulis*）の形態学的および生化学的形質に及ぼす影響に関する研究）LI Jixiao（耕地圏科学）

目視手法と受動的音響手法を用いた知床半島周辺海域における海棲哺乳類の時空間分布の解明（Spatial-temporal distribution of marine mammals around Shiretoko Peninsula using sighting survey and passive acoustic methods）古巻　史穂（水圏生物学）

Development of a system for evaluating *Paeonia suffruticosa* pollen viability using deep learning techniques（深層学習を用いた*Paeonia suffruticosa*の花粉稔性の評価システムの開発）ZHANG Mengwei（耕地圏科学）

Variability of macroalgal dissolved organic carbon dynamics: Insights for social-ecology beyond Blue Carbon （大型藻類由来の溶存有機炭素動態の変動性：ブルーカーボンを超える社会生態学的洞察））CARLSON Andrew Kalani（海洋生物生産学）

The roles of subnational and non-state actors in environmental governance : Japan, Russia, and the northern fur seal conservation and management in the North Pacific（環境ガバナンスにおける地方公共団体および非国家主体の役割―日本、ロシア、および北太平洋におけるキタオットセイ保護管理を事例として―）LOMAEVA Marina（水圏生物学）

音響手法を用いたアマモ場による生態系サービスの定量的評価に関する研究（Study on quantitative assessment of ecosystem services by eelgrass beds using acoustic method））伊藤　慶造（水圏生物学）

Relationships between functional traits and tree establishment after landslide disturbances in cool-temperate forests（冷温帯林における山腹崩壊後の樹木定着と機能形質との関係）曾　瑞琪（森林圏フィールド科学）

Effects of Maternal Undernutrition on DNA Methylation, Gene Expression, and Metabolites of Fetal Thymus and Growth in Wagyu（Japanese Black）Cattle（和牛（黒毛和牛）における母牛の低栄養が胎仔胸腺のDNAメチル化、遺伝子発現、代謝産物および成長に及ぼす影響に関する研究）PHOMVISITH Ouanh（耕地圏科学）

Influences of abiotic and biotic factors on plant-plant facilitation toward forest restoration （森林再生に関わる植物間の促進作用への非生物的・生物的要因の影響に関す

る研究）FANG Yuzhuo（生体遺伝学）

Context dependence of species interaction and coexistence: the influence of multiple environmental variables across spatial scales on a rocky intertidal two species system（種間相互作用と共存の状況依存性：岩礁潮間帯の2種系における空間スケールにまたがる複数の環境変数の影響）姚　遠（生物動態学）

Marine mammals in a warming Arctic: Connections with ecosystem, environment and Inuit in Inglefield Bredning, northwest Greenland（温暖化する北極域の海棲哺乳類:北西グリーンランドにおける海洋生態系、環境、イヌイットとのつながり）小川　萌日香（水圏生物学）

Establishment of the in vitro evaluation system for pollen viability in Japanese rice cultivars（日本のイネ品種における花粉稔性のin vitro 評価系の確立）YOHANA Neema Yona（耕地圏科学）

Studies on reconstruction of a functional duckweed holobiont to reduce nutrient competition with microalgae for high-yield biomass production（高収率バイオマス生産に向けたウキクサホロビオントの再構築に関する研究～微細藻類との栄養競合の低減によるウキクサの成長促進）PHAM Huyen Thi Thanh（分子生物学）

Bear marking sites and scats create diverse species interactions: roles in chemical communication and resource use（ヒグマのマーキングサイトと糞が生み出す多様な種間相互作用：化学コミュニケーションと資源利用における役割）勝島　日向子（動物生態学）

Elucidation of the mechanism of the wing color pattern formation in *Drosophila guttifera* from the perspective of tissue formation programs and gene network reorganization（組織形成プログラムと遺伝子ネットワーク再編の視点で明らかにするミズタマショウジョウバエの翅模様形成メカニズム）古関　将斗（生体遺伝学）

緑色植物の進化に伴う光化学系の変遷に関する研究（Studies on the evolutionary changes of photosystems in green plants）亀尾　辰砂（分子生物学）

An integrated study on the molecular mechanisms for sustained photosynthetic thermal dissipation in overwintering yew leaves（越冬中のイチイの葉における光合成の熱放散の分子メカニズムに関する統合的研究）叶　子豪（分子生物学）

Addressing the discrepancy between predicted and observed local extinction of Dolly Varden charr under global warming: the roles of local environments, seasonal timing, and interspecific competition（温暖化による局所絶滅予測と実際の絶滅とのギャップを説明する局所環境、影響する季節、および種間競争：サケ科魚類オショロコマにおける実証）植村　洋亮（動物生態学）

Past, present, and future of Japanese branchiobdellidans: insights into evolutionary history and conservation（日本産ヒルミミズ類の過去・現在・未来：進化史と保全への洞察）今野　友陽（動物生態学）

Species-specific impacts of pollinators and herbivores on the seed production in *Rhododendron* plants（ツツジ属植物の種子生産に及ぼす送粉者と植食者の種特異的影響）高橋　佳吾（多様性生物学）

Spatial perspectives of urbanization-induced plant evolution（都市化が駆動する植物の進化に関する空間的観点に基づいた研究）石黒　智基（生体遺伝学）

Studies on habitat use of ringed seals（*Pusa hispida*）in glacial fjords, northwestern Greenland（グリーンランド北西部の氷河フィヨルドにおけるワモンアザラシの生息地利用に関する研究）櫻木　雄太（論文博士）

環境物質科学専攻

Enhancement of the activity and durability of platinum alloy nanowire electrocatalysts for oxygen reduction and evolution reactions（白金合金ナノワイヤー触媒における酸素還元および酸素発生反応に対する活性と耐久性の向上）庄　宇（ナノ環境材料）

Investigation of photoinduced electron transfer from CdSe-CdS and $FAPbBr_3$ nanocrystal assemblies to molecular acceptors（ CdSe-CdSおよび$FAPbBr_3$ナノ結晶集合体から分子受容体への光誘起電子移動の研究）AKTER Rumana（光電子科学）

Accurate and fast predictions of protein structures and properties via protein language models（タンパク質言語モデルによるタンパク質の構造と特性の正確かつ迅速な予測）XU Shijie（生体物質科学）

Development of anion-exchange resin incorporating single metal particles for rapid removal and catalytic decomposition of nitrate in water toward groundwater purification（地下水浄化に向けた水中硝酸イオンの迅速除去と触媒分解のための単一金属粒子を取り込んだ陰イオン交換樹脂の開発）閻　博博（ナノ環境材料）

ゲスト分子離脱を利用した分子結晶の機能開拓（Developing the function of molecular crystals utilising the release of guest molecules）金丸　和矢（光電子科学）

Exploring exciton recombination, migration, and transfer in halide perovskite systems（ハロゲン化物ペロブスカイト系における励起子の再結合、移動、および転移の探求）KHATUN Most Farida（光電子科学）

超分子カチオン構造を利用した結晶の熱膨張制御（Control of thermal expansion of crystals using supramolecular cationic structures）羽田　将人（光電子科学）

スルホンロサミン誘導体による近赤外光機能性有機分子の開拓（Exploration of near-infrared photoactive organic molecules based on sulfone rosamine derivatives）吉田　和矢（光電子科学）

Effective utilization of functional groups on micropore walls for designing materials with enhanced performances in catalysis and sorption（向上した触媒および

吸脱着性能を与える材料設計のためのミクロ細孔壁上の官能基の有効利用）黄　淵（論文博士）

１５－２　修士論文題目一覧

環境起学専攻

Impact of building height changes on land surface temperature using satellite-derived digital building height model: A case of Chinese megacities（衛星由来のデジタル建築高度モデルを用いた建物高さの変化が地表温度に与える影響：中国のメガシティの事例）ZHENG Shilei（国際環境保全）

Exploring the feasibility of UAS-captured trunk point cloud data for estimating tree density and DBH in leaf-off broadleaf forests（UAS による落葉期の広葉樹林での幹部の点群取得に着目した林分密度と胸高直径推定の可能性の評価）清水　嘉人（国際環境保全）

Land-use and land-cover mapping in the Okavango delta and implications for human wildlife conflict（オカバンゴデルタにおける土地利用および土地被覆の測定とそれが人間と野生動物の対立に与える影響に関する研究）馬　培倫（国際環境保全）

Impact of human presence on the vigilance behavior and activity patterns of Japanese pika（*Ochotona hyperborea yesoensis*）at Mount Higashi-nupukaushi-nupuri（東ヌプカウシヌプリ山におけるエゾナキウサギの警戒行動と活動パターンに及ぼす人間の存在の影響）CHAUDHARY Fatima（人間・生態システム）

The characteristics of seed bank composition in the former and current topsoils on Mount Usu, northern Japan（有珠山における旧表土と表土中の埋土種子集団構造の特性）MANDAL Piya（人間・生態システム）

Future changes in the frequency of wind power ramp events in Northeast and South Brazil（ブラジル北東部および南部における風力発電ランプ現象の発生頻度の将来変化）FERREIRA RAMIM Bruna（人間・生態システム）

Weed detection from unmanned aerial vehicle imagery using Deep Learning algorithms（深層学習アルゴリズムを用いたドローン画像からの雑草検出）肖　澤中（国際環境保全）

Bioactive compounds and biopolymer production in cyanobacteria（藍藻における生物活性物質とバイオポリマー生産）ISLAM Tahofima（国際環境保全）

行政担当者による気候変動に関する小学生向け授業の作成　春原　英莉（実践環境科学）

「我々の世界を変革する持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を理解する英語授業の実践　森元　楓（実践環境科学）

Changes in pastoralism since the 1990s in Khumjung Village, Sagarmatha National Park, Nepal（ネパール、サガルマータ国立公園、クムジュン村における 1990 年代以降の牧畜の変化）佐々木　美紀子（国際環境保全）

知床世界自然遺産知床岬地区における海岸漂着物に関する研究　小林　工真（人間・生態システム）

Spatiotemporal patterns of summer temperature in alluvial gravel-bed rivers: gravel bars and groundwater as climate-change adaptation measures（扇状地礫床河川における夏季水温の時空間変動：温暖化適応策としての砂州・地下水）李　恩（人間・生態システム）

都市近郊山地における登山道地形の特徴と利用の分析－札幌市藻岩山を例に－　猪又　雅史（人間・生態システム）

Spatio-temporal variation and underlying mechanism of fish community in a mountain stream（山地河川における魚類群集の時空間変動とその機構）小田　郁実（人間・生態システム）

北海道におけるジオ多様性マップの作成と評価　小野寺　智紀（人間・生態システム）

北海道西岸域に大雪をもたらす大気下層の収束場と総観場の統計解析　小林　健人（人間・生態システム）

Does removal of pleopods provide an easy sterilization method for invasive crayfish?（腹肢の除去は、侵略的外来種のザリガニを簡単に不妊化する手法となるか？）齋藤　淳也（人間・生態システム）

湿原河川における懸濁物質の時間的・空間的変化とその要因　雫田　まき（人間・生態システム）

環境応答性色素で標識したアルギン酸ゲルの開発と評価　前田　渉希（環境適応科学）

Micro-scale diversity of plant communities nearby wind cave（風穴近傍における微小スケールでの植生群落多様性）山口　裕志（人間・生態システム）

自然公園の持続可能な維持管理に向けた市民科学導入の検討：東ヌプカウシヌプリを事例にして　山本　健太（人間・生態システム）

沿道に生息する雄バッタは発音器の数が多い　吉谷　晟（人間・生態システム）

River insect emergence in alluvial gravel-bed rivers: synthetic understanding including channels, subsurface zone, and gravel bars（扇状地河川における水生昆虫羽化場：河道・地下・砂州を含む統合理解）劉　山木（人間・生態システム）

Studies on vanadium-dependent bromoperoxidase-catalyzed biosynthesis of pacifenol（Pacifenol 生合成におけるバナジウム依存型ブロモペルオキシダーゼによる触媒反応に関する研究）胡　文涛（環境適応科学）

光反応性ピリジン配位子を有する Cd 金属錯体の合成と光反応性　立石　新（環境適応科学）

二酸化炭素分離へ向けた金属有機構造体複合膜の作製　陳　潔茹（環境適応科学）

ポリ酸複合キトサンビーズの有機色素吸着分解性能評価　永井　裕規（環境適応科学）

ALACT モデルに基づく、高校における「探究型・教科横断的学習期間」の振り返りの分析　古

谷　知之（実践環境科学）

Household waste audit and analysis of the middle and low-income families in a district of the municipality of Antananarivo, Madagascar（マダガスカル、アンタナナリボ市のある地区における中・低所得世帯の家庭ごみ監査と分析）ANDRIANOELISOA Lalanirina Andrianaivo（国際環境保全）

Spatiotemporal fusion of Unmanned Aerial Vehicle and PlanetScope data for tree species classification across different time intervals（異なる時間間隔にわたる樹種分類のための無人航空機と PlanetScope データの時空間フュージョン）周　紫琪（国際環境保全）

Assessment of radioactive contamination from mining tailings in residential areas near the Moma heavy mineral mine, Mozambique（モザンビークの Moma 重鉱物鉱山付近の居住地域における採掘鉱滓による放射能汚染の評価）DE FIGUEIREDO Joyce Mara（国際環境保全）

Mapping building damage in post-conflict regions using PlanetScope imagery: A case study of Ukraine（PlanetScope 衛星画像を用いた紛争後地域の建物被害評価：ウクライナを事例として）PENG Liuyi（国際環境保全）

Monitoring water quality parameters using satellite data in San Rafael reservoir, Colombia（コロンビア、サンラファエル貯水池における衛星データを用いた水質パラメータのモニタリング）MONROY ROZO Carla Juliana（国際環境保全）

Effects of Urbanization on insect-pollinator communities in Sapporo City（札幌市における都市化が昆虫による受粉者のコミュニティに与える影響）MORILLAS AGREDA Emmilce（国際環境保全）

地球圏科学専攻

漂流フロートから得られたウェッデルジャイア東部の流動構造　芋生　岳史（大気海洋物理学・気候力学）

オーストラリア-南極海盆における塩分経年変化の要因　大畑　茉滉（大気海洋物理学・気候力学）

日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)の日変動　小野澤　健人（大気海洋物理学・気候力学）

日本上空の下部成層圏循環の特徴と変動　清永　敦志（大気海洋物理学・気候力学コ）

東南極リュツォホルム湾とその周辺域における海洋構造の時空間変動　熊谷　侑輝（大気海洋物理学・気候力学）

2014 年 9 月の胆振地方における集中豪雨の研究　佐藤　匡（大気海洋物理学・気候力学）

チベット高原が東アジア夏季モンスーンに与える影響　田口　尚征（大気海洋物理学・気候力学）

都市境界層における運動量輸送に寄与する乱流の構造　中辻　慶輝（大気海洋物理学・気候力学コ）

可視光による蒸発量の全球推定と大気海洋系への影響　中村　充喜（大気海洋物理学・気候力学）

黒潮及び黒潮続流の10年規模変動と日本沿岸潮位変動　橋爪　里瑠（大気海洋物理学・気候力学コ）

南極底層水形成域ケープダンレー沖での海洋・海氷変動：暖水流入・定着氷との関係　町田　柾志（大気海洋物理学・気候力学）

知床半島オホーツク海側沿岸部における海底ゴミの分布と要因　坂口　大晴（雪氷・寒冷圏科学）

グリーンランド氷床南東ドームにおける地中レーダーを用いた融解再凍結層と涵養量の時空間変動　坂田　宙斗（雪氷・寒冷圏科学）

Terminus dynamics of Taku Glacier, Southeast Alaska, during the recent transition from advance to retreat（アラスカ南東部タク氷河が前進から後退に転じた時期の末端変動と流動特性）張　佳晏（雪氷・寒冷圏科学）

グリーンランド北西部カナック氷河におけるUAVを用いた氷河上河川の解析　山田　宙昂(雪氷・寒冷圏科学)

光合成関連遺伝子発現から見た西部北太平洋域における植物プランクトン群集の一次生産力　石田　啓（生物地球科学）

南部オホーツク海における大気および海氷中粒子状鉄の地球化学的特性　岩元　勇太（生物地球化学）

河姆渡文化における最初期稲作を促進した気候と環境　権田　拓弥（生物地球化学）

Spatiotemporal high-resolution dynamics of ocean acidification in the global ocean（全海洋における海洋酸性化の時空間高分解能な動態の解明）蔡　姚俊男（生物地球化学）

オホーツク海および西部北太平洋における懸濁粒子中金属元素の挙動　長井　風輝（生物地球化学）

アミノ酸の安定窒素同位体比を用いた生物の栄養段階推定:糖・脂質摂取の影響評価　舩橋　靖明（生物地球化学）

Factors controlling the concentration of water-soluble pyrogenic carbon in aerosols in Hokkaido, Japan（北海道におけるエアロゾル中の水溶性燃焼起源炭素濃度を制御する要因に関する研究）宮瀬　陸（生物地球科学）

水月湖堆積物を用いた中期完新世の古気候復元　横尾　健人（生物地球化学）

Nitrogen isotope analysis of amino acids: Implication for illustrating the food web structure in freshwater ecosystems（アミノ酸の窒素同位体比分析：淡水生態系の生態構造の可視化への応用）LURETTE Chantal Geri Mei（生物地球化学）

生物圏科学専攻

Effects of human disturbance on the avian conservation potential of abandoned farmland: a case study in Hokkaido, Japan（鳥類保全における耕作放棄地の価値に対する人為攪乱の影響：北海道での事例研究）BUHUS Roxana Georgiana（動物生態学）

海洋性および淡水性の*Nephroselmis*属緑藻を用いた光化学系の適応進化に関する研究　高村有咲（分子生物学）

A trial to construct a co-culture system for duckweed and lactic acid bacteria（ウキクサと乳酸菌の共培養系構築の試み）KOSTADINOV Radovan（分子生物学）

鯨類親子間の腸内マイクロバイオームの比較解析　森　美紀（生態遺伝学）

Microplastic trapping by eelgrass beds and its effects on ingestion by marine invertebrates（アマモ場によるマイクロプラスチックの捕捉と海洋無脊椎動物による取り込みへの影響）伊藤　柚里（水圏生物学）

寄生性昆虫ナガカメネジレバネが宿主体内へ侵入する際の行動　菅藤　隼人（生態遺伝学）

Among-population variation in the feeding specificity of the leaf beetle, *Agelastica coerulea*: the importance of local forest stand composition（ハンノキハムシ（*Agelastica coerulea*）における摂食特殊性の集団間変異：局所的な林分構造の重要性）木立　真凜（生態遺伝学）

ミズタマショウジョウバエにおける Wnt シグナル遺伝子の発現解析　酒井　颯汰（生態遺伝学）

北海道産オオアシトガリネズミの頭骨におけるデーネル現象の検証　諏訪　友葵奈（動物生態学）

全ゲノム上の一塩基変異およびミトコンドリア DNA 配列に基づくジャコウネズミの遺伝的構造と集団史の解明　鳥巣　捷斗（動物生態学）

*Chryseobacterium*属細菌 27AL が生産する殺藍藻活性物質の同定　小山内　巧（分子生物学）

クロロフィル分解酵素の二重の顔　～金属の脱離と挿入の反応機構の解明～　佐藤　颯真（分子生物学）

タイ工場排水を用いた高効率ウキクサバイオマス生産の試み　執行　崇志（分子生物学）

Molecular mechanisms of boron-dependent translation of a putative methyltransferase and its physiological significance in *Arabidopsis thaliana*（シロイヌナズナのメチル基転移酵素におけるホウ素依存的な翻訳制御の機構とその適応的な意義）鈴野　萌花（分子生物学）

資源循環型社会に資するメタン発酵消化液からの植物成長促進細菌の単離とその特徴づけ　武井　陸（分子生物学）

オウシュウトウヒの光化学系Ⅱにおいて低温で誘導される可逆的な活性調節　津久井　天仁（分子生物学）

温泉に生息する硫黄不均化細菌の生理・生態の解明に向けた研究　村井　秀（分子生物学）

電気自動車の導入は鳥類のコミュニケーションに対する自動車騒音汚染の影響を緩和しない　石田　隆悟（動物生態学）

日本全国における人工物への鳥の衝突リスク評価　市原　晨太郎（動物生態学）

数値気象予報モデルと自己組織化マップを用いた猛禽類の渡り予報開発　末田　晃太（動物生態学）

動物群集の長期変化と攪乱イベント：三陸における岩礁潮間帯腹足類群集の 18 年間の変化　奈良　駿佑（動物生態学）

飼育ヒグマの行動パターン研究～行動間の関係と性差に着目して～　布川　里和（動物生態学）

サケ科魚類の模様の有無が集団パフォーマンスにもたらす影響　早川　慧（動物生態学）

底生無脊椎動物群集の湧水・非湧水河川比較　吉野　裕生（動物生態学）

超音波テレメトリー手法を用いた福島県三春ダム（さくら湖）におけるオオクチバス(*Micropterus nigricans*)の行動生態に関する研究　及川　直哉（水圏生物学）

耳石微量元素分析による北海道千歳川におけるブラウントラウト(*Salmo trutta*)の回遊生態の解明　川村　裕太郎（水圏生物学）

産卵時におけるニシン（*Clupea pallasii*）の深度と魚群構造の変化に関する研究　木村　理希（水圏生物学）

音響手法を用いた福島県三春ダム（さくら湖）における藍藻類の分布特性の解明　菅原　大誠（水圏生物学）

日本近海太平洋に来遊するジンベエザメ(*Rhincodon typus*)の回遊生態に関する研究　野間　俊介（水圏生物学）

Bacterial taxa associated with fluorescent dissolved organic matter in the shallow coastal region（沿岸浅海域における蛍光性溶存有機物と関連する細菌分類群）文谷　和歌子（水圏生物学）

ライフサイクルアセスメント(LCA)による昆布養殖業の CO_2 吸収量の実態評価と脱炭素事業の実現可能性の検討 三宅　進歩（水圏生物学）

マイクロプラスチックがマサバ（*Scomber japonicus*）の消化能力と遊泳能力に与える影響について　若林　悠太（水圏生物学）

黒毛和牛における肥育期の飼料の違いが牛肉の組織化学的特性に与える影響に関する研究　菊池　馨（耕地圏科学）

Study on pollen tube behaviors to analyze self-incompatibility using the new culture system with stigma-style extracts in apple cultivars（リンゴ品種における自家不和合性解析のための柱頭-花柱抽出物を添加した新規培養法による花粉管の挙動に関する研究）胡

畔（耕地圏科学）

Relationship between geographical distribution and morphological variations across ploidy levels in *Lonicera caerulea* L. using herbarium specimens（ハスカップの標本を用いた地理的分布と倍数性レベルの違いによる形態学的変異の関係に関する研究）RAMLI Andy（耕地圏科学）

The effects of *Ilex crenata* var. *radicans* shrub patches on plant community structure in a *Sphagnum* bog（ハイイヌツゲ低木パッチがミズゴケ湿原の植物群集構造に与える影響）熊倉　彩花（植物生態・多様性生物学）

Regional variations in the reproductive traits and genetic differentiation in *Heloniopsis orientalis* (Melanthiaceae)（シュロソウ科ショウジョウバカマの繁殖形質の地域変異と遺伝的分化）中林　楓（植物生態・多様性生物学）

異なる遷移段階にある北限域ブナ林の動態　萩原　航紀（植物生態・多様性生物学）

Structure and dynamics of the old-growth forests of Yakushima along elevational gradient: focusing on the coexistence of conifers and broadleaf trees（標高勾配に沿った屋久島原生林の構造と動態：針葉樹と広葉樹の共存に焦点を当てて）秦　大平（植物生態・多様性生物学）

Seasonal variations and controlling factors of C:N:P:Si ratios in size-fractionated particulate organic matter in Akkeshi Bay（厚岸湾におけるサイズ別粒子状有機物のC:N:P:Si 組成比の季節変動及びその制御要因の解明）SUI Zhihao（海洋生物生産学）

北海道忍路湾における大型海藻の栄養塩取り込みに与える水温上昇の影響評価　中源　理菜（海洋生物生産学）

魚類の群形成が遊泳運動と移動コストに与える影響　中村　隆之（海洋生物生産学）

音響テレメトリーによるマナマコ（*Apostichopus japonicus*）の移動追跡と生息環境の影響解析　仁田　ゆき（海洋生物生産学）

噴火湾ホタテガイ養殖海域におけるケイ酸濃度調節による有毒渦鞭毛藻抑制効果　則武　佑奈（海洋生物生産学）

貝殻含有石炭灰固化体が海水のpHと栄養塩環境に与える影響　深瀬　健斗(海洋生物生産学)

海藻群落をウニで造る～ウニ殻の利活用方法～　丸山　恒哉（海洋生物生産学）

分離型アンサンブルカルマンフィルタ（SPEEnKF）を用いた網地の流体力係数推定とトロール漁具の形状制御技術開発　八重樫　健吾（海洋生物生産学）

Exploring the eco-evolutionary feedback in the wild: an arboreal eDNA approach（野外生態－進化フィードバックの解明：樹上環境DNAアプローチ）大熊　普賢（生態遺伝学）

First descriptive study on life history of a heterotardigrade using an individual breeding method（個体繁殖法を用いた異クマムシ綱の生活史に関する初の記載的研究）久場麻未（森林圏フィールド科学）

苫小牧研究林における緑雪中の雪氷藻類の発生起源とその分布特性　XIA Yuhong（森林圏フィールド科学）

ミズナラの育林：かき起こし地への堅果散布による更新および初期保育　原谷　日菜（森林圏フィールド科学）

Landscape-scale evaluation of inter-decadal forest biomass change and the legacy effect using repeated airborne LIDAR surveys in a cool-temperate forest（航空機反復LIDAR測量による10年スケール2時期の北方林バイオマスの変化量と履歴影響の景観スケール評価）細田　理仁（森林圏フィールド科学）

都市における植物の被食防衛物質の喪失進化がハナバチ類に及ぼす影響 ： 形態, 行動, 腸内細菌に着目して　松井　悠眞（生態遺伝学）

Predator-induced morphological traits determine escape performance in a larval amphibian species（捕食者に誘導された形態が両生類幼生の逃避パフォーマンスを決定する）松浦〔福田〕　なる（森林圏フィールド科学）

環境物質科学専攻

Interfacial anion exchange control in halide perovskite heterojunctions（ハライドペロブスカイトヘテロ接合における界面でのアニオン交換制御）夏　一菲（光電子科学）

Protein-gold nanoparticle conjugation through N-terminal modification for oriented attachment（N 末端修飾を利用した配向連結のためのタンパク質-金ナノ粒子の複合化）BADIRUZZAMAN Md（生体物質科学）

Development of 1,2-dichlorination with alkyne and its application to 1,2-dihalogenation with alkene（アルキンを用いる1,2-ジクロロ化反応の開発とアルケンを用いる1,2-ジハロ化反応への応用）袁　迦南（生体物質科学）

Synthesis, photoreactivity, and adsorption properties of Werner clathrates with 1-styrylimidazole ligands（1-styrylimidazole配位子を有するウェルナークラスレートの合成、光反応性および吸着特性）DU Shishi（ナノ環境材料）

Synthesis and characterization of hexanuclear Pt thiolate complexes with cube-type frameworks（キューブ型骨格を持つ白金チオラート六核錯体の合成と評価）劉　浩東（ナノ環境材料）

結晶性のニオブ系固体触媒による単糖類の脱水反応　YUAN Yutong（環境触媒化学）

N 末端修飾試薬となるトリアゾールカルボアルデヒド誘導体を用いたキトサナーゼ固定化レジンの開発　相内　優里（生体物質科学）

ターボグリニア試薬を用いたビシナル及びジェミナルジブロモアルケンからのアルキン合成　奥村　日向（生体物質科学）

ブロモアルキンからのアセチリドの発生と付加反応への応用　工藤　功士郎（生体物質科学）

蛍光色素をトリアゾールカルボアルデヒド基によりタンパク質 N 末端へ連結する手法の探索 長峰　葵（生体物質科学）

Enzymatic depolymerization of polyethylene terephthalate accelerated by surface-associated N-terminal immobilization of cutinase using 1*H*-1,2,3-triazole-4-carbaldehyde derivatives with a long alkyl chain（長鎖アルキル基を有する 1H-1,2,3-トリアゾール-4-カルボアルデヒド誘導体を用いた材料表面での N 末端固定化により加速されるポリエチレンテレフタレートの酵素分解）MUYOMBA Joel（生体物質科学）

Triproamide の合成研究　山田　侑奈（生体物質科学）

環状アルケンからの二次有機エアロゾル生成に対するラジカル捕捉剤効果　五十嵐　輝夫（ナノ環境材料）

シンナムアルデヒドの選択水素化のための Pt/Ti_2O_3 触媒の調製　岩﨑　天河(ナノ環境材料)

ホスフィン配位金クラスターを用いた光駆動型脱水素反応　YAN Shaojing（ナノ環境材料）

Substituent effects on CO_2 adsorption properties and water resistance in three-dimensional SiF_6^{2-} bridged metal-organic frameworks（三次元 SiF_6^{2-} 架橋金属有機構造体の二酸化炭素吸着特性と耐水性に対する置換基効果）顧　仲傑（ナノ環境材料）

金クラスターナノ集積構造のサイズ制御と光学特性　佐藤　龍磨（ナノ環境材料）

PtPdRh 含有 4 元合金電極触媒における亜酸化窒素還元　鈴木　幸四郎（ナノ環境材料）

低温で亜酸化窒素を還元分解する担持イリジウム触媒への助触媒の添加　宋　雨濃（ナノ環境材料）

水中過塩素酸イオン還元反応に活性を示す担持ルテニウム触媒へのイリジウムの添加効果 張　昶（ナノ環境材料）

固体酸触媒を用いたアミン共存下でのメタクロレインの合成　西本　匠吾（ナノ環境材料）

異種金属と複合化した低原子価チタン酸化物の合成　松尾　盛平（ナノ環境材料）

１５−３　修業年限修業学位取得率

博士後期課程

	入学者数	令和５年度までの修了者	
		標準年限内 修了者数	取得率 (%)
令和４年４月 入学者	37	19	51.35

※修士（博士前期）課程は省略（概ね年限内で取得している）

16　研究成果発表状況

16－1　査読有り論文

令和 6 年度に受理された査読有り論文を専攻毎にまとめる。下線の氏名は環境科学院学生（修了者も学院所属時の発表ならば含む）、*イタリックの氏名*は学院教員、括弧内は受理日（年／月／日）を表しており、受理された年度（4 月 1 日－3 月 31 日）で分けている。なお、教員のみの業績については各部局の報告等に所載するため掲載していない。専攻を跨いでいる業績に関しては*印を付けている（以下同じ）。

環境起学専攻

Adams, L. B., *Hayakawa, Y. S.* (2025) Mapping alluvial mine dynamics in the Atewa landscape in Ghana using geographic object-based image analysis (GEOBIA) and GIS. Environmental Monitoring and Assessment 197, 473. (2025/3/11)

Aktar, Z., *Toyoda, K*. (2024) Hospital effluent as a new source of anthropogenic lanthanum in the environment. Environmental Science & Technology Letters 11(6), 598–603. (2024/5/20)

Chaudhary, F., *Watanabe, T*., Haq, R. U. (2025) In the shadow of man: behavioral changes in Japanese pika (*Ochotona hyperborea yesoensis*) due to human presence at Mount Highashi-Nupukaushi-Nupuri, Hokkaido, Japan. Ethology 131(6), e13562. (2025/3/3)

Chen, Y., Song, Y., *Saito, Y*., *Zheng, X*., Pirillo, J., Hijikata, Y., *Noro, S. I*. (2024) Photoreactivity of C=N double bond using N-(4-pyridylmethylene)aniline-coordinated Zn(II) complex crystal. European Journal of Inorganic Chemistry 27(32), e202400272. (2024/8/28)

Dai, B., Matsuzaki, S. I. S., *Negishi, J. N*., Xia, Z., Alam, M. K., Jiang, Z. (2024) Native fish assemblages in natural lakes across Japan: endemism deterioration lasting centuries. Diversity and Distributions 30(6), e13850. (2024/4/2)

Fu, R., Trencher, G., *Yamanaka, Y*. (2024) How might the spread of online meal-delivery services impact achievement of the SDGs? Discover Sustainability 5, 378. (2024/10/22)

Hayakawa, Y. S., Gomez, C., *Watanabe, T*., *Wang, T*., Kobayashi, Y., Inomata, M., Sakai, T., Imagawa, S. (2025) Effects of ground-contacting gear on trail surface deformation from trampling. Environmental Challenges 18(8), 101107. (2025/2/16)

He, M., *Yamanaka, Y*., Takamatsu, K. (2024) Possibility to grasp the older drivers' conditions from the triennial nationwide survey of Japan for elderly welfare. International Journal of Environmental Research and Public Health 22, 5. (2024/12/20)

Louw, A. S., *Avtar, R*. (2024) Methodology for measuring landfill dumping statistics globally using digital elevation change maps. Resources, Conservation and Recycling 212(11), 107924. (2024/9/11)

Louw, A. S., Chen, X., *Avtar, R*. (2024) Assessing the accuracy of an infrared-converted drone camera with Orange-Cyan-NIR filter for vegetation and environmental monitoring. Remote Sensing Applications: Society and Environment 35, 101229. (2024/5/7)

Mandvikar, K., Kumar, N., Supe, H., Singh, D., Gupta, A., Kumar, P., Meraj, G., Khan, I. D., Kouser, A., Pandey, S. K., *Avtar, R*. (2024) Evaluating heat health risk in Indian cities: geospatial and socio-ecological analysis. World Development Sustainability 5, 100180.

Meng, Y., *Watanabe, T*., *Hayakawa, Y. S.*., Sawada, Y., *Wang, T*. (2024) Mapping earth hummocks in Daisetsuzan National Park in Japan using UAV-SfM framework. Remote Sensing 16(19), 3610.

(2024/9/25)

Mihara, J. T., *Negishi, J. N.*, Wu, J. (2024) Macroinvertebrate response to run-of-river hydropower tailrace inflow: spatial assessment of community and traits. River Research and Applications 40(10), 2035–2049. (2024/7/2)

Negishi, J. N., Song, Y. Y., Matsubara, I., Morisaki, N. (2024) An urbanized phantom tributary subsidizes river–riparian communities of a mainstem gravel-bed river. Freshwater Biology 69(11), 1640–1653. (2024/8/15)

Nie, Q., *Liu, T.* (2024) Public complaints of water pollution: A long-term spatiotemporal analysis in Japan. Journal of Cleaner Production 482, 144239. (2024/11/13)

Nie, Q., *Liu, T.* (2025) Large language models: Tools for new environmental decision-making. Journal of Environmental Management 375, 124373. (2025/1/27)

Phan, C., Ling, Z., Mehjabin, J. J., Matsuda, K., Prakoso, N. I., *Umezawa, T.*, Wakimoto, T., *Okino, T.* (2024) Doubly homologated tyrosine-containing peptides from the cyanobacterium *Microcystis aeruginosa* NIES-4285 and their biosynthesis. Journal of Natural Products 87(11), 2629–2639. (2024/10/17)*

Rajat, *Avtar, R.* (2024) Development of four component scattering power decomposition technique for dual polarization SAR data. Journal of the Indian Society of Remote Sensing 52(12), 2611–2623. (2024/10/24)

Rajat, Musthafa, M., Kumar, P., Alsulamy, S., Khedher, K., *Avtar, R.* (2024) Development of L-band fully polarimetric SAR algorithm for forest biomass retrieval using 7SD and random forest regression. Physics and Chemistry of the Earth, Parts A/B/C 136(8), 103688. (2024/8/7)

Sakiyama, T., *Molinos, J. G.* (2025) Mapping fine-scale distribution of the northern pika *Ochotona hyperborea* considering duality in microhabitat thermal conditions. Frontiers of Biogeography 18, e131541. (2025/1/20)

Shimizu, T., *Senzaki, M.*, Hori, S., Sueda, K., Ichihara, S., Ishida, R., Yoshigai, J. (2025) Short-term flooding in non-rice croplands provides stopover habitats for migrating waterbirds. Agriculture, Ecosystems & Environment 383, 109504. (2025/1/16)

Suab, S. A., Supe, H., Louw, A. S., Korom, A., Rashid M. R., Wong Y., B., Kemarau R. A., *Avtar, R.* (2024) Assessing Borneo's tropical forests and plantations: a multi-sensor remote sensing and geospatial MCDA approach to environmental sustainability. Frontiers in Forests and Global Change 7, 1337535. (2024/6/11)

Sultana, M., *Tsuyuzaki, S.*, Bhuiyan, M. A. H. (2025) Detecting biologically invasive species by phenology and topography in tropical moist deciduous forests at satellite remote sensing scale. International Journal of Remote Sensing 46(9), 3388–3406. (2025/2/28)

Sun, Y., Nepal, S. K., *Watanabe, T.* (2024) Tourism-generated energy use characteristics and sustainability transitions. Tourism Geographies 26(7), 1111–1133. (2024/9/30)

Toyoda, K., Wu, H., Aktar, Z. (2025) Europium anomaly as a robust geogenic fingerprint for the geographical origin of aquatic products: a case study of nori (*Neopyropia yezoensis*) from the Japanese market. Food Chemistry 464(6), 141719. (2024/10/18)

Uno, H., *Utsumi, S.*, Morita, K., *Kishida, O.*, Alam, M. K., *Negishi, J. N.* (2025) Hydrological connectivity and local environment alternately drive spatial structure of floodplain aquatic community across seasons. Ecology and Evolution 15(2), e70880. (2025/1/3)

Xiang, S., *Watanabe, T.* (2024) A new partnership framework for education with geoparks at its core: a

proposal through the evaluation of the school education program in Shikaoi, Japan. Geotourism/Geoturystyka 21, 3–4(78–79), 5–17. (2024/10/9)

Yamashita, S., *Negishi, J. N.*, Nakagawa, T., Aruga, N., *Toyoda, K.*, Nakamura, F. (2024) Effects of polluted groundwater on chum salmon (*Oncorhynchus keta*) survival and body size. Environmental Pollution 363(2), 125101. (2024/10/8)

Zhao, C., Nakanishi, R., *Tsuyuzaki, S.* (2024) The applicability of scanner method to investigate rhizosphere in wetlands. Rhizosphere 30, 100878. (2024/11/9)

Zhou, X., *Sato, T.*, Li, S. (2025) Different atmospheric circulation patterns associated with heatwaves over northeastern Siberia in July and August. International Journal of Climatology 45(3), e8731. (2024/12/10)

Zulhilmi, A., *Hayakawa, Y. S.* (2024) Immersive virtual reality fieldwork investigation of a landslide in Hokkaido, Japan. Environmental Earth Sciences 84, 21. (2024/11/30)

＜令和５年度報告書以前の記載漏れ＞

Witono, A. I., *Zheng, X.*, *Saito, Y.*, *Noro, S. I.* (2024) Shaping of metal-organic framework using chitosan and triphosphate cross-linker. Chemistry Letters 53(4), upae050. (2024/3/11)

地球圏科学専攻

Deng, H., *Suzuki, K.*, Yasuda, I., Ogawa, H., *Nishioka, J.* (2025) Phytoplankton community structure in relation to iron and macronutrient fluxes from subsurface waters in the western North Pacific during summer. Biogeosciences 22(6), 1495–1508. (2025/1/28)

Fukai, Y., Fujiwara, A., Nishino, S., Kimura, S., Itoh, M., *Suzuki, K.* (2025) Characteristics of autumn phytoplankton communities in the Chukchi Sea: resuspension of settled diatoms to the surface during strong wind events. Marine Ecology Progress Series 752, 35–50. (2024/11/11)

Funahashi, Y., *Takizawa, Y.*, *Chikaraishi, Y.* (2024) Effects of the utilization of carbohydrates and lipids on the trophic isotopic discrimination of amino acids: a report based on control feeding experiments with the ant *Formica japonica*. Researches in Organic Geochemistry 40(2), 9–17. (2024/12/31)

Goto-Azuma, K., Ogawa-Tsukagawa, Y., Fukuda, K., Fujita, K., Hirabayashi, M., Dallmayr, R., Ogata, J., Moteki, N., Mori, T., Ohata, S., Kondo, Y., Koike, M., *Matoba, S.*, Kadota, M., Tsushima, A., Nagatsuka, N., Aoki, T. (2025) High-resolution analyses of concentrations and sizes of black carbon particles deposited on northwest Greenland over the past 350 years – part 2: seasonal and temporal trends in black carbon originated from fossil fuel combustion and biomass burning. Atmospheric Chemistry and Physics 25, 657–683. (2024/10/17)

Honda, M., *Ohshima, K. I.*, Mensah, V., *Nishioka, J.*, Sato, M., Riser, S. C. (2024) Sea ice-melt amount estimated from spring hydrography in the Sea of Okhotsk: spatial and interannual variabilities. Journal of Oceanography 80(4), 273–290. (2024/4/12)

Lamsters, K., Karušs, J., Ješkins, J., Džeriņš, P., Ukai, S., *Sugiyama, S.* (2024) Geometry and thermal regime of the southern outlet glaciers of Qaanaaq Ice Cap, NW Greenland. Earth Surface Processes and Landforms 49(13), 4275–4288. (2024/8/2)

Li, J., Shibuya, M., *Takizawa, Y.*, *Chikaraishi, Y.* (2025) Highly effective energy transfer in the autotroph-heterotroph symbiosis: insights from compound-specific isotope analysis of amino acids. Progress in Earth and Planetary Science 12, . (2024/12/23)

Mensah, V., Chen, Y., Nomura, D., Ueno, H., Chien, H., *Ohshima, K. I.* (2024) Multidecadal decline in sea

ice meltwater volume and Pacific winter water salinity in the Bering Sea revealed by ocean observations. Progress in Oceanography 230, 103377. (2024/10/29)

Nakada, E., *Tomita, H*. (2025) Intercomparison of bias of global sea surface temperature products associated with tropical cyclone passages in the western North Pacific. Journal of Oceanography 81(5), 361–380. (2025/3/25)

Nakamura, T., Ueda, J., Kono, T., *Nishioka, J.*, *Mitsudera, H.*, Ito, K. (2025) High-turbidity bottom mixed-layer water on the shelf off Hokkaido in the Okhotsk Sea: distribution, seasonal variations, and spreading. Journal of Oceanography 81(4), 301–328. (2025/3/16)

Ohno, M., *Takizawa, Y.*, *Chikaraishi, Y*. (2024) A simple and rapid method for measuring the stable nitrogen isotopic composition of ammonia in aqueous samples. Researches in Organic Geochemistry 40(2), 19–24. (2024/12/26)

Onishi, H., *Kubokawa, A*. (2040) Eastward extension jet driven by vorticity anomaly at the western boundary: characteristics and the effects of southward background flow. Journal of Oceanography 80(5), 309–327. (2024/6/16)

Sakuragi, Y., Rosing-Asvid, A., *Sugiyama, S.*, Mitani, Y. (2024) Seasonal habitat use of ringed seals in the Thule area, northwestern Greenland. Polar Science 43(27), 101145. (2024/11/30)

Sugiyama, S., Tsutaki, S., Sakakibara, D., Asaji, I., Kondo, K., Wang, Y., *Podolskiy, E.*, Jouvet, G., Funk, M. (2025) Ice speed of a Greenlandic tidewater glacier modulated by tide, melt, and rain. The Cryosphere 19, 525–540. (2024/11/29)

Tomita, H., Tanaka, R. (2024) Ocean surface warming and cooling responses and feedback processes associated with polar lows over the Nordic seas. Journal of Geophysical Research: Atmospheres 129(12), e2023JD040460. (2024/6/5)

Tsukada, T., *Horinouchi, T.*, Tsujino, S. (2024) Wind distribution in the eye of tropical cyclone revealed by a novel atmospheric motion vector derivation. Journal of Geophysical Research: Atmospheres 129(9), e2023JD040585. (2024/4/5)

Watanabe, T., Ishikawa, S., *Kawashima, M.*, *Shimoyama, K.*, Onodera, N., Hasegawa, Y., Inagaki, A. (2024) Structure of drifting snow simulated by lagrangian particle dispersion model coupled with large-eddy simulation using the lattice boltzmann method. Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics 250, 105783. (2024/5/23)

Watari, A., *Iizuka, Y.*, Fujita, K., Masunaga, H., Kawamoto, K. (2024) Long-term relationships between summer clouds and aerosols over mid-high latitudes of the Northern Hemisphere. Scientific Reports 14, 9059. (2024/4/15)

Xin, P., Shi, M., *Mitsudera, H.*, *Shiraiwa, T.* (2024) Estimation of freshwater discharge from the Gulf of Alaska drainage basins. Water 16(18), 2690. (2024/9/19)

＜令和５年度報告書以前の記載漏れ＞

Hyogo, S., *Nakayama, Y.*, Mensah, V. (2024) Modeling ocean circulation and ice shelf melt in the Bellingshausen sea. Journal of Geophysical Research: Oceans 129(3), e2022JC019275. (2024/2/15)

Iizuka, M., Itaki, T., *Seki, O.*, Makabe, R., Ojima, M., *Aoki, S.* (2024) Radiolarian assemblages related to the ocean–ice interaction around the East Antarctic coast. Journal of Micropalaeontology 43(1), 37–53. (2023/11/26)

生物圏科学専攻

Abe, H., Namba, M., Ito Abe, M., *Nakaoka, M.* (2024) Effects of low salinity water inflow on eelgrass and cultured bivalves in subarctic lagoons: analysis using hydrodynamic model. Regional Studies in Marine Science 74(5), 103543. (2024/4/22)

Ando, S., *Tanaka, R.*, *Ito, H.* (2024) Activity examination of plant Mg-dechelatase and its bacterial homolog in plants and in vitro. Plant Physiology and Biochemistry 215(13), 109073. (2024/8/22)

Asakura, H., Futamura, R., Moriyama, S., Iida, S., Araki, K., Ayumi, M., Kumikawa, S., Matsuoka, Y., Takahashi, T., Uchida, J., *Kishida, O.*, Sato, T. (2024) Two distinct host-parasite associations mediate seasonal ecosystem linkages. Biology Letters 20(7), 20240065. (2024/6/13)

Avtar, R., Chen, X., Fu, J., Alsulamy, S., Supe, H., Pulpadan, Y. A., Louw, A. S., *Nakaji, T.* (2024) Tree species classification by multi-season collected UAV imagery in a mixed cool-temperate mountain forest. Remote Sensing 16(21), 4060. (2024/10/29)

Bayarsaikhan, D., Hoshino, B., Kohyama, T. S., *Aiba, S. I.* (2024) Net primary productivity of *Betula platyphylla* woodland and the response of current-year shoots to vegetation degradation in Mongolian forest steppe. Journal of Asia-Pacific Biodiversity 18, 125–132. (2024/9/3)

Carlson, A. K., *Yoshimura, T.*, *Kudo, I.* (2024) Kelp dissolved organic carbon release is seasonal and annually enhanced during senescence. Journal of Phycology 60(4), 980–1000. (2024/6/12)

Chang, Y. K., Morita, K., Muramatsu, K., *Kishida, O.*, Kuroki, M. (2025) Northern shifts in the migration of Japanese glass eels to subarctic Hokkaido Island over the past three decades. Ocean Dynamics 75, 10. (2024/12/5)

Chow, P. K. A., Uchida, K., *Koizumi, I.* (2024) 'Ripple effects' of urban environmental characteristics on cognitive performances in Eurasian red squirrels. Journal of Animal Ecology 93(8), 1078–1096. (2024/5/22)

Daupagne, L., Furusawa, C., Mieda, H., *Kishida, O.*, Lasne, E., Tentelier, É., *Koizumi, I.* (2024) Form-assortative mating behaviors of individuals from parasitic and non-parasitic populations of Arctic lamprey (*Lethenteron camtschaticum*). Behavioral Ecology 35(6), arae073. (2024/9/19)

Fang, Y., Zeng, R., *Kobayashi, M.*, *Utsumi, S.* (2024) Post-landslide interactive effects of plant facilitation and rill erosion on tree seedling colonization toward restoration. Forest Ecology and Management 573(6), 122341. (2024/10/13)

Haratani, H., *Yoshida, T.* (2024) Scarification under the canopy of Japanese oak: should pre-harvest treatment coincide with the masting year of acorns? Journal of Forest Research 29(6), 450–457. (2024/7/25)

Hasegawa, R., *Koizumi, I.* (2024) Do mouth-infecting parasites alter the foraging ecology of host fish? A test with the parasitic copepod *Salmincola markewitschi* and wild white-spotted charr *Salvelinus leucomaenis*. Freshwater Biology 70, e14362. (2024/11/7)

Hasegawa, R., Otsuki, Y., Uemura, Y., Furusawa, C., Naka, M., Kanno, Y., *Koizumi, I.* (2025) Positive feedback between parasite infection and poor host body condition reduces host survival in the wild. Functional Ecology 39(3), 723–736. (2024/12/11)

Hasegawa, R., Sugimoto, Y., *Koizumi, I.* (2025) A new locality record of the ectoparasitic copepod *Salmincola californiensis* in Japan: a potential glacial relict population? Crustacean Research 54, 1–7. (2025/1/10)

Hasegawa, R., Uemura, Y., Yamashita, Y., Inoshita, M., *Koizumi, I.* (2025) Highly threatened status for the relict populations of ectoparasitic copepod *Salmincola californiensis* in Japan. Aquatic

Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems 35(2), e70073. (2025/1/17)

Hosoki, T. K., Clark, N. M., Futamura, R., Moriyama, S., *Kishida, O.*, Kanno, Y. (2024) A comparison of sex-specific markers for two wild masu salmon populations in Hokkaido, Japan. Aquaculture, Fish and Fisheries 4(4), e194. (2024/6/25)

Ilyas, A., *Utsumi, S.* (2025) Utilization of a wide range of exotic plant species by an exotic, Solidago-specialist aphid, *Uroleucon nigrotuberculatum* (Hemiptera: Aphididae). Annals of the Entomological Society of America 118(3), 220–228. (2025/1/23)

Inoue, Y., Okamiya, H., Aota, T., Crossland, M. R., *Kishida, O.* (2025) Alien toxic toads suppress individual growth and phenotypic development of native predatory salamanders. Oecologia 207, 27. (2024/12/23)

Karasawa, T., *Koshikawa, S.* (2025) Evolution of gene regulatory networks in insects. Current Opinion in Insect Science 69, 101365. (2025/3/8)

Katsushima, H., Kashiwagi, N., Hamano, T., Kogi, K., Sato, R., Nakata, K., Nishino, M., *Hayakawa, T.* (2025) Fat taste receptors and fatty milk in dolphins. Marine Mammal Science 41(2), e13195. (2024/10/4)

Kobayashi, H., *Kudo, G.*, *Fukuzawa, K.*, *Seki, O.*, Makoto, K. (2025) Belowground traits significantly differ between decreasing and increasing plant species in alpine meadows: implications for vegetation response to climate change. Alpine Botany 135, 65–78. (2024/12/18)

Kondo, K., Suzuki, M., Amadaira, M., Araki, C., Watanabe, R., Murakami, K., Ochiai, S., Ogura, T., *Hayakawa, T.* (2024) Association of maternal genetics with the gut microbiome and eucalypt diet selection in captive koalas. PeerJ 12(9), e17385. (2024/4/23)

Li, J., *Hoshino, Y.* (2024) Elucidating the impact of ploidy level on biochemical content accumulation in haskap (*Lonicera caerulea* L. subsp. edulis (Turcz. ex Herder) Hultén) fruits: a comprehensive approach for fruit assessment. Scientia Horticulturae 327, 112831. (2024/12/25)

Murakami, L., Hasegawa, R., Aruga, N., Sato, N., Nakamura, S., Kajihara, H., *Koizumi, I.* (2025) Mouth-attaching copepod *Salmincola markewitschi* reduces the body condition and growth of juvenile salmonids, *Salvelinus leucomaenis*, by decreasing host feeding activity: evidence from parasite removal experiment. Canadian Journal of Zoology 103, 1–8. (2025/3/7)

Ono, K., Hashiguchi, M., *Tanaka, R.*, Hara, T. (2024) Seasonal changes in pigment content in overwintering and current-year leaves of *Sasa senanensis* from snowmelt to before leaf-fall of canopy deciduous trees. Journal of Plant Research 138(2), 215–230. (2024/12/8)

Pham, H. T. T., Kuroda, S., Khairina, Y., *Morikawa, M.* (2025) Creation of a functional duckweed holobiont to reduce nutrient competition with microalgae for high-yield biomass production. Bioresource Technology 421, 132110. (2024/7/22)

Phomvisith, O., Muroya, S., Otomaru, K., Oshima, K., Oshima, I., Nishino, D., Haginouchi, T., *Gotoh, T.* (2024) Maternal undernutrition affects fetal thymus DNA methylation, gene expression, and, thereby, metabolism and immunopoiesis in Wagyu (*Japanese Black*) cattle. International Journal of Molecular Sciences 25(17), 9242. (2024/8/22)

Sato, H., Ishida, K., *Noda, T.* (2025) Temporal trends of community and climate changes in the anthropocene: 21-year dynamics of four major functional groups in a rocky intertidal habitat along the Pacific coast of Japan. Frontiers in Marine Science 11, 1477142. (2024/12/23)

Seki, K., Tomiyasu, M., Kuroda, M., Ichimura, M., Sato, N., Zhu, Y., *Minami, K.*, *Miyashita, K.* (2025) Temporal changes in behavior during the group spawning event of Pacific herring (*Clupea pallasii*).

Scientific Reports 15, 11337. (2025/3/19)

Sone, M., Mitsuhashi, N., Sugiura, Y., Matsuoka, Y., Maeda, R., *Yamauchi, A*., Okahashi, R., Yamashita, J., Sone, K., Enju, S., Anegawa, D., *Yamaguchi, Y*. (2024) Identification of genes supporting cold resistance of mammalian cells: lessons from a hibernator. Cell Death & Disease 15(9), 685. (2024/8/23)

Suzuki, S., Yoshida, S., Aratani, M., Kimura-Kawaguchi, M. R., *Munehara, H*. (2024) A robust system of hybridogenesis that increases genetic variability and promotes evolutionary succession in greenlings (Teleostei: Hexagramidae, genus *Hexagrammos*): regeneration of a new hemiclonal lineage. PLOS ONE 19(6), e0304772. (2024/5/19)

Takahashi, K., *Kudo, G*. (2024) Leaf herbivory causes abortion of selfed seeds in *Rhododendron kaempferi* var. *kaempferi*. Plant Species Biology 40(2), 123–135. (2024/9/25)

Takano, T., Sakurai, R., Ota, M., *Nakaoka, M*., Kinjo, A., Inoue, K., Takada, H., Mizukawa, K. (2024) Dietary exposure experiments on the migration of chemical pollutants from microplastics to bivalves. Marine Pollution Bulletin 206, 116740. (2024/7/15)

Uchibayashi, H., Shinano, T., *Hirata, T*. (2024) Nitrogen accumulation and initial growth response in lettuce planted at different periods after hairy vetch incorporation. International Journal of Plant Biology 15(4), 1176–1186. (2024/10/24)

Yao, Y., *Noda, T*. (2024) Immediate impact of the 2021 harmful algal bloom in southeast Hokkaido on the rocky intertidal benthic community and its spatial variation. Journal of Marine Science and Engineering 12(6), 928. (2024/5/30)

Yao, Y., You, J., Ishida, K., *Noda, T*. (2024) Impact of the 2011 Tohoku Earthquake on the species diversity of rocky intertidal sessile assemblages. Ecology and Evolution 14(9), e70293. (2024/8/27)

Ye, Z., Sawada, M., Iwasa, M., Moriyama, R., Dey, D., Furutani, M., Kitao, M., Hara, T., Tanaka, A., Kishimoto, J., Yokono, M., Akimoto, S., *Takabayashi, A*., *Tanaka, R*. (2024) Revisiting the early light-induced protein hypothesis in the sustained thermal dissipation mechanism in yew leaves. Journal of Experimental Botany 76(2), 513–531. (2024/10/2)

Yohana, N. Y., Nakano, A., *Hoshino, Y*. (2024) Effects of the sucrose concentrations and incubation periods on in vitro pollen germination and pollen tube growth in three rice cultivars. Plant Biotechnology 42, 9–15. (2024/10/17)

Zeng, R., *Utsumi, S*., Fang, Y., *Fukuzawa, K*., *Yoshida, T*., *Kobayashi, M*. (2025) How do aboveground and belowground functional traits correlate with the demography of tree seedlings regenerated after landslide disturbances? Journal of Forest Research 30(3), 179–186. (2025/1/24)

根来晃祐, *宗原弘幸* (2024) 記録的猛暑の 2023 年に北海道函館市臼尻から SCUBA 潜水によって採集された北限記録 13 種を含む初記録 14 種の魚類. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 44, 1-25. (2024/5/10)

原谷日菜, *吉田俊也* (2025) ミズナラ樹冠下のかき起こし：施工 17 年後における天然更新個体の成長と樹形. 北方森林研究 73, 21–24.

深瀬健斗, *芳村毅*, 水田浩之, 日恵井佳子, 砂賀茂夫, 山本武志, 大塚拓, 森永祐加, 小林卓也 (2025) 貝殻含有石炭灰固化体が海水の pH と栄養塩環境に与える影響. Journal of Japan Society on Water Environment 48, 77–87. (2024/12/17)

東麗緒菜, 久保篤史, 保坂太一, *芳村毅*, 服巻辰則, 津旨大輔, 坪野考樹, 三角和弘, 植田真司 (2025) 汽水湖尾駮沼での高頻度連続観測によって捉えた二酸化炭素分圧の短期変動. 沿岸海洋研究 63(1), 2505.5.001. (2025/1/22)

＜令和５年度報告書以前の記載漏れ＞

Konno, T., Tanaka, K., *Koizumi, I.* (2024) Host shift to non-native species or ecological dead end? Endangered branchiobdellidans (Annelida: Clitellata) found on introduced signal crayfish in Japan. Knowledge & Management of Aquatic Ecosystems 60(425), 5. (2024/1/31)

Nithimethachoke, T., Boonmak, C., *Morikawa, M.* (2024) A novel alkane monooxygenase evolved from a broken piece of ribonucleotide reductase in *Geobacillus kaustophilus* HTA426 isolated from Mariana Trench. Extremophiles 28, 18. (2023/12/30)

環境物質科学専攻

Akter, R., Kirkwood, N., Zaman, S., *Lu, B.*, Wang, T., *Takakusagi, S.*, Mulvaney, P., *Biju, V.*, *Takano, Y.* (2024) Bio-catalytic nanoparticle shaping for preparing mesoscopic assemblies of semiconductor quantum dots and organic molecules. Nanoscale Horizons 9(7), 1128–1136. (2024/5/13)

Haneda, M., *Takahashi, K.*, Hasuo, N., *Huang, R.-K.*, *Xue, C., Wu, J.-B.*, *Noro, S. I.*, *Nakamura, T.* (2024) A three-step change in uniaxial negative thermal expansion by switching supramolecular motion modes in a ferromagnetically coupled nickel dithiolate lattice. Journal of Materials Chemistry C 12(48), 19398–19403. (2024/11/7)

Huang, Y., Kim, W., *Otomo, R.*, Shimoda, S., Wu, K. C., *Kamiya, Y.* (2024) Uniformly distributed palladium nanoparticles on NH_2-MIL-53 fabricated by an equilibrium adsorption method for reduction of nitrite in water. ChemCatChem 16(16), e202400315. (2024/4/7)

Kanamaru, K., *Takahashi, K.*, *Huang, R.-K.*, *Xue, C., Wu, J.-B.*, *Noro, S. I.*, *Nakamura, T.* (2024) Molecular motion in supramolecular ionic crystal of swiss cheese structure. Chemistry Letters 53(11), upae206. (2024/11/5)

Kato, M., Abe, D., Xie, S., Sato, S., Fujibayashi, N., Matsumoto, K., *Onoda, A.*, Hayashi, T., Mitsui, T., Fjiwara, K., Yamamoto, T., Einaga, Y., Tadgell, C. A., Kato, Y., Asakura, K., *Yagi, I.* (2024) Cu, Fe, N-doped carbon nanotubes prepared through silica coating for selective oxygen reduction to water in acidic media. ChemCatChem 16(15), e202400017. (2024/4/22)

Kato, Y., *Kato, M.*, Saito, S., Zhuang, Y., Iguchi, Y., Sato, J., Komanoya, T., Soma, K., Suzuki, K., *Yagi, I.* (2024) Co-presence of PtNi nanowires and ionic liquid in carbon mesopores enhances electrocatalytic oxygen reduction activity. Nanoscale 16(44), 20505–20509. (2024/9/28)

Kobayashi, S., Prakoso, N. I., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.*, Hashimoto, M., *Morozumi, T.*, *Umezawa, T.* (2024) Synthesis and conformational analysis of α,β-dichlorocarbonyl compounds. European Journal of Organic Chemistry 27(33), e202400489. (2024/6/30)

Kyoya, Y., *Takahashi, K.*, Kosaka, W., *Huang, R.-K.*, *Xue, C.*, *Wu, J.-B.*, Miyasaka, H., *Nakamura, T.* (2024) Unlocking single molecule magnetism: a supramolecular strategy for isolating neutral Mn^{III} salen-type dimer in crystalline environments. Dalton Transactions 53(17), 7517–7521. (2024/4/2)

Lin, T., Krisbiantoro, P. A., Sato, M., Chang, Y., Atayde, E. C., Liao, W., *Kamiya, Y.*, *Otomo, R.*, Wu, K. C. (2024) Potassium carbonate as a low-cost and highly active solid base catalyst for low-temperature methanolysis of polycarbonate. ChemSusChem 18(2), e202401676. (2024/8/30)

Okumura, H., Prakoso, N. I., *Morozumi, T.*, *Umezawa, T.* (2024) Chemoselective preparation of alkynes from vicinal and geminal dibromoalkenes. Organic Letters 26(46), 9817–9821. (2024/11/6)

Otomo, R., Nakamura, T., *Kamiya, Y.* (2024) Characterization of acid sites on Hf-Beta zeolite by CD_3CN IR-TPD. Microporous and Mesoporous Materials 378, 113246. (2024/7/1)

Phan, C., Ling, Z., Mehjabin, J. J., Matsuda, K., Prakoso, N. I., *Umezawa, T.*, Wakimoto, T., *Okino, T.* (2024) Doubly homologated tyrosine-containing peptides from the cyanobacterium *Microcystis aeruginosa* NIES-4285 and their biosynthesis. Journal of Natural Products 87(11), 2629–2639. (2024/10/17)*

Saito, Y., Suda, A., Sakai, M., Nakajima, S., *Shichibu, Y.*, Kanai, H., Ishida, Y., *Konishi, K.* (2024) Controlled nanocrystallization of gold nanoclusters within surfactant envelopes: enhancing aggregation-induced emission in solution. Chemical Science 15(30), 11775–11782. (2024/6/23)

Saito, Y., Sun, D., Kanai, H., Ishida, Y., Mitomo, H., Ijiro, K., *Konishi, K.* (2024) Charge-dependent hierarchical self-assembling of fluorinated gold nanoclusters. Chemical Communications 61(7), 1383–1386. (2024/12/15)

Sarker, A. C., *Kato, M.*, Kawamura, M., Watanabe, T., *Yagi, I.* (2024) Selective electrocatalysis of the nitrous oxide reduction reaction to nitrogen on carbon-supported Pt-Pd-Sn nanoparticles. Catalysis Science & Technology 14(15), 4137–4141. (2024/7/8)

Sun, W., Nagao, M., Sato, M., Shimoda, S., *Kamiya, Y.*, *Otomo, R.* (2025) Redox metal–support interaction of CoO_x/Ti_2O_3 to enhance catalytic performance for hydrodeoxygenation of anisole. ACS Sustainable Chemistry & Engineering 13(5), 2038–2047. (2025/1/23)

Suzuki, R., Chen, Y., Ogawa, Y., Enokido, M., Kitagawa, Y., Hasegawa, Y., *Konishi, K.*, *Shichibu, Y.* (2025) Theory-directed ligand-shell engineering of ultrasmall gold clusters: remarkable effects of ligand arrangement on optical properties. The Journal of Physical Chemistry Letters 16(6), 1432–1439. (2025/1/24)

Umezawa, T., Sari, I. N., Yoshimura, E., Nogata, Y. (2024) Novel settlement inhibition oligopeptides containing β-amino acids. RSC Sustainability 3, 540–545. (2024/12/16)

Xu, K., Subramanyam, P., *Okamoto, T.*, Subrahmanyam, C., *Biju, V.* (2025) Organic electron acceptors for $FAPbI_3$ perovskites in solutions and solar cells. The Journal of Physical Chemistry C 129(3), 1569–1574. (2024/10/17)

Xu, S., *Onoda, A.* (2024) PsiPartition: improved site partitioning for genomic data by parameterized sorting indices and Bayesian optimization. Journal of Molecular Evolution 92(6), 874–890. (2025/3/17)

Xu, S., *Onoda, A.* (2025) Accurate and rapid prediction of protein p*K*a: protein language models reveal the sequence-p*K*a relationship. Journal of Chemical Theory and Computation 21(7), 3752–3764. (2025/3/17)

Yan, B., Kato, K., Shimoda, S., *Otomo, R.*, *Kamiya, Y.* (2024) Rapid removal and catalytic decomposition of nitrate in anion-exchange resin containing gold nanoparticles toward purification of groundwater. Chemical Engineering Journal 498, 155721. (2024/9/10)

Yoshida, K., Suzuki, T., *Biju, V.*, *Takano, Y.* (2025) Adaptable blueprint for non-metal near-infrared organic photocatalysts by aromatic sulfones. ACS Applied Materials & Interfaces 17(3), 4813–4820. (2024/12/16)

Yoshida, K., Suzuki, T., Osakada, Y., Fujitsuka, M., Miyatake, Y., *Biju, V.*, *Takano, Y.* (2025) Exploring photo-excited states of aromatic sulfones for efficient near-infrared-activated photothermal cancer therapy. Bulletin of the Chemical Society of Japan 98, uoae137. (2024/11/28)

Zhang, J., Huang, Y., Sato, M., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.*, *Otomo, R.*, *Kamiya, Y.* (2024) Removal and complete combustion of 1,4-dioxane in water by a two-step reaction combining adsorption and catalytic combustion. Journal of Water Process Engineering 64, 105658. (2024/6/12)

Zhang, S., Fujioka, Y., Ohbab, Y., *Yamada, K.* (2025) BT-DNBS: a novel cyanine-based turn-on

fluorescent probe with large stokes shift for sensitive and selective detection of biothiols in live-cell imaging. RSC Advances 15, 135–141. (2024/12/18)

＜令和５年度報告書以前の記載漏れ＞

Naganawa, R., Zhao, H., *Takano, Y*., Maeki, M., Tokeshi, M., Harashima, H., Yamada, Y. (2024) Investigation of the nanoparticulation method and cell-killing effect following the mitochondrial delivery of hydrophobic porphyrin-based photosensitizers. International Journal of Molecular Sciences 25(8), 4294. (2024/3/25)

Sheet, N., *Osuga, R*., Arai, N., Wiesfeld, J. J., *Suganuma, S*., Aoshima, T., Fukuoka, A., Hensen, E. J. M., *Nakajima, K*. (2024) A protection strategy for high-yield synthesis of dimethyl furan-2,5-dicarboxylate from 5-hydroxymethylfurfural using methanol as an acetalizing agent. ChemCatChem 16(4), e20230159. (2023/12/12)

16－2　査読無し論文・著書等

令和 6 年度に受理された査読無し論文、著書等を専攻毎にまとめる。下線の氏名は環境科学院学生（修了者も学院所属時の発表ならば含む）、*イタリックの氏名*は学院教員を示す。なお、教員のみの業績については各部局の報告等に所載するため記載していない。

環境起学専攻

小林健人, *佐藤友徳*, 田村健太 (2024) 札幌と岩見沢における大雪と大気下層の収束場の関係. 北海道の雪氷 43, 105–108. (2024/7/5)

地球圏科学専攻

山田宙昂, 鵜飼慎太, *杉山慎* (2024) グリーンランド北西部カナック氷河における UAV 測量による表面変化の解析. 北海道の雪氷 43, 29-32. (2024/9/30)

張佳晏, *杉山慎*, Amundson, J., Kaluzienski, L. (2024) アラスカ南東部タク氷河が前進から後退に転ずる時期の氷河末端位置と流動速度の変化. 北海道の雪氷 43, 25-28. (2024/9/30)

生物圏科学専攻

森川正章, Khairina, Y., Shuvro, S. K. (2024) 省エネ水質浄化と有用バイオマス生産を加速する植物共生細菌の可能性. Journal of Environmental Biotechnology 24, 43–51. (2024/5/13)

16－3　学会発表

環境起学専攻

Agreda, E. M. 2025 年 3 月 17 日, Effects of urbanization on insect-pollinators in Bolivia and Japan. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Akhtar, N., *Tsuyuzaki, S.* 2025 年 3 月 17 日, Effects of disturbances derived by tropical cyclones on mangrove forests in Bangladesh using remote sensing. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Annisa, S. S., *García Molinos, J.* 2025 年 3 月 18 日, Interspecific interactions associated with edge effects in northern pika habitats of the Daisetsuzan National Park, Japan. 日本生態学会第 72 回全国大

会, 札幌, 口頭

Balloo, N., *Okino, T.* 2024 年 7 月 14 日, Tychonemazole, a linear depsipeptide, from the cyanobacterium *Tychonema bourrellyi*. International Congress on Natural Products Research 2024, ポーランド・クラクフ, ポスター

Chen, N., *Saito, Y.*, *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2025 年 3 月 26 日, Werner-type Zn complex showing photoinduced guest release. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Du, S., *Saito, Y.*, *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2025 年 3 月 29 日, Guest-regulated [2+2] photodimerization reactivity in Cd-including Werner clathrate. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Habib, A. S., *Sato, T.*, Hatsuzuka, D. 2024 年 7 月 7 日, Role of present humidification to the increasing number of low pressure system. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference 2024, 札幌, ポスター

Hayakawa, Y. S., Gomez, C., *Watanabe, T.*, *Wang, T.*, Kobayashi, Y., Inomata, M., Sakai, T., Imagawa, S. 2024 年 5 月 28 日, Effects of ground-contacting gears on footprint-induced trail surface deformation. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, ポスター

Ishida, R., Nakaoka, K., Yoshigai, J., Monden, N., *Senzaki, M.* 2025 年 3 月 18 日, Electric vehicles do NOT reduce the impacts of traffic noise pollution on bird communication. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭*

Islam, A. M., *Sato, T.* 2024 年 7 月 7 日, Effect of precipitation on the variability of extreme sea levels along the coast of Bangladesh. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference 2024, 札幌, 口頭

Kamwezi, G., 野田純希, 瀬野修一郎, Ronny, M., *小野田晃* 2025 年 3 月 28 日, 機械的特性を改善したキチン・キトサンバイオプラスチックの開発. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭*

Ling, Z., Mo, G., Kaneko, K., *Umezawa, T.*, Yamada, Y., Matsuda, K., Wakimoto, T., *Okino, T.* 2024 年 9 月 4 日, The mechanism of VBPOs in biosynthesis of laurencin. 第 66 回天然有機化合物討論会, 京都, ポスター

Ling, Z., Nishikawa, K., Morimoto, Y., *Okino, T.* 2024 年 6 月 21 日, Exploration of VBPO-mediated biosynthesis of halogenated cyclic terpenoid polyethers via leveraging monoepoxide as model substrate. 第 16 回化学生態学研究会, 函館, ポスター

Logronio, D. J., *Negishi, J. N.*, Villaruel. M. J. S., Watanabe, K. 2024 年 7 月 20 日, Navigating hyporheic diversity with environmental DNA: Insights into macroinvertebrate communities. Water and Environment Technology Conference 2024, 岡山, ポスター

Louw, S., *Avtar, R.* 2024 年 9 月 15 日, Remote measurement of landfill dumping volume, to support waste reporting systems. International Solid Waste Association 2024 Waste to Wealth: Solutions for a Sustainable Future, 南アフリカ・ケープタウン, 口頭

Mandal, P., *Tsuyuzaki, S.* 2025 年 3 月 18 日, Seed bank dynamics and vegetation composition on the volcano Mount Usu. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Mihara, J. T., *Negishi, J. N.*, Wu, J., Villaruel, M. J. S. 2024 年 11 月 6 日, Macroinvertebrate community assemblage and traits response toreduction of R-O-R hydropower dam operation in an urban river. 12th Annual International Conference on Environmental Sciences, フィリピン・パラワン, 口頭

Morioka, T., *Sato, T.* 2024 年 7 月 7 日, Influence of Tibetan high and North Pacific high pressure systems on the hot extremes and the risk of heat stroke in Japan. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference 2024, 札幌, 口頭

Panda, S. K., *García Molinos, J.* 2025 年 3 月 17 日, Ecological calendars for climate change adaptation and resilience in the Indian Himalayas. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Priyanka, Rajat, Musthafa, M., *Avtar, R.*, Singh, G. 2024 年 7 月 7 日, Forest biomass estimation using S-band SAR and LiDAR data. 2024 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium,

ギリシア・アテネ, ポスター

Rajat, *Avtar, R.* 2024 年 11 月 6 日, Forest above ground biomass retrieval using fully polarimetric SAR algorithm. 5th Open Science Meeting "Pathways to Sustainable and Just Land Systems", メキシコ・オアハカ, 口頭

Rajat, *Avtar, R.* 2024 年 8 月 7 日, Advanced SAR techniques for forest monitoring. 3rd Joint Student Seminar on One Health, One World, タイ・パトゥムターニー, 口頭

Rajat, Musthafa, M., *Avtar, R.* 2024 年 7 月 7 日, Enhanced retrieval of forest biomass using L-band SAR and spaceborne LiDAR data. 2024 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium, ギリシア・アテネ, 口頭

Rajat, Priyanka, Musthafa, M., *Avtar, R.* 2024 年 7 月 7 日, Retrieval of forest biomass using PolSAR decomposition and PolInSAR techniques. 2024 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium, ギリシア・アテネ, 口頭

Rajat, Singh, G., *Avtar, R.*, Musthafa, M. 2024 年 12 月 10 日, Forest biomass estimation and degradation detection using L-band SAR time series analysis. American Geophysical Union 2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Sabbir, H. M., *Okino, T.* 2024 年 4 月 15 日, Cyanoremediation of heavy metals from wastewater by *Synechocystis* sp. for sustainable solution. The 9th Asian Pacific Phycological Forum, 札幌, ポスター

Saito, J., Tanaka, K., *Negishi, J. N.* 2024 年 9 月 17 日, Effects of pleopods removal on survival and sterility of signal crayfish. Symposium of the International Association of Astacology 24, クロアチア・ザグレブ, 口頭

Sakiyama, T., *García Molinos, J.* 2025 年 3 月 16 日, Understanding the distribution pattern of the northern pika through resurveys and microclimate measurements in mountain ecosystems. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Shimizu, T., *Senzaki, M.*, Hori, S., Sueda, K., Ichihara, S., Waga, D., Hirobe, K., Ishida, R., Yoshigai, J. 2025 年 3 月 17 日, The positive effects of short-term water reservation in croplands on migratory waterbirds. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭*

Sinha, S., *Avtar, R.* 2024 年 8 月 7 日, Integrating the risks of infectious diseases into disaster risk reduction strategies in the transboundary lower Koshi River basin. 3rd Joint Student Seminar on One Health, One World, タイ・パトゥムターニー, 口頭

Sultana, M., *Tsuyuzaki, S.* 2025 年 3 月 16 日, Applicability of phenological spectral features to map invasive alien plant in tropical moist deciduous forest. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Suzuki, K., Qiu, W., Nitanai, R., Goto, K., Cheung, S., Endo, H., Takao, S., Nakaoka, S. 2024 年 9 月 19 日, Basin-scale spatiotemporal variability of phytoplankton in surface waters of the North Pacific through ship-of-opportunity observations. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭*

Tasnim, U. F., Witono, A. I., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2024 年 9 月 18 日, Synthesis and perchlorate anion removal properties of cobalt coordination polymer. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

Tasnim, U. F., Witono, A. I., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2025 年 3 月 28 日, Synthesis and perchlorate removal properties of cobalt coordination polymers. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Villaruel, M. J. S., *Negishi, J. N.*, Wu, J., Yao, S., Mihara, J. T. 2024 年 11 月 14 日, Contribution of the lateral extension of the hyporheic zone in gravel bars in shaping riverinvertebrate diversity. The 4th Philippine Symposium on Freshwater Biodiversity and Ecosystems, フィリピン・ドゥマゲテ, 口頭

Wakao, K., Tamura, K., *Sato, T.* 2024 年 5 月 30 日, Attribution of historical increase of stationary short-duration heavy rainfall in Kyushu considering interannual variation of moisture transport fields. 日

本地球惑星科学連合 2024 年大会，千葉，口頭

Wakao, K., Tamura, K., *Sato, T.* 2024 年 7 月 7 日, Attribution of historical increase of heavy rainfall in Kyushu, Japan to changes in disturbance types and moisture availability. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference 2024，札幌，ポスター

Witono, A. I., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2024 年 9 月 20 日, Anion-exchangeable defective UiO-66 for nitrate removal in water. 錯体化学会第 74 回討論会，岐阜，口頭

Witono, A. I., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2025 年 3 月 26 日, Anion-exchangeable defective UiO-66 and UiO-66-NH_2 for nitrate separation from water. 日本化学会第 105 春季年会，吹田，口頭

Wu, J., Nakajima, S., Villaruel, M. J. S., *Negishi, J. N.* 2025 年 3 月 17 日, Population structure of sedentary cold stenothermal fish in fragmented riverscape with natural and artificial barriers. 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，口頭

Wu, J., *Negishi, J. N.*, Ariga, N., Mihara, J. 2024 年 9 月 18 日, Thermal effects of flow regulation by a run-of-the-river (ROR) dam on the fish distribution in the Toyohira River, Hokkaido. 応用生態工学会第 27 回大会，さいたま，口頭

Xiao, H., *Zheng, X.*, *Noro, S. I.* 2025 年 3 月 29 日, Synthesis of a calcium coordination polymer with flexible components. 日本化学会第 105 春季年会，吹田，口頭

Xu, Y., *Tsuyuzaki, S.* 2025 年 3 月 16 日, The effects of Sphagnum moss transplantation on the succession of Sarobetsu Mire, northern Japan. 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，口頭

Yutong, Y., *Zheng, X.*, *Saito, Y.*, *Noro, S. I.* 2024 年 9 月 18 日, Creation of CO_2-selective porous Werner complexes using photopolymerizable moieties. 錯体化学会第 74 回討論会，岐阜，ポスター

Zhao, C., *Tsuyuzaki, S.* 2025 年 3 月 18 日, The quantitative analysis of root distribution patterns of herbaceous species by scanner images on post-mined peatland, Sarobetsu mire. 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，口頭

Zheng, X., Chen, J., *Noro, S. I.* 2025 年 3 月 26 日, Asymmetric mixed-matrix membranes for CO_2 separation. 日本化学会第 105 春季年会，吹田，口頭

Zhou, X., Li, S., *Sato, T.* 2024 年 12 月 10 日, The linkage between late-summer Siberian heatwaves and subsequent northwestern Pacific sea surface temperature change. American Geophysical Union 2024 Annual Meeting，アメリカ・ワシントン DC，ポスター

Zhou, X., Li, S., *Sato, T.* 2024 年 7 月 7 日, Summer heatwaves over northeastern Siberia tied to atmospheric teleconnection and sea surface temperature change. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference 2024，札幌，口頭

イ ウン, *根岸淳二郎* 2024 年 9 月 18 日，砂州と関わる河川地形と夏季水温の時空間分布特性. 応用生態工学会第 27 回大会，さいたま，口頭

永柳圭都，宇野裕美，森本淳子，中村太士，*根岸淳二郎* 2025 年 3 月 17 日，河川形態の復元が河川環境及び水生昆虫相に与える影響. 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，口頭

吉谷晟，*先崎理之*，中岡圭祐，廣瀬朋輝，石田隆吾，和賀大樹 2025 年 3 月 17 日，人為騒音がバッタ発音器の形態に及ぼす影響. 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，ポスター*

熊倉彩花，*露崎史朗* 2025 年 3 月 16 日，ミズゴケ湿原においてハイイヌツゲがミズゴケに与える影響. 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，ポスター

広部康太，*先崎理之* 2025 年 3 月 18 日，野生動物へのヒトの恐怖はペットの同伴や時間帯の変化に影響されるのか？ 日本生態学会第 72 回全国大会，札幌，ポスター

佐藤友徳, Song, G. 2024 年 9 月 17 日，北半球における過去の積雪面積変動に対する自然変動と人間活動の寄与 —大規模アンサンブル実験データの解析から—. 雪氷研究大会（2024・長岡），長岡，口頭

佐藤友徳, 若尾和哉，永廣滉介 2024 年 11 月 13 日，日本における短時間強雨 of 増加に対する人為起源の温暖化の寄与. 日本気象学会 2024 年度秋季大会，つくば，ポスター

崎山智樹，*García Molinos, J.* 2024 年 9 月 6 日，北海道の山岳域におけるキタナキウサギの分布変

化. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸, ポスター

山田幸司, 木下博貴, 前田渉希, *諸角達也* 2024 年 7 月 20 日, 環境応答性蛍光色素 FluoraBlocks の効率的な合成法の開発. 化学系学協会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭*

市原晨太郎, *先崎理之* 2024 年 9 月 14 日, 日本全国における人工物への鳥の衝突情報のデータベース化の試み. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京, 口頭

若尾和哉, 田村健太, *佐藤友徳* 2024 年 11 月 12 日, 水蒸気輸送を担う大気循環場の出現頻度が九州地方で発生する停滞性の強雨の経年変動に与える影響. 日本気象学会 2024 年度秋季大会, つくば, 口頭

小田郁実, *根岸淳二郎*, *中路達郎*, 中村太士, 石山信雄, 宇野裕美, 岩瀬晴夫, 渡辺恵三, 植田和俊, 藤原弘昭, 折戸聖, 藤井和也, 劒持嵩之, 井上創, 坂井励, 川村敦, 中野信之 2024 年 9 月 18 日, 山地氾濫原河川における魚類群集の時空間変動. 応用生態工学会第 27 回大会, さいたま, 口頭

小林健人, *佐藤友徳*, 田村健太 2024 年 12 月 5 日, 北海道西岸域に大雪をもたらす大気下層の収束場と総観場の統計解析. 日本気象学会北海道支部第 2 回研究発表会, 札幌, 口頭

小林健人, *佐藤友徳*, 田村健太 2024 年 5 月 31 日, 札幌と岩見沢における大雪と収束場との関係性. 2024 年度雪氷学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭

森岡丈博, *佐藤友徳* 2024 年 11 月 12 日, 三陸沖における海面水温と風向が熱中症リスクに与える影響. 日本気象学会 2024 年度秋季大会, つくば, ポスター

森岡丈博, *佐藤友徳* 2024 年 11 月 23 日, 三陸沖の高い海面水温が夏季に冷涼な北海道の熱中症リスクに与えた影響. 第 63 回日本生気象学会大会, 東京, ポスター

森岡丈博, 田村健太, *佐藤友徳* 2024 年 9 月 28 日, 二段階高気圧が都市部の暑熱環境に及ぼす影響. 日本ヒートアイランド学会, 東京, ポスター

清水孟彦, *先崎理之*, 堀隼輔, 末田晃太, 市原晨太郎, 石田隆悟, 吉谷晟 2024 年 9 月 14 日, 短期的な人為的農地湛水の渡り性水鳥に対する生息地創出効果. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京, 口頭*

石川守, 神谷宙, 岩花剛 2024 年 9 月 17 日, 大雪山の永久凍土帯に分布する構造土の詳細形態解析. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

早川裕弐, ゴメス クリストファー, *渡辺悌二*, *王婷*, 小林勇介, 猪又雅史, 坂井友哉, 今川知美 2024 年 6 月 23 日, 踏圧と接地用具による登山道の変形過程. 北海道地理学会 2024 年春季学術大会, オンライン, 口頭

増田悠希, *齋藤結大*, *鄭キン*, *野呂真一郎* 2024 年 9 月 20 日, 高密度にオープンメタルサイトを有する Ag-MOFs の合成と解析. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

町村尚, 杉田暁, *露崎史朗*, 熊倉彩花, ホーテスシュテファン 2025 年 3 月 16 日, UAV/LiDAR による湿原モニタリング ～表面変位精密測定と植生成長. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

陳ユン, *齋藤結大*, *鄭キン*, *高橋仁徳*, *中村貴義*, *野呂真一郎* 2025 年 3 月 29 日, ブロモスチリルピリジンを有するウェルナー型金属錯体の合成と光反応性. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

渡辺悌二, *王婷*, 澤田結基, ファティマ チャウドハリー, 山本健太 2024 年 6 月 23 日, 北海道, 大雪山国立公園南部地域のエゾナキウサギの行動と公園利用者の関係. 北海道地理学会 2024 年春季学術大会, 札幌, 口頭

渡辺悌二, 佐々木美紀子, *王婷* 2025 年 3 月 20 日, サガルマータ国立公園からヤクはいなくなるのか？ 日本地理学会 2025 年春季学術大会, 東京, 口頭

湯谷悠希, *鄭キン*, *野呂真一郎* 2025 年 3 月 26 日, 含フッ素アニオンを有する柔軟性二次元銅配位高分子のガラス化の検討. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

湯谷悠希, *鄭キン*, *齋藤結大*, *野呂真一郎* 2024 年 9 月 20 日, ゲート吸着と相転移特性を有する

柔軟性配位高分子の合成. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

北沢宗大, 植村慎吾, 五藤花, 外岡隼, 佐藤桐子, 清水孟彦, 守屋年史, *先崎理之*, 角谷拓 2024 年 9 月 14 日, 鳥類学の基盤を成す「野帳」の収集事業：塚本洋三氏の野帳を例に. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京, 口頭

末田晃太, 石橋隼, 市原晨太郎, *先崎理之* 2024 年 9 月 14 日, 北海道宗谷岬における猛禽類の渡り. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京, ポスター

立石新, 陳ユン, 張雲雅, *齋藤結大*, *鄭キン*, *野呂真一郎* 2024 年 7 月 20 日, 光反応性配位子を有する Cd 配位高分子の合成と光二量化挙動. 日本化学会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭*

劉山木, *根岸淳二郎*, Villaruel, M. J. 2024 年 9 月 18 日, 水生昆虫は礫河原を通過して羽化できるか？ 応用生態工学会第 27 回大会, さいたま, 口頭

凌正一, *梅澤大樹*, *沖野龍文*, 松田研一, 脇本敏幸 2024 年 9 月 25 日, ローレンシンを合成する紅藻ウラソゾのバナジウム依存型ブロモペルオキシダーゼの反応機構. 令和 6 年度日本水産学会秋季大会, 京都, 口頭

露崎史朗, 賈雨萌, 梅村昌宏 2025 年 3 月 16 日, サロベツ泥炭採掘跡地におけるミズゴケ移植によるミズゴケ再生効果. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

和賀大樹, *先崎理之*, *佐藤友徳* 2025 年 3 月 15 日, 鳥類の夜間の渡り行動に及ぼす人工光の影響. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

齋藤淳也, 田中一典, *根岸淳二郎* 2025 年 3 月 17 日, 外来ザリガニの不妊化手法確立と新たな改善策：抱卵阻害技術の可能性を探る. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

＜令和５年度報告書以前の記載漏れ＞

Ishikawa, M., Westermann, S., Jambaljav, Y., Dashtseren, A., Hiyama, T., Endo, N., Etzelmüller, B. 2024 年 3 月 5 日, Transient modelling of permafrost distribution in Mongolia. Pan-Arctic Water-Carbon Cycles International Symposium, 名古屋, 口頭

Sato, T., Zhou, X., Li, S. 2024 年 3 月 5 日, Interannual variation of summer heatwaves in northeastern Siberia and its impact on mid-latitude and surrounding seas. International Symposium on Pan-Arctic Water-Carbon Cycles and Terrestrial Changes in the Arctic, 名古屋, 口頭

地球圏科学専攻

Bikmullina, Z., *Yamamoto, M.* 2024 年 12 月 10 日, Analytical features of bile acids as palaeoenvironmental proxies. American Geophysical Union 2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Bikmullina, Z., *Yamamoto, M.* 2024 年 5 月 28 日, Bile acids as tracers of human and animal activity: A method proposal. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Cai, Y., Li, B., Pan, X., *Watanabe, Y. N.* 2024 年 12 月 3 日, Spatiotemporal high-resolution dynamics of ocean acidification in the global ocean. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Chang, A., *Sugiyama, S.*, Amundson, J. 2024 年 5 月 29 日, Surface elevation change on Taku Glacier in Southeast Alaska from 2014 to 2021. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Chang, A., *Sugiyama, S.*, Amundson, J., Kaluzienski, L. 2024 年 9 月 19 日, Terminus dynamics of Taku Glacier, Alaska, during the transition from advance to retreat. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

Chang, A., *Sugiyama, S.*, Amundson, J., Kaluzienski, L., Joughin, I. 2025 年 1 月 23 日, Terminus dynamics of Taku Glacier, Alaska, during transition from advance to retreat. IASC NAG Workshop on the Dynamics and Mass Budget of Arctic Glaciers, ニセコ, 口頭

Chang, A., *Sugiyama, S.*, Amundson, J., Kaluzienski. I. Joughin, I. 2024 年 12 月 13 日, Terminus dynamics of Taku Glacier, Alaska, during transition from advance to retreat. American Geophysical Union

2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Chang, A., *Sugiyama, S.*, Amundson, J., Kaluzienski. L. 2024 年 12 月 4 日, Terminus dynamics of Taku Glacier, Alaska, during the recent transition. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, 口頭

Chen, Y., Mensah, V., *Ohshima, K. I.* 2024 年 9 月 18 日, Freshwater input and its interannual variability in the Pacific Arctic from water mass property analysis. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

Chen, Y., Mensah, V., *Ohshima, K. I.* 2025 年 2 月 17 日, Decadal variation in sea ice meltwater amount in the Beaufort Gyre and its relationship with Arctic multi-year ice loss. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Cui, Y., *Miyazaki, Y.* 2024 年 9 月 20 日, Origin of secondary fatty alcohols in aerosols based on the particle size distribution and chemical analysis of plant leaves in a cool-temperate forest. 2024 年度日本地球化学会第 71 回年会, 金沢, 口頭

Greve, R., Grandadam, F. 2024 年 12 月 4 日, A multi-phase spin-up method for the Greenland ice sheet, and its influence on future changes of the ice sheet. 第 15 回極域科学シンポジウム, オンライン, 口頭

Hamamoto, S., Kawakami, K., Sasage, M., Matsumoto, M., Bong, H., Yoshimura, K., Okazaki, A., *Matoba, S.*, *Iizuka, Y.*, Uemura, R. 2024 年 4 月 18 日, Seasonally resolved age scale based on oxygen isotope record from SE-Dome II ice core, Greenland. European Geosciences Union General Assembly 2024, オーストリア・ウィーン, ポスター

Hamamoto, S., Kawakami, K., Sasage, M., Matsumoto, M., Bong, H., Yoshimura, K., Okazaki, A., *Matoba, S.*, *Iizuka, Y.*, Uemura, R. 2024 年 5 月 29 日, Seasonal age scale and intra-annual pattern of oxygen isotope record from SE-Dome II ice core, Greenland. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, ポスター

Hata, T., *Aiba, S. I.* 2025 年 3 月 18 日, Structure of the dynamics of the old-growth forests of Yakushima along elevational gradient: Focusing on the coexistence of conifers and broadleaf trees. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Hayakawa, R., *Kawatani, Y.* 2024 年 11 月 19 日, Zonal asymmetry of the quasi-biennial oscillation. The 4th Asian Conference on Meteorology 2024, つくば, 口頭

Honda, M., *Ohshima, K. I.*, Mensah, V. 2025 年 2 月 18 日, Long-term variations of temperature, salinity and volume transport in the Soya Warm Current and their relationships with the Japan Sea. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Horinouchi, T., Tsukada, T., Tsujino, S., Shimada, U. 2024 年 5 月 6 日, Role of wavenumber-1 disturbances in redistributing angular momentum in TC eyes: Implication from high-resolution AMVs. 36th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology, アメリカ・ロングビーチ, 口頭

Hyogo, S. 2024 年 5 月 14 日, Modeling ocean circulation and ice shelf melt in the Bellingshausen Sea. The past, present, and future state of the Southern Ocean and Antarctica, Germany-Japan Joint Seminar, 登別, 口頭

Hyogo, S. 2024 年 6 月 19 日, Regional East Antarctica simulation with optimized ocean, sea ice, and thermodynamic ice shelf model parameters. Forum for Research into Ice Shelf Processes 2024, ドイツ・ブレーマーハーフェン, ポスター

Hyogo, S. 2024 年 6 月 20 日, Modeling ocean circulation and ice shelf melt in the Bellingshausen Sea. Forum for Research into Ice Shelf Processes 2024, ドイツ・ブレーマーハーフェン, 口頭

Hyogo, S. 2025 年 2 月 11 日, Complementary experiences from Totten glacier. Getz-Ocean Interactions: Sentinel of Antarctic Transition to a Warming Climate Workshop, 韓国・仁川, 口頭

Hyogo, S., *Nakayama, Y.*, Fujii, M., Tamura, T., Abe-Ouchi, A., *Aoki, S.* 2025 年 2 月 18 日, Development of the ocean model with improved reproducibility of thermocline and halocline off Totten Glacier,

Antarctica. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Hyogo, S., *Nakayama, Y.*, Park, T. 2024 年 12 月 10 日, Why do we find deeper thermocline in East Antarctica than in West Antarctica? American Geophysical Union 2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Imazu, T., Hata, S., *Sugiyama, S.* 2025 年 1 月 23 日, Formation and drainage of Setevatnet, a glacial lake of Kongsvegen in Svalbard. IASC NAG Workshop on the Dynamics and Mass Budget of Arctic Glaciers, ニセコ, 口頭

Imazu, T., *Sugiyama, S.*, Hata, S. 2024 年 12 月 4 日, Formation and abrupt drainage of Setevatnet, a glacial lake of Kongsvegen in Svalbard. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Imazu, T., *Sugiyama, S.*, Onuma, Y. 2024 年 12 月 13 日, Numerical modeling of the past, and future evolutions of Qaanaaq Glacier, northwestern Greenland. American Geophysical Union 2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Imazu, T., *Sugiyama, S.*, Onuma, Y. 2024 年 5 月 29 日, Numerical modeling of future and past fluctuations of Qaanaaq Glacier, northwestern Greenland. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Imo, T., Mizobata, K., Hirano, D., Ono, K., *Aoki, S.* 2024 年 12 月 3 日, Structure of the Weddell Gyre's eastern boundary derived from surface floats. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Irino, T., Taniguchi, N., Saijo, R., Lu, S 2024 年 5 月 29 日, Origin and burial rate of organic carbon in the sediments at IODP Site U1422, the northern Japan Sea, during the last 700,000 years. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, ポスター

Iwamoto, Y., Murayama, A., *Nishioka, J.* 2025 年 2 月 17 日, Geochemical characteristics of particulate iron in the atmosphere and the sea ice in the southern Sea of Okhotsk. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Komatsu, M., *Ohshima, K. I.*, Kimura, N., Nihashi, S., Fujii, M., Machida, M., Tamura, T. 2024 年 12 月 3 日, Estimation of sea-ice melt amount from the JARE dense XCTD observations, comparing with the climatology of the ice melt amount. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, 口頭

Komatsu, M., *Ohshima, K. I.*, Kimura, N., Nihashi, S., Fujii, M., Machida, M., Tamura, T. 2025 年 2 月 18 日, High-resolution estimation of sea-ice melt amount in the Southern Ocean, comparing with the climatology of the ice melt amount. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Kwok, J., *Fujiwara, M.* 2024 年 12 月 20 日, Annual and inter-annual variations of surface ozone in Sapporo —the role of transport in the springtime peak—. 北海道気候変動影響研究シンポジウム, 札幌, ポスター

Li, B., Cai, Y., *Watanabe, Y. N.* 2024 年 12 月 3 日, Hybrid parameterization of CO_2 disequilibrium over the global ocean. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Li, J., *Chikaraishi, Y.* 2024 年 5 月 30 日, Trophic diversity of reef-building corals viewed via compound-specific isotope analysis of amino acids. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Lurette, C., *Takizawa, I.*, *Chikaraishi, Y.* 2024 年 9 月 26 日, Nitrogen isotope analysis of amino acids: Implication for illustrating the food web structure in freshwater boundary ecosystems. 第 41 回有機地球化学シンポジウム, 松江, 口頭

Machida, M., *Ohshima, K. I.*, Nakata, K., Kuga, M., Simizu, D., Matsumura, Y., Tamura, T., *Fukamachi, Y.* 2024 年 12 月 3 日, Processes of high sea ice production and dense water formation in the Cape Darnley polynya that creates the precursor of Antarctic Bottom Water. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Miura, I., *Tanimoto, Y.* 2024 年 5 月 26 日, A far deepening of the Aleutian Low in the AGCM experiment forced by SST anomaly in the Kuroshio and its extension. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, ポスター

Miyazaki, Y., Tachibana, E., Yoshida, H., Fang, Z., Iwamoto, K., Katakura, S. 2025 年 2 月 17 日, Seasonal

variations of atmospheric organic aerosols by the continuous year-round measurements at the Okhotsk Tower in Mombetsu. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Miyazaki, Y., Wang, Y., Tachibana, E., *Yamashita, Y.*, *Suzuki, K.*, *Nishioka, J.* 2024 年 11 月 12 日, Origin of marine atmospheric organic aerosols during the spring phytoplankton bloom after sea ice melting in the Sea of Okhotsk. SOLAS Open Science Conference 2024, インド・ゴア, ポスター

Moriyoshi, H. 2024 年 10 月 15 日, Development of Weddell Sea regional simulation. Joint IAPSO/IACS Commission on Ice-Ocean Interactions, オンライン, 口頭

Moriyoshi, H. 2024 年 5 月 14 日, Development of Weddell Sea regional simulation. The past, present, and future state of the Southern Ocean and Antarctica, Germany-Japan Joint Seminar, 登別, 口頭

Moriyoshi, H., *Nakayama, Y.*, Caspel, M. 2025 年 2 月 18 日, Development of Weddell Sea regional model. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Moriyoshi, H., *Nakayama, Y.*, Caspel, M. V., Malyarenko, A. 2024 年 12 月 10 日, Development of Weddell Sea regional model. American Geophysical Union 2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Naim, E., *Yamamoto, M.* 2024 年 5 月 29 日, Hydroclimate variability in the Andaman Sea during the last 1.2 million years. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Nakatsu, Y., *Irino, T.*, *Yamashita, Y.*, Maruyama, A., Lu, S. 2024 年 5 月 30 日, Origin and budget of black carbon in sediments of the Akkeshi Bay, the eastern Hokkaido, Japan. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, ポスター

Nakayama, T., *Podolskiy, E. A.*, Imazu, T., Yazawa, K., *Sugiyama, S.* 2025 年 1 月 21 日, Acoustic sensing of Qaanaaq Glacier runoff, northwestern Greenland. IASC NAG Workshop on the Dynamics and Mass Budget of Arctic Glaciers, ニセコ, ポスター

Nishioka, J., *Toyota, T.*, *Yamashita, Y.*, *Suzuki, K.*, Murayama, A., Imai, M., *Nakamura, T.*, *Ohshima, K. I.*, *Mitsudera, H.* 2024 年 5 月 26 日, Characteristics of water masses and nutrient properties in the southern Sea of Okhotsk. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Ogawa, M., Rosing-Asvid, A., Schiøtt, S., Bouchard, C., Sakuragi, Y., *Podolskiy, E.*, *Sugiyama, S.*, Mitani, Y. 2025 年 2 月 18 日, Collaborative study with Inuit on the foraging ecology of marine mammals in the Arctic. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

Ogawa, M., Sakuragi, Y., *Podolskiy, E.*, Bouchard, C., Otsuki, M., Rosing-Asvid, A., Schiøtt, S., *Sugiyama, S.*, Mitani, Y. 2024 年 11 月 14 日, Feast at the glacier front fills the belly: key foraging grounds of ringed seal (*Pusa hispida*) revealed by stomach contents. 25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, オーストラリア・パース, ポスター

Ohata, M., *Aoki, S.*, Shimada, K., Mizobata, K., Kitade, Y. 2024 年 12 月 3 日, Long-term variability of seawater stable oxygen isotope ratio in the Indian Ocean sector of the Southern Ocean. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Otani, W. 2024 年 6 月 19 日, Modeling the pathway of Atlantic Water and the impact of glacial discharge. Forum for Research into Ice Shelf Processes 2024, ドイツ・ブレーマーハーフェン, 口頭

Otani, W., *Nakayama, Y.*, Wood, M., Fenty, I. G., Wekerle, C., Mensah, V. 2024 年 12 月 10 日, Modeling the pathway of Atlantic Water and the impact of glacial discharge. American Geophysical Union 2024 Annual Meeting, アメリカ・ワシントン DC, ポスター

Sakuragi, Y., Rosing-Asvid, A., *Sugiyama, S.*, Mitani, Y. 2024 年 11 月 14 日, Seasonal use of tidewater glacier fronts by ringed seals in Inglefield Bredning, northwestern Greenland in 2023. 25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, オーストラリア・パース, ポスター

Santín, C., Valverde, N., Fernández, S., Morales, R., Miyase, R., *Yamashita, Y.* 2024 年 10 月 16 日, Burning groundwater? Dissolved black carbon in aquifers of Asturias. FUEGORED2024, スペイン・アストゥリアス, 口頭

Sugita, M., Mizobata, K., Makabe, R., Ohashi, R., Hirano, D., Li, B., *Watanabe, Y. N.* 2024 年 12 月 3 日, Nutrient dynamics in the Southern Ocean using the parameterizations and the data from mooring systems/shipboard observations. 第 15 回極域科学シンポジウム, 立川, ポスター

Sun, Y., *Nishioka, J.*, *Toyota, T.*, *Suzuki, K.* 2024 年 5 月 26 日, Differences in phytoplankton assemblages and their controlling factors in the southern Sea of Okhotsk between winter and spring. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Suzuki, K., Qiu, W., Nitanai, R., Goto, K., Cheung, S., Endo, H., Takao, S., Nakaoka, S. 2024 年 9 月 19 日, Basin-scale spatiotemporal variability of phytoplankton in surface waters of the North Pacific through ship-of-opportunity observations. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭*

Suzuki, K., Tanoue, Y., Wongpan, P., Strutton, P., Fukai, Y., *Toyota, T.*, *Nishioka, J.* 2024 年 5 月 26 日, Estimating primary production processes in the southern Sea of Okhotsk using modeling, satellite remote sensing, and in-situ observation data. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Takaki, Y., Miura, A., *Negishi, J. N.*, *Yamashita, Y.* 2024 年 11 月 5 日, The effect of biofilms in the uptake of riverine dissolved organic matter. 19th International Symposium on River and Lake Environment, 中国・武漢, ポスター

Tsukada, T., *Horinouchi, T.*, Tsujino, S. 2024 年 5 月 6 日, Wind distribution in the eye of tropical cyclone revealed by a novel atmospheric motion vector derivation. 36th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology, アメリカ・ロングビーチ, 口頭

Xin, P., *Mitsudera, H.*, Shi, M., *Shiraiwa, T.* 2024 年 6 月 18 日, Estimation of freshwater discharge from the Gulf of Alaska drainage basins. 14th International Workshop on Modeling the Ocean, 札幌, 口頭

Yamashita, Y., Hattori, K., Kojima, D., Yoshida, N. 2024 年 5 月 30 日, Riverine transport of dissolved pyrogenic carbon from land to ocean. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

Yazawa, K., Yamada, S., Imazu, T., *Sugiyama, S.* 2025 年 1 月 21 日, Ice surface observations using an unmanned aerial vehicle on Qaanaaq Glacier in northwest Greenland. IASC NAG Workshop on the Dynamics and Mass Budget of Arctic Glaciers, ニセコ, ポスター

Yoshida, S. 2024 年 10 月 12 日, Interannual and long-term variability in the western part of the Weddell Gyre. 「微細規模から惑星規模にかけての海洋力学過程と規模間相互作用の研究」研究集会, , 口頭

Yoshida, S. 2024 年 12 月 12 日, Interannual and long-term variability in the western part of the Weddell Gyre. Approaches for Hydrospheric-Atmospheric Environmental Studies in Asia-Oceania, 名古屋, 口頭

Yoshida, S., *Matsuta, T.* 2025 年 2 月 18 日, Impact of wind stress changes on the Antarctic Circumpolar Current — A comparison between 50 km and 5 km resolution models —. The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 紋別, 口頭

伊原希望, *白岩孝行* 2024 年 11 月 10 日, 北海道知床半島オホーツク海沿岸の漁業小屋の現況とその機能に関する考察. 地域漁業学会第 66 回大会, 東京, 口頭

岩元勇太, 村山愛子, *西岡純* 2024 年 9 月 17 日, 南部オホーツク海における海氷中粒子鉄の地球化学的特性. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

久保悠, 阿部蒼士, *力石嘉人*, *山下洋平* 2024 年 10 月 26 日, 陸性溶存有機物の炭素安定同位体比に与える光分解の影響. 日本腐植物質学会第 40 回講演会, 京都, 口頭

宮瀬陸, *宮崎雄三*, *入野智久*, *山下洋平* 2024 年 10 月 9 日, 札幌における大気エアロゾル中の水溶性燃焼起源炭素濃度の季節変動とその制御要因. 第 29 回大気化学討論会, 神戸, 口頭

宮瀬陸, *宮崎雄三*, *入野智久*, *山下洋平* 2024 年 5 月 27 日, 札幌における大気エアロゾル中の水溶性熱成炭素濃度の制御要因に関する研究. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

宮瀬陸, *山下洋平* 2024 年 8 月 2 日, 大気エアロゾル中の水溶性熱性炭素 —札幌における観測と

外洋域への展開—. 低温科学研究所共同利用研究集会「寒冷圏大気–海洋間の生物地球化学的相互作用に関する研究集会」, 札幌, 口頭

宮﨑雄三, 王韵涵, 立花英里, *山下洋平*, *鈴木光次*, *西岡純* 2024 年 5 月 28 日, 春季植物プランクトンブルーム期のオホーツク海南部における海洋大気有機エアロゾルの起源と生成過程. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

宮﨑雄三, 立花英里, 黒﨑豊, *的場澄人* 2024 年 8 月 2 日, グリーンランド北西部における大気微小エアロゾル中の有機物の起源と季節変動. 低温科学研究所共同利用研究集会「寒冷圏大気–海洋間の生物地球化学的相互作用に関する研究集会」, 札幌, 口頭

京野祐大, *富田裕之* 2024 年 12 月 19 日, GPM/GMI と DPR データの融合による海上大気比湿推定アルゴリズムの開発. 大気海洋相互作用に関する研究集会, 名古屋, ポスター

権田拓弥, *山本正伸*, 中村英人, 金原正明, 大森貴之, 宇田津徹朗, 中村慎一 2024 年 9 月 26 日, 河姆渡文化における稲作発展 of 背景としての気候・環境変化 : 姚江平野のバイオマーカー記録. 第 41 回有機地球化学シンポジウム, 松江, 口頭

権田拓弥, *山本正伸*, 中村英人, 金原正明, 大森貴之, 宇田津徹朗, 中村慎一, 孫国平 2024 年 11 月 29 日, 河姆渡文化における最初期稲作を促進した気候と環境. 第 10 回地球環境史学会年会, 立川, 口頭

権田拓弥, *山本正伸*, 中村英人, 金原正明, 大森貴之, 宇田津徹朗, 中村慎一, 孫国平 2024 年 5 月 30 日, バイオマーカーからみた中国河姆渡文化期とそれ以前の姚江平野における気候・植生変化. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

高木悠司, 三浦彩, *根岸淳二郎*, *山下洋平* 2024 年 10 月 19 日, 河川中の溶存有機物利用における付着性微生物の影響. 日本陸水学会第 88 回熊本大会, 熊本, ポスター

黒﨑豊, *的場澄人*, 西野沙織 2024 年 9 月 17 日, 降雪粒子の形状と水安定同位体比を用いた降雪粒子の形成過程の考察における観測事例. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, ポスター

今井望百花, 村山愛子, *山下洋平*, 黒田寛, *鈴木光次*, 平譯享, *大島慶一郎*, *西岡純* 2024 年 7 月 3 日, 北海道沿岸域におけるオホーツク海氷の影響と鉄の輸送可能性. 低温科学研究所共同利用研究集会「環オホーツク陸海結合システムの冠動脈:対馬暖流系の物質循環」, 札幌, 口頭

今井望百花, 村山愛子, *鈴木光次*, 黒田寛, *豊田威信*, *山下洋平*, 平譯享, *大島慶一郎*, *西岡純* 2024 年 9 月 19 日, 沿岸親潮域におけるオホーツク海氷の影響と鉄の輸送可能性. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

今津拓郎, *杉山慎*, 波多俊太郎 2024 年 9 月 19 日, スバルバール諸島・Kongsvegen 氷河における氷河湖（Setevatnet）の形成と突発的排水. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

佐々木菜南, *関宰*, 紀藤典夫 2024 年 11 月 29 日, 北日本における最終融氷期の急激な気候変動と植生変遷. 第 10 回地球環境史学会年会, 立川, 口頭

三浦樹, *谷本陽一* 2025 年 3 月 6 日, 黒潮続流域における高温 SST 偏差場が北太平洋中緯度–亜熱帯間の双方向作用に及ぼす影響 : AGCM 実験による解析. 新学術領域研究(A)「ハビタブル日本」領域全体会議, 新潟, ポスター

山下洋平, 宮瀬陸 2024 年 10 月 14 日, KH-25-1 航海での大気観測と FDOM 観測計画. 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会　黒潮における物理・化学・生物過程 : 乱流と熱・栄養塩・仔稚魚輸送, オンライン, 口頭

山下洋平, 宮瀬陸, 久保悠 2025 年 3 月 18 日, DOM の太平洋断面観測で分かった事、次にやるべき事. 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会　太平洋南北断面観測による海洋生物圏統合研究 (IMBeR), 柏, 口頭

山田宙昂, 鵜飼慎太, *杉山慎* 2024 年 5 月 31 日, グリーンランド北西部カナック氷河における UAV 測量による表面変化の解析. 2024 年度雪氷学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭

山田宙昂, 鵜飼慎太, *杉山慎* 2024 年 9 月 19 日, グリーンランド北西部カナック氷河における

UAV を用いた表面標高変化と氷河上河川の解析. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

松本真依, *飯塚芳徳*, 青木輝夫, 安達聖, 猿谷友孝, 八久保晶弘, 川上薫, 斎藤健, *的場澄人*, 藤田秀二 2024 年 5 月 29 日, グリーンランド南東ドームアイスコア中の気泡が近赤外反射率と誘電異方性に与える影響. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, ポスター

松本真依; *飯塚芳徳*; 青木輝夫; 安達聖; 猿谷友孝; 八久保晶弘; 川上薫; 斎藤健; *的場澄人*; 藤田秀二 2024 年 9 月 19 日, グリーンランド南東ドームアイスコアの誘電異方性の変動要因. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

森吉紘己, *中山佳洋*, Caspel, M. V. 2024 年 5 月 31 日, ウェッデル海域の領域モデル開発. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

杉山慎, *Podolskiy, E.*, 今津拓郎, Yefan, W., 近藤研, 山田宙高, 小川萌日香 2024 年 9 月 17 日, グリーンランド北西部カナック地域における氷河氷床変動 — ArCS II プロジェクトにおける研究活動と成果の概要 —. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

西川穂波, *白岩孝行* 2025 年 3 月 27 日, 知床半島・ルシャ地区海岸における海岸漂着物の特徴と経時変化. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 相模原, ポスター

西野沙織, *的場澄人*, 青木輝夫 2024 年 9 月 17 日, 札幌の融雪期における表面積雪中の不純物濃度の変化. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, ポスター

西野沙織, *的場澄人*, 鈴木利孝, *飯塚芳徳*, 平林幹啓, 川村賢二, 本山秀明 2024 年 9 月 18 日, 南極沿岸 H128 地点の積雪・コア試料中の微量金属元素 —南極域への大気降下物の復元—. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, ポスター

石坂丞二, 虎谷充浩, 平譯享, *平田貴文*, 小林拓, 作野裕司, 比嘉紘士, 松岡敦, 高尾信太郎, *鈴木光次* 2024 年 5 月 28 日, 小型衛星海色ミッション. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

川上薫, 松本真依, 平野瑞幸, 篠原俊, 西野沙織, 前田楓太, 石津恵吾, 下森陽道, 坪井彩紀, 中山智博, 斎藤健, 原圭一郎, 栗田直幸, *的場澄人*, 堀彰, 石野咲子, *飯塚芳徳* 2024 年 9 月 18 日, 南極氷床沿岸部 H15 アイスコアの初期解析. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, ポスター

大谷若葉, *中山佳洋*, Wood, M., Ian, F., Vigan, M. 2024 年 5 月 30 日, 西グリーンランド域の領域モデル開発 ～大西洋起源水変動及び氷河融解変動の理解～. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

中村充喜, *富田裕之* 2024 年 12 月 19 日, 可視光による蒸発量の全球推定と全球海面熱収支推定への影響. 大気海洋相互作用に関する研究集会, 名古屋, 口頭

中村知裕, 植田純生, *西岡純*, 小野数也, 村山愛子, *三寺史夫* 2024 年 9 月 19 日, 北海道オホーツク海陸棚の高濁度水とその行方 2:千島海盆南西部の観測と宗谷暖流系水の簡便な判別法. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

中田英太朗, *富田裕之* 2024 年 11 月 13 日, 台風に対する海面水温応答についての人工衛星観測プロダクト間の比較. 日本気象学会 2024 年度秋季大会, つくば, ポスター

中田英太朗, *富田裕之* 2024 年 12 月 19 日, 北西太平洋における熱帯低気圧の通過に伴う海洋の熱吸収量の Argo float による見積もり. 大気海洋相互作用に関する研究集会, 名古屋, 口頭

張佳晏, *杉山慎*, Amundson, J., Kaluzienski, L. 2024 年 5 月 31 日, アラスカ南東部タク氷河が前進から後退に転ずる時期の氷河末端変動と流動. 2024 年度雪氷学会北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭

張策, *堀之内武* 2024 年 11 月 14 日, 偏東風波動によるとされる台風発生の特徴. 日本気象学会 2024 年度秋季大会, つくば, 口頭

長井風輝, 村山愛子, 小畑元, 南秀樹, *西岡純* 2024 年 9 月 17 日, オホーツク海から西部北太平

洋への懸濁粒子中金属元素輸送過程. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

渡辺力, 山之内美彩, *川島正行*, *下山宏* 2025 年 3 月 15 日, 北海道における冬季夜間の気温低下量の地域特性. 日本農業気象学会 2025 年全国大会, 熊本, 口頭

渡邉祥多, *関宰* 2024 年 11 月 29 日, ドームふじアイスコアに記録された有機エアロゾルトレーサーの氷期-間氷期サイクル変動要因の解析. 第 10 回地球環境史学会年会, 立川, 口頭

飯塚芳徳, 松本真依, 川上薫, 捧茉優, 石野咲子, 服部祥平, 植村立, 松井仁志, 藤田耕史, 大島長, Spolaor, A., Svensson, A., Vinther, B. M., 大野浩, *関宰*, *的場澄人* 2024 年 9 月 17 日, 産業革命後の北極の大気酸性度と硝酸エアロゾル濃度の関係. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

飯塚睦, *関宰* 2024 年 11 月 30 日, 最終間氷期における南極氷床変動. 第 10 回地球環境史学会年会, 立川, 口頭

瓢子俊太郎, *中山佳洋*, 藤井昌和, 田村岳史, 阿部彩子, *青木茂* 2024 年 9 月 18 日, トッテン氷河沖における水温躍層の再現性を高めた海洋数値モデルの開発及び暖水流入の変動要因に関する研究. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

浜本佐彩, 川上薫, 捧茉優, 松本真依, Hayoung, B., 芳村圭, 岡崎淳史, *的場澄人*, *飯塚芳徳*, 植村立 2024 年 9 月 20 日, グリーンランド SE-Dome II コアの酸素同位体比に基づく数か月分解能の高精度年代. 2024 年度日本地球化学会第 71 回年会, 金沢, 口頭

平野瑞幸, *飯塚芳徳*, 川上薫, *的場澄人*, 大野浩, 安藤卓人 2024 年 9 月 18 日, グリーンランド南東ドームに含まれる不揮発性微粒子のラマン分析. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, ポスター

平譯享, 高尾信太郎, 矢吹裕伯, *鈴木光次*, 真壁竜介, 中山大雅, 村上浩 2024 年 5 月 31 日, 南大洋における適切な SGLI/GCOM-C データ利用のための海氷コンタミネーション閾値. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会, 千葉, 口頭

本田茉莉子, *大島慶一郎*, Mensah, V. 2024 年 9 月 19 日, 過去 40 年間における宗谷暖流の水温・塩分の変動とトレンド. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

鈴木光次, 神村章子, Qiu, W., 高尾信太郎, 中岡慎一郎 2024 年 9 月 19 日, 北太平洋中高緯度域表層に生息する珪藻類の季節変化と海水温上昇に対する脆弱性グループの評価. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

櫻木雄太, Rosing-Asvid, A., *杉山慎*, 三谷曜子 2025 年 3 月 18 日, グリーンランドの氷河フィヨルドにおけるワモンアザラシの潜水パターン. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

舩橋靖明, *滝沢侑子*, *力石嘉人* 2024 年 9 月 26 日, 植物由来の糖が昆虫のアミノ酸代謝に与える影響の評価. 第 41 回有機地球化学シンポジウム, 松江, 口頭

生物圏科学専攻

Akram, I., *Sato, Y.* 2025 年 3 月 18 日, Exploring the genomic basis of plant-plant interactions in field crops. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Duan, J., Terai, M., *Yotsukura, N.* 2024 年 4 月 16 日, Mutagenetic effect of several mutagens on *Saccharina japonica* (Phaeophyceae, Laminariales). The 9th Asian Pacific Phycological Forum, 札幌, ポスター

Fang, Y., Zeng, R., Kobayashi, M., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 18 日, The spatial distribution patterns, genetic structure, and plant interactions of newly recruited tree seedlings in post-landslide forests. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Furusawa, J., Niwa, S., Hiura, T., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 16 日, Does body size increase or decrease with global warming: A temporal change in latitude cline of body size over 18 years. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Haginouchi, T., Nishino, D., Zhang, Y., Gonzalez, J. M., *Gotoh, T.* 2024 年 7 月 1 日, Maternal nutrition differs intramuscular adipogenesis potential of Wagyu (Japanese Black) fetus muscle. The Joint Australian Association of Animal Science and the Asian-Australasian Association of Animal Production Congress, オーストラリア・メルボルン, ポスター

Hamanaka, S., Sakai, R., Kobayashi, M., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 17 日, How does geodiversity alter seedling traits in semi-primary succession? The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Hamanaka, S., Sakai, R., Kobayashi, M., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 18 日, Inter- and intraspecific variation in seedlings shaped by geodiversity: A landslide experiment approach. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Hara, T., *Hagihara, S.* 2024 年 11 月 21 日, Fighting behavior of Japanese eels in captivity. 12th International Fisheries Symposium, 函館, ポスター

Haratani, H., *Yoshida, T.* 2024 年 10 月 8 日, Silvicultural methods for *Quercus crispula* regenerated in scarified sites: Effects of intra and interspecific competition on 17th year of growth and stem quality. International Oak Symposium, アメリカ・ノックスビル, ポスター

Haratani, H., *Yoshida, T.* 2024 年 6 月 26 日, Investigating silvicultural methods using soil-scarification to overcome failed regeneration of *Quercus crispula*. The XXVI World Congress of the International Union of Forest Research Organizations, スウェーデン・ストックホルム, ポスター

Hiramatsu, F., *Koshikawa, S.* 2024 年 8 月 29 日, Searching for genes responsible for the formation of ectopic campaniform sensillum in *Drosophila guttifera*. XXVII International Congress of Entomology, 京都, ポスター

Ilyas, A., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 16 日, Unraveling host range expansion in the exotic, Solidago-specialist aphid *Uroleucon nigrotuberculatum*. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Ilyas, A., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 17 日, Genetic homogeneity in Solidago altissima promotes aphid spillover and host expansion. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Ishida, R., Nakaoka, K., Yoshigai, J., Monden, N., *Senzaki, M.* 2025 年 3 月 18 日, Electric vehicles do NOT reduce the impacts of traffic noise pollution on bird communication. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭*

Ishiguro, T., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 16 日, Remnant forests shape an urban-rural evolutionary cline in a plant through a mode shift of frequency-dependent selection. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Ishiguro, T., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 17 日, How does frequency-dependent selection vary between urban and rural landscapes? 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Ito, H., Abe, M., Ando, S., *Tanaka, R.* 2024 年 9 月 19 日, Enzymatic activity of Mg-dechelatase involved in chlorophyll degradation in planta and in vitro. 2nd Asia-Oceania International Congress on Photosynthesis, 神戸, ポスター

Ito, M. A., Abe, H., Koda, S., *Nakaoka, M.*, Tanaka, N. 2025 年 3 月 17 日, Current and future distributions of two endangered surfgrass species (Phyllospadix iwatensis and P. japonicus) in Japan. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Izutani, H., *Minami, K.*, Sonoki, S., Ito, K., Zhu, Y., Suzuki, I., Nakaoka, M., *Miyashita, K.* 2024 年 11 月 4 日, Estimation of the distribution of eelgrass beds by acoustic measurements in Notsuke Bay, Hokkaido, Japan. The 17th Annual Meeting of Asian Fisheries Acoustic Society, 長崎, ポスター

Jia, W., *Koizumi, I.* 2025 年 3 月 17 日, The interactive effect of climate and land-use stressors on the presence/absence of an endangered crayfish species in Japan. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Jia, W., Tanaka, K., Konno, T., *Koizumi, I.* 2024 年 9 月 16 日, Impact of land use on the presence/absence of an endangered freshwater crayfish species at local population scale on Hokkaido Island. Symposium of the International Association of Astacology 24, クロアチア・ザグレブ, 口頭

Kameo, S., Matsumae, R., *Tanaka, R.*, *Takabayashi, A.* 2024 年 9 月 19 日, The early branched streptophyte *Mesostigma viride*, shows zeaxanthin-dependent quenching ability. 2nd Asia-Oceania International Congress on Photosynthesis, 神戸, 口頭

Kanto, H., Nakase, Y., *Koshikawa, S.* 2024 年 8 月 29 日, The life history of *Blissoxenos esakii* (Strepsiptera: Corioxenidae): Superparasitism, first instar larva, and female adults. XXVII International Congress of Entomology, 京都, ポスター

Karasawa, T., *Koshikawa, S.* 2024 年 8 月 27 日, Sequence level mechanism underlying the evolution of the unique wing pigmentation pattern of *Drosophila guttifera*. XXVII International Congress of Entomology, 京都, ポスター

Karasawa, T., *Koshikawa, S.* 2024 年 9 月 17 日, How did each cis-regulatory change contribute to the evolution of the novel expression pattern in *Drosophila guttifera*? The 16th Japanese Drosophila Research Conference, 仙台, ポスター

Kidachi, M., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 16 日, Intraspecific variation in feeding habits of generalist herbivore insect, *Agelastica coerulea*: A contribution of local forest structure. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Kidachi, M., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 18 日, Does host specialization differ among generalist herbivorous insect, *Agelastica coerulea*, depending on the heterogeneity in local forest habitats? 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Koseki, M., *Koshikawa, S.* 2024 年 8 月 26 日, Modification of the wing color pattern of *Drosophila guttifera* by developing the Gal4/UAS system. XXVII International Congress of Entomology, 京都, ポスター

Liew, H. X., *Kudo, G.* 2025 年 3 月 18 日, Flexible floral visitation of alpine bumblebees: 5-year monitoring in northern Japan. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Ma, R., *Takagi, K.*, Hirano, T., Sun, L., Liang, N., Takahashi, Y., Teramoto, M., Kondo, T., Koarashi, J., Atarashi-Andoh, M., Ishida, S. 2025 年 3 月 14 日, The response of the soil CO_2 and CH_4 fluxes to cessation of long-term soil warming in a cool-temperate forested peatland. International Symposium on Agricultural Meteorology 2025, 熊本, ポスター

Ma, R., *Takagi, K.*, Hirano, T., Sun, L., Liang, N., Takahashi, Y., Teramoto, M., Kondo, T., Koarashi, J., Atarashi-Andoh, M., Ishida, S., Takagi, M., Ichii, K. 2024 年 10 月 31 日, 16-year continuous quantitative evaluation of soil heterotrophic respiration and its temperature sensitivity by soil warming in a cool-temperate forested peatland. Asiaflux Conference 2024, 中国・武漢, ポスター

Matsui, Y., Ishiguro, T., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 18 日, A loss of defensive compounds in urban white clover influences pollinator's traits: Nectar-gut bacterial community structure and preferential behavior. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Matsuoka, N., Sato, Y., Fujimoto, T., Saiki, E., Kanuka, H., Ymashita, J., *Yamauchi, A.*, *Yamaguchi, Y.* 2024 年 7 月 23 日, Histological and gene expression analysis in skeletal muscle of the hibernating mammal Syrian hamster. 17th International Hybernation Symposium, カナダ・モントオール, ポスター

Meng, X., Yamagishi, M., Nakano, A., *Hoshino, Y.* 2025 年 3 月 20 日, Automated collection and comprehensive analyses of stomatal characteristics in diploid and tetraploid *Lilium leichtlinii* using deep learning. 園芸学会令和 7 年度春季大会, 藤沢, 口頭

Mieda, H., *Koizumi, I.* 2024 年 11 月 16 日, Laterality of winding in fish reproduction, with a special focus on lampreys. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and

Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Nagasato, C., Shen, Y., Yonamine, R., Hervé, C., Badis, Y., Motomura, T. 2024 年 4 月 17 日, Characterization of a CRISPR-mutant targeting an alginate-synthesis gene in male gametophytes of *Saccharina japonica*. The 9th Asian Pacific Phycological Forum, 札幌, 口頭

Nakagawa, S., Hirose, M., Ogura, A., Watanabe, M., Monden, M., Gibo, S., Kurosawa, G., *Sone, M.*, Taii, H., Chayama, Y., Ando, L., Reootsuka, Shao, C., Ono, H., Sunagawa, G., Kiyonari, H., *Yamauchi, A.*, Miura, M., *Yamaguchi, Y.* 2025 年 3 月 7 日, Analysis of time keeping system involved in mammalian hibernation. 学術変革領域(A) 冬眠生物学 2.0 第 2 回若手領域会議, 横浜, ポスター

Nakanome, R., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 16 日, How does urban evolution of white clover influence soil microbes? The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Nakaya, A., Murakami, S., Ohsaki, H., Ohno, Y., *Yoshida, T.* 2024 年 10 月 8 日, Growth characteristics of standing oak individuals suitable for barrel wood in a secondary oak forest in Japan. International Oak Symposium, アメリカ・ノックスビル, ポスター

Nakaya, A., Murakami, S., Ohsaki, H., Ohno, Y., *Yoshida, T.* 2024 年 9 月 12 日, Growth characteristics of standing oak individuals suitable for barrel wood in a secondary forest of *Quercus crispula* in Japan. 10th Pacific Regional Wood Anatomy Conference, 旭川, ポスター

Niida, T., *Koshikawa, S.* 2024 年 8 月 26 日, Genome sequencing revealed the pseudogenization of visual genes in trechine beetles living in caves. XXVII International Congress of Entomology, 京都, 口頭

Nithimethachoke, T., Boonmak, C., *Morikawa, M.* 2024 年 6 月 13 日, Novel alkane monooxygenase evolved from broken piece of ribonucleotide reductase in *Geobacillus kaustophilus* isolated from the Mariana Trench. 第 24 回日本蛋白質科学会年会, 札幌, ポスター

Nomura, K., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 16 日, Does functional traits of multiple plant species converge in a city? The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Ofuku, K., Ishizawa, H., *Morikawa, M.* 2024 年 11 月 15 日, Possibility of thrusting plant growth-promoting bacteria into a stable bacterial community. 7th International Conference on Duckweed Research and Application, タイ・バンコク, ポスター

Okamiya, H., Matsuura, N., Trui, A., Sakata, M., Araki, H., *Kishida, O.* 2024 年 8 月 5 日, Contrasting effects of deer wallowing on survival and growth in two amphibian species. 10th World Congress of Herpetology, インドネシア・サラワク, ポスター

Okamiya, H., Sugime, R., Furusawa, C., Inoue, Y., *Kishida, O.* 2024 年 8 月 5 日, Rediscovery of paedomorphic Ezo salamander *Hynobius retardatus* after almost 90 years. 10th World Congress of Herpetology, インドネシア・サラワク, ポスター

Okuma, F., *Utsumi, S.* 2024 年 11 月 16 日, An arboreal eDNA approach for ecoevolutionary feedback in the wild: An evaluation of factors affecting data and application for willow-associated arthropod communities. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024, 那覇, ポスター

Okuma, F., *Utsumi, S.* 2025 年 3 月 16 日, Illustrating perpetual eco-evolutionary feedback loop in the riparian forest through environmental DNA. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

Osanai, T., Sugiura, R., Khairina, Y., *Morikawa, M.* 2024 年 11 月 15 日, Identification of active compounds produced by bifunctional *Chryseobacterium* sp. 27AL that promotes the duckweed growth and kills cyanobacteria. 7th International Conference on Duckweed Research and Application, タイ・バンコク, ポスター

Otsuka, R., Hirose, M., Ogura, A., Enju, S., *Sone, M.*, *Yamauchi, A.*, *Yamaguchi, Y.* 2024 年 7 月 23 日, Role of α-tocopherol transfer protein (Ttpa) in α-tocopherol distribution during cold adaptation in

Syrian hamsters. 17th International Hybernation Symposium, カナダ・モントランブラン, ポスター

Pham, H., *Morikawa, M.* 2024 年 11 月 15 日, Reconstruction of a functional duckweed holobiont to reduce nutrient competition with microalgae for high-yield biomass production. 7th International Conference on Duckweed Research and Application, タイ・バンコク, 口頭

Phomvisith, O., Muroya, S., Haginouchi, T., Nishino, D., *Gotoh, T.* 2024 年 7 月 1 日, Maternal undernutrition affected DNA methylation and gene expression associated with immunopoiesis in the fetal thymus of Wagyu. The Joint Australian Association of Animal Science and the Asian-Australasian Association of Animal Production Congress, オーストラリア・メルボルン, ポスター

Sato, S., Hirose, M., Tamiaki, H., *Tanaka, R.*, *Ito, H.* 2024 年 9 月 19 日, Exploring the multifaceted catalytic activity of Mg extracting enzyme: Demetallation and chelation in chlorophyll derivatives. 2nd Asia-Oceania International Congress on Photosynthesis, 神戸, ポスター

Sekioka, T., *Nakaoka, M.* 2024 年 10 月 29 日, Linking local and macro-scale processes: How environmental gradients and biogeographic affinities influence benthic amphipod community structure. The 5th Asian Marine Biology Symposium 2024, タイ・バンコク, 口頭

Sekioka, T., *Nakaoka, M.* 2025 年 3 月 18 日, How variations in species traits affects environment-community structure relationships? A case study on the amphipod assembly in northeastern Japan. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Shao, C., *Sone, M.*, Yamashita, J., Sasaki, M., *Yamaguchi, Y.* 2024 年 7 月 23 日, Exploring the molecular mechanisms of pituitary hormone seasonality in a small mammalian hibernator. 17th International Hybernation Symposium, カナダ・モントオール, ポスター

Shimizu, T., *Senzaki, M.*, Hori, S., Sueda, K., Ichihara, S., Waga, D., Hirobe, K., Ishida, R., Yoshigai, J. 2025 年 3 月 17 日, The positive effects of short-term water reservation in croplands on migratory waterbirds. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭*

Srivastava, T., Yamamoto, A., *Hori, C.* 2025 年 3 月 19 日, Characterization of a lipase from a wood-decay basidiomycete *Phlebiopsis gigantea* toward polyester degradation. International Symposium on Wood Science and Technology 2025, 仙台, 口頭

Sugawara, T., *Minami, K.*, Kim, S., Inagawa, T., Okitsu, J., Sakamoto, S., Osugi, T., Azuma, N., Zhu, Y., *Miyashita, K.* 2024 年 11 月 4 日, Understanding the distribution of cyanobacteria using acoustic measurements in a dam lake. The 17th Annual Meeting of Asian Fisheries Acoustic Society, 長崎, ポスター

Takei, R., *Morikawa, M.* 2024 年 11 月 15 日, Isolation and application of plant growth promoting bacteria for production using methane fermentation digested liquid. 7th International Conference on Duckweed Research and Application, タイ・バンコク, ポスター

Tanaka, Y., Nitta, Y., Sakai, Y., *Takagi, T.* 2024 年 11 月 26 日, Movement model of the sea cucumber *Apostichopus japonicus* incorporating hydrodynamics. The 9th International Symposium on Aero-aqua Bio-Mechanisms, タイ・バンコク, 口頭

Tsugane, K., *Nakaoka, M.* 2025 年 3 月 18 日, Responses of marine sessile community to artificial light at night. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

Yang, Z., Kameo, S., Kurisu, G., *Tanaka, R.*, Kawamoto, A., *Takabayashi, A.* 2025 年 3 月 14 日, A novel method for Cryo-EM protein sample preparation based on clear-native-PAGE. 第 66 回日本植物生理学会年会, 金沢, 口頭

Yang, Z., *Tanaka, R.*, Kurisu, G., Kawamoto, A., *Takabayashi, A.* 2024 年 12 月 13 日, A novel method for Cryo-EM protein sample preparation based on clear-native-PAGE. 2024 年度北海道植物学会大会, 札幌, ポスター

Yao, Y., *Noda, T.* 2025 年 3 月 18 日, Context dependence of coexistence between two rocky intertidal sessile species Chthamalus dalli and Gloiopeltis furcata. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌,

口頭

Ye, Z., Sawada, M., Iwasa, M., Moriyama, R., Dey, D., Furutani, M., Kitao, M., Hara, T., Tanaka, A., Kishimoto, J., Yokono, M., Akimoto, S., *Takabayashi, A.*, *Tanaka, R.* 2024 年 9 月 19 日, Revisiting the early light-induced protein hypothesis in the sustained thermal dissipation mechanism in yew leaves. 2nd Asia-Oceania International Congress on Photosynthesis, 神戸, ポスター

Yuhong, X., *植竹淳* 2024 年 9 月 17 日, 緑雪の雪氷藻類の由来の検証　—地面からか空からか？—. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, 口頭

コスタディノブ ラドバン, カマル サッジャド シュブロ, *森川正章* 2024 年 5 月 30 日, 安全な植物タンパク源の提供を目指したウキクサと乳酸菌共培養系構築の試み. 環境バイオテクノロジー学会, 宮崎, ポスター

井上晶, 申元, *長里千香子* 2025 年 3 月 28 日, 褐藻のアルギン酸生合成に関わるポリマンヌロン酸合成酵素の機能実証とゲノム編集によるそのマコンブ変異株の作出. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 相模原, 口頭

稲田有香, 児玉茜, *森川正章* 2024 年 5 月 30 日, Bacillus altitudinis B10X が産生するウキクサ成長阻害物質の同定. 環境バイオテクノロジー学会, 宮崎, ポスター

遠藤岬, *小泉逸郎*, 森本淳子, 中村太士 2025 年 3 月 17 日, 都市中小河川における低水路の構造が魚類群集に与える影響. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

関岡寛知 2024 年 9 月 14 日, 北海道東部厚岸湖で出現した温帯性ベントス 2 種の報告と在来性の検討. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024, 松江, 口頭

関岡寛知, *仲岡雅裕* 2024 年 11 月 30 日, 北海道東部厚岸湾から得られたクチバシソコエビ科ヨコエビ類. 日本甲殻類学会第 62 回大会, 函館, ポスター

岩城悠佑, Riewluang, S., Cunningham, S., Wakeman, K., *仲岡雅裕* 2025 年 3 月 17 日, 北海道における海草の消耗病に関連したラビリンチュラ綱の遺伝的多様性について. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

吉谷晟, *先崎理之*, 中岡圭祐, 廣瀬朋輝, 石田隆吾, 和賀大樹 2025 年 3 月 17 日, 人為騒音がバッタ発音器の形態に及ぼす影響. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター*

吉田俊也, 原谷日菜 2025 年 3 月 22 日, 播種起源の 40 年生ミズナラ林の成長過程：初期の競合植生制御の効果. 第 136 回日本森林学会大会, 札幌, 口頭

吉田桃子, *揚妻直樹* 2025 年 3 月 18 日, エゾシカの母親は娘に優しい？：仔の性別と兄姉が育仔投資量に与える影響. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

久場麻未, 細木拓也, *岸田治* 2025 年 3 月 18 日, K 戦略のクマムシ種：*Viridiscus perviridis* の特異な生活史. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

原谷日菜, *吉田俊也* 2024 年 11 月 13 日, ミズナラ若齢林の保育：樹冠下天然下種と樹冠外播種更新による成長と樹形の比較. 第 73 回北方森林学会, 札幌, ポスター

原谷日菜, *吉田俊也* 2025 年 3 月 22 日, ミズナラの更新補助作業：かき起こし地における林地残材の利用の可能性. 第 136 回日本森林学会大会, 札幌, ポスター

古関将斗, *越川滋行* 2024 年 8 月 21 日, ショウジョウバエがもつ水玉模様の形成にモルフォゲンの発現は必要なのか？ 第 26 回日本進化学会神奈川大会, 平塚, 口頭

古関将斗, *越川滋行* 2024 年 9 月 12 日, ショウジョウバエの水玉模様を形成する遺伝的基盤を解明するための RNAi 技術の確立. 日本動物学会第 95 回長崎大会, 長崎, 口頭

古関将斗, *越川滋行* 2025 年 3 月 22 日, 翅脈形成プログラムの転用と遺伝子ネットワークの再編が生み出したショウジョウバエの翅模様. 第 69 回日本応用動物昆虫学会大会, 千葉, ポスター

根来晃佑, 遠藤岬, *小泉逸郎* 2025 年 3 月 18 日, イワナ属魚類二種に見られる腹部着色の変異〜体サイズ、性別、季節に着目して〜. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

佐藤海晴, *工藤岳* 2025 年 3 月 17 日, 一回繁殖型高山植物ミヤマリンドウの繁殖サイズのハビタット間比較. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

細田理仁, *高木健太郎* 2025 年 3 月 14 日, 3 反復 LiDAR 測量を用いて評価した北方林の局地的な衰退と植生・環境要因との関係. 日本農業気象学会 2025 年全国大会, 熊本, 口頭

三枝弘典, *小泉逸郎* 2024 年 11 月 3 日, 産卵時におけるヤツメウナギのオスの左右性. 第 43 回日本動物行動学会大会, 上野原, ポスター

三枝弘典, *小泉逸郎* 2025 年 3 月 17 日, ヤツメウナギに左右性はあるのか —産卵時に巻き付くヤツメと回るヤツメ—. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

執行崇志, *森川正章* 2024 年 5 月 30 日, 食品工場排水からの植物生育促進細菌および微細藻類生育抑制細菌の探索. 環境バイオテクノロジー学会, 宮崎, ポスター

酒井勇一, 篠原陽, 野田英敏, 荒木格, 田中優斗, 仁田ゆき, *髙木力* 2024 年 9 月 25 日, マナマコの行動特性の研究 I —外部標識個体の行動—. 令和 6 年度日本水産学会秋季大会, 京都, 口頭

酒井颯汰, 古関将斗, *越川滋行* 2024 年 9 月 20 日, ミズタマショウジョウバエの翅における Wnt シグナル遺伝子の発現パターン. コントラリアン生物学 - シンポジウム「集団における個とは？集団内多様性のダイナミクスを考える」, 札幌, ポスター

酒井颯汰, 古関将斗, *越川滋行* 2024 年 9 月 25 日, ミズタマショウジョウバエの模様形成に寄与する Wnt シグナル遺伝子. 第 2 回北海道バイオ"Mix-up", 札幌, ポスター

松浦なる, *岸田治* 2025 年 3 月 16 日, 上位の捕食者は本当に下位生物どうしの捕食を減らすのか？—池の 3 者関係に注目して—. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

松浦なる, *岸田治* 2025 年 3 月 17 日, シカが作る水場で繁殖する両生類. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

深瀬健斗, *芳村毅*, 寺添斉, 足立佳子 2025 年 3 月 18 日, 藻礁資材としての貝殻含有石炭灰固化体の利用検討—半連続溶出実験による海水の pH と栄養塩環境に与える影響の評価—. 第 59 回日本水環境学会年会, 札幌, ポスター

仁田ゆき, 田中優斗 2024 年 11 月 1 日, マナマコの行動特性 —生息環境が行動に与える影響—. 令和 6 年度北海道なまこ増殖研究会, 札幌, 口頭

仁田ゆき, 田中優斗, 酒井勇一, 篠原陽, 野田英敏, 荒木格, *髙木力* 2024 年 9 月 25 日, マナマコの行動特性の研究 II —生息環境が行動に与える影響—. 令和 6 年度日本水産学会秋季大会, 京都, 口頭

菅藤隼人, *越川滋行* 2024 年 11 月 4 日, 寄生性昆虫ナガカメネジレバネの宿主体内への侵入行動. 日本動物行動学会第 43 回大会, 上野原, 口頭

菅藤隼人, 中瀬悠太, *越川滋行* 2024 年 9 月 25 日, 寄生性昆虫ナガカメネジレバネの寄生行動と生態. 第 2 回北海道バイオ"Mix-up", 札幌, ポスター

成田あゆ, *小野清美*, 岸本純子, *高林厚史*, 菅井徹人, 北尾光俊, *田中亮一* 2025 年 3 月 22 日, 常緑針葉樹 4 種における冬季の光化学系タンパク質の変動と光化学系の応答. 第 136 回日本森林学会大会, 札幌, 口頭

清水孟彦, *先崎理之*, 堀隼輔, 末田晃太, 市原晨太郎, 石田隆悟, 吉谷晟 2024 年 9 月 14 日, 短期的な人為的農地湛水の渡り性水鳥に対する生息地創出効果. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京, 口頭*

石田拳, 山北剛久, 和田葉子, 金森由妃, 姚遠, *野田隆史* 2025 年 3 月 17 日, 自然攪乱に対する生物群集の多次元安定性の評価：岩礁潮間帯を例に. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

前川航大, 深瀬健斗, *芳村毅*, 大塚拓, 砂賀茂夫 2025 年 3 月 19 日, 藻礁資材としての貝殻含有石炭灰固化体の原料であるフライアッシュ、高炉スラグ、ホタテガイ貝殻が海水の pH や栄養塩濃度に与える影響. 第 59 回日本水環境学会年会, 札幌, 口頭

早川慧, 島本悠希, *小泉逸郎* 2025 年 3 月 18 日, サケ科魚類の模様が集団パフォーマンスにもたらす影響. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

則武佑奈, *工藤勲*, 夏池真史 2024 年 9 月 14 日, ホタテガイ養殖に起因する栄養塩循環による植物プランクトン遷移. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024, 熊本, 口頭

大塚玲桜, 廣瀬美智子, 小倉淳郎, 延寿祥代, *曽根正光*, *山内彩加林*, *山口良文* 2024 年 7 月 8 日, 冬眠哺乳類シリアンハムスターにおける alpha-Tocopherol の季節適応性変化の解析. 学術変革領域(A) 冬眠生物学 2.0 夏の領域会議 2024, 神戸, ポスター

大福航汰, 石澤秀紘, *森川正章* 2024 年 5 月 30 日, 植物成長促進細菌の安定共生微生物群への導入可能性に関する研究. 環境バイオテクノロジー学会, 宮崎, ポスター

段錦文, 寺井雅一, 島田順平, 阿部知子, 林依子, *四ツ倉典滋* 2025 年 1 月 24 日, 環境変化に応じたコンブ生産にむけて. 理研シンポジウム「重イオンビームによる環境変化に対応する品種の育成」, 和光, 口頭

中村剛, 遊川知久, 浅野紗彩 2025 年 3 月 10 日, 研究後の植物株・種子・胞子試料を植物園に！生息域外保全の良質な資源としての活用. 日本植物分類学会第 24 回大会, 高知, ポスター

中村隆之, *髙木力*, 鈴木翔大, 吉川智典, 鳥澤眞介, 梅崎朋紀, 小藏正輝, 家戸敬太郎, 鷲尾洋平, 升間主計, 若宮直紀 2025 年 3 月 29 日, 群制御のための魚群行動の理解と基盤構築 II —群形成が遊泳運動と移動コストに与える影響—. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 相模原, 口頭

中林楓, 和田直也, 和久井彬実, *工藤岳* 2025 年 3 月 15 日, ショウジョウバカマ(シュロソウ科)の繁殖性質の地域変異と遺伝的分化. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

仲谷朗, *吉田俊也* 2025 年 3 月 22 日, 北海道における広葉樹の付加価値を高める木材特性に着目した育林の可能性. 第 136 回日本森林学会大会, 札幌, ポスター

仲谷朗, 秋津裕志, 村上了, *吉田俊也* 2024 年 11 月 13 日, バット材適性のあるダケカンバ育成の可能性. 第 73 回北方森林学会, 札幌, ポスター

長尾有希子, 實島伶奈, 木下碧衣, 岡村保子, 大塚彰, 山口真樹, 片倉喜範, 阿部佳世子, 髙橋秀之, 塩塚雄二, 衛藤哲次, 藤野亮一, *後藤貴文* 2024 年 10 月 19 日, 放牧肥育された黒毛和牛肉の生化学的及び組織化学的特性に関する研究. 第 61 回肉用牛研究会, 豊岡, 口頭

長里千香子, 申元, 井上晶, 與那嶺里菜, 小西照子, Cécile, H., *市原健介*, 本村泰三 2025 年 3 月 23 日, マコンブ配偶体のアルギン酸合成酵素遺伝子変異株における細胞壁の構造と関連遺伝子の発現変動. 日本藻類学会第 49 回大会, 西原, ポスター

長里千香子, 申元, 與那嶺里菜, *市原健介*, Cecile, H., 本村泰三 2024 年 9 月 16 日, 褐藻マコンブ配偶体におけるアルギン酸合成候補遺伝子変異が及ぼす細胞壁構造への影響. 日本植物学会第 88 回大会, 宇都宮, ポスター

鳥巣捷斗, *大舘智志*, 藤原一道, 鈴木仁, 長田直樹 2024 年 8 月 21 日, 全ゲノムから推定されるアジア地域におけるジャコウネズミの遺伝的構造と完新世における空間的拡大. 第 26 回日本進化学会神奈川大会, 平塚, ポスター

鳥巣捷斗, *大舘智志*, 藤原一道, 鈴木仁, 長田直樹 2024 年 9 月 6 日, 全ゲノム SNP およびミトコンドリア DNA 配列に基づくジャコウネズミの遺伝的構造と集団史の解明. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸, ポスター

鳥巣捷斗, 藤原一道, 鈴木仁, 長田直樹, *大舘智志* 2025 年 3 月 16 日, 全ゲノム SNPs および mtDNA 配列に基づくジャコウネズミ地域個体群の成立史推定. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

津久井天仁, 岸本純子, *高林厚史*, *田中亮一*, *伊藤寿* 2024 年 9 月 16 日, オウシュウトウヒの光化学系 II において低温で誘導される可逆的な活性調節. 第 88 回日本植物学会大会, 宇都宮, ポスター

津金響子, *仲岡雅裕* 2024 年 12 月 17 日, 夜間人工光が海洋付着生物群集に与える影響. 第 8 回

沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 廿日市, 口頭

田中優斗, 仁田ゆき, 酒井勇一, 篠原陽, 野田英敏, 荒木格, *髙木力* 2024 年 9 月 25 日, マナマコの行動特性の研究 III —状態推定技術を用いた行動モデル推定—. 令和 6 年度日本水産学会秋季大会, 京都, 口頭

田中優斗, 仁田ゆき, 酒井勇一, *髙木力* 2025 年 3 月 29 日, 状態推定に基づく行動モデルと粒子群最適化を用いたマナマコの行動制御のための転石配置パターンの推定. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 相模原, 口頭

渡邉夕夏, 茶木康智, *三輪京子* 2024 年 9 月 5 日, ホウ素依存的翻訳制御を受けるメチル基転移酵素遺伝子はホウ素欠乏環境での根の成長に必須である. 日本土壌肥料学会 2024 年度福岡大会, 福岡, 口頭

藤田凌平, 磯部祥子, 白澤健太, 平川英樹, *星野洋一郎* 2024 年 11 月 4 日, ハスカップとミヤマウグイスカグラの全ゲノム解読と種間雑種果実におけるホメオログの発現変動. 園芸学会令和 6 年度秋季大会, 西原, 口頭

徳永陽, 伏木絵奈, *三輪京子* 2024 年 9 月 24 日, シロイヌナズナ bor1-1 抑圧変異体 #156 の原因遺伝子の同定 —変異型ホウ酸輸送体 BOR2 の解析—. 植物の栄養研究会第 9 回研究交流会, 横浜, ポスター

徳永陽, 伏木絵奈, *三輪京子* 2025 年 3 月 14 日, シロイヌナズナホウ酸輸送体 BOR2 の点変異は地上部へのホウ素輸送と分配を変化させることによりホウ素欠乏耐性を向上させる. 第 66 回日本植物生理学会年会, 金沢, ポスター

内海俊介, 大熊普賢, 嶋本直紀, 米谷衣代 2024 年 12 月 7 日, 野外生態系における絶え間ない生態ー進化フィードバック. 日本環境変異原ゲノム学会第 53 回大会, 岡山, 口頭

梅﨑朋紀, 小蔵正輝, 中村隆之, 鈴木翔大, *髙木力*, 吉川智典, 鳥澤眞介, 家戸敬太郎, 鷲尾洋平, 升間主計, 若宮直紀 2025 年 3 月 29 日, 群制御のための魚群行動の理解と基盤構築 I —閉鎖空間内群泳の状態推定による数理モデル化—. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 相模原, 口頭

萩原ひかり, *仲岡雅裕* 2025 年 3 月 18 日, 夜間人工光が海藻の成長と防御に与える影響. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

八重樫健吾, 末吉佑, 鈴木勝也, 田村怜子, 五味伸太郎, *髙木力* 2025 年 3 月 27 日, トロール網漁具の網口形状制御と未知パラメータ推定. 令和 7 年度日本水産学会春季大会, 相模原, 口頭

尾針由真, 児島一州, 鳥巣捷斗, *大舘智志*, 松野啓太 2024 年 9 月 10 日, 希少な生物の遺伝情報取得を目的とした検体用動物からの全ミトコンドリア DNA 解読の試み：トガリネズミ科の場合. 第 167 回日本獣医学会学術集会, 帯広, 口頭

文谷和歌子, Angraini, W., 片岡剛文, *伊佐田智規* 2024 年 10 月 29 日, 湿原-河口-沿岸浅海域の連続体水系における蛍光性溶存有機物と細菌群集の関係. 日本微生物生態学会第 37 回広島大会, 広島, ポスター

平松楓佳, *越川滋行* 2024 年 8 月 21 日, ミズタマショウジョウバエにおける異所的な鐘状感覚子の形成に関わる遺伝子の探索. 第 26 回日本進化学会神奈川大会, 平塚, ポスター

平松楓佳, *越川滋行* 2025 年 3 月 11 日, ショウジョウバエの異所的な鐘状感覚子形成にかかわる遺伝子の発現解析. 第 1 回 Evo-Devo 若手研究会, 岡崎, ポスター

柄澤匠, *越川滋行* 2024 年 8 月 22 日, ミズタマショウジョウバエを用いて新しい模様の進化を塩基配列レベルで理解する. 第 26 回日本進化学会神奈川大会, 平塚, 口頭

柄澤匠, *越川滋行* 2024 年 9 月 25 日, ミズタマショウジョウバエの wingless の co-option において、それぞれのシス制御配列の変化はどのような働きをしたのだろうか？ 第 2 回北海道バイオ"Mix-up", 札幌, ポスター

柄澤匠, *越川滋行* 2025 年 3 月 11 日, 模様制御遺伝子の cis 制御領域における複数の配列の変化

がミズタマショウジョウバエの新たな部位での着色の獲得に寄与した. 第 1 回 Evo-Devo 若手研究会, 岡崎, ポスター

北川康太, *植竹淳* 2024 年 9 月 18 日, 全国における雪氷藻類の地理分布. 雪氷研究大会（2024・長岡）, 長岡, ポスター

鈴木暁音, *工藤岳* 2025 年 3 月 18 日, 開花フェノロジーの時空間変動が高山植物の結実と種子食害に及ぼす効果. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, ポスター

髙木惇司, *中村誠宏*, 寺田千里 2025 年 3 月 17 日, シカ死体の腐肉が森林の土壌微生物群集の分解機能を上げる. 日本生態学会第 72 回全国大会, 札幌, 口頭

畦志浩, 稲田真夕, *芳村毅*, *伊佐田智規* 2024 年 9 月 19 日, 厚岸湾におけるサイズ別粒子状有機物の炭素：窒素：リン：ケイ素組成比の季節変動. 2024 年度日本海洋学会秋季大会, 東京, 口頭

環境物質科学専攻

Arai, N., Sheet, N., *Osuga, R.*, *Suganuma, S.*, Murayama, T., *Nakajima, K.* 2024 年 11 月 28 日, Oxidative esterification of HMF dimethyl acetal using supported Au catalyst prepared by sol immobilization method. 第 54 回石油・石油化学討論会, 広島, 口頭

Arsyad, R., *Takeyasu, K.* 2024 年 10 月 22 日, Investigating the roles of graphitic-N and five-membered carbon rings structures of N-doped carbon-based catalyst in oxygen reduction reaction. The 10th International Symposium on Surface Science, 北九州, 口頭

Badiruzzaman, M. 2024 年 6 月 22 日, Protein-gold nanoparticle conjugation: A tailored approach through N-terminal covalent modification for oriented attachment. 第 50 回生体分子科学討論会, 横浜, ポスター

Bhat, N. S., Quan, S., *Osuga, R.*, Yabushita, M., *Suganuma, S.*, *Nakajima, K.* 2024 年 11 月 28 日, Direct conversion of glucose to C_2 and C_4 carbohydrates in ethanol by selective retro-aldolization and subsequent acetalization. 第 54 回石油・石油化学討論会, 広島, 口頭

Connolly, L. 2024 年 10 月 23 日, Immobilization of green fluorescent proteins modified with an alkyl chain groups at the N-terminus onto the surface of liposome. The 8th ICReDD International Symposium, 札幌, ポスター

Dastidar, R. G., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2024 年 9 月 5 日, Photoluminescence enhancement in zero-dimensional hybrid copper halide microcrystals. 2024 年光化学討論会, 福岡, ポスター

Dong, E., *Onoda, A.* 2024 年 6 月 22 日, Enabling N-terminal protein modification of polyethylene glycol derivatives with 1*H*-1,2,3-triazole-4-carbaldehyde. 第 50 回生体分子科学討論会, 横浜, ポスター

Hajri, S. A., Bhat, N. S., Quan, S., *Osuga, R.*, *Suganuma, S.*, *Nakajima, K.* 2024 年 11 月 28 日, Selective carbon–carbon bond cleavage of glucose to C_4 and C_2 carbohydrate fragments in ethanol by zeolite-supported niobium oxide catalyst. 第 54 回石油・石油化学討論会, 広島, 口頭

Haneda, M., *Takahashi, K.*, Hasuo, N., *Huang, R.*, *Wu, J.*, *Xue, C.*, *Nakamura, T.* 2024 年 12 月 13 日, Three-step change in negative thermal expansion of molecular ionic crystal triggered by molecular motions. ISAJ Hokkaido 2024 Symposium on Collaborative Solutions for a Sustainable World, 札幌, ポスター

Hassan, M. M., Nakashuku, A., *Shichibu, Y.*, *Konishi, K.* 2024 年 11 月 15 日, Inner-space modification of a $\{Mo_{132}\}$ cage host with thiol-appended carboxylate ligands. 第 10 回錯体化学若手の会北海道支部勉強会, 札幌, ポスター

Hassan, M. M., Nakashuku, A., *Shichibu, Y.*, *Konishi, K.* 2024 年 9 月 18 日–20 日, Inner-space modification of a $\{Mo_{132}\}$ cage host with thiol-appended carboxylate ligands. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

Hayashida, K., Rafiq, A., Saito, S., Fujita, S., Isegawa, M., Yoshida, Y., Nakamura, J., Kondo, T., *Takeyasu,*

K. 2024 年 10 月 22 日, Activation mechanism of fuel cell carbon catalysts based on spin structure. The 10th International Symposium on Surface Science, 北九州, 口頭

Hu, X., *Saito, Y.*, *Shichibu, Y.*, *Konishi, K.* 2024 年 9 月 13 日, Formation of sizable nanoobjects through the self-assembling of PEG-modified Au_{25} clusters. 2024 年度北海道高分子若手研究会, 留寿都, ポスター

Hu, X., *Shichibu, Y.*, *Konishi, K.* 2025 年 3 月 26 日, Formation of polygonal nanocrystals composed of gold nanoclusters. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Kamiya, Y., Sato, K., Mon-Ma, S., Song, Y., *Otomo, R.* 2025 年 1 月 9 日, Reductive decomposition of nitrous oxide over supported iridium catalysts at low temperature. 18th Taiwan-Japan Joint Symposium on Catalysis, 福岡, 口頭

Kamiya, Y., Yan, B., Kato, K., *Otomo, R.* 2024 年 7 月 24 日, Rapid removal and catalytic decomposition of nitrate in water using anion-exchange resin with metal nanoparticles for purification of polluted water. The 6th International Conference on Chemical Science, インドネシア・ジョグジャカルタ, 口頭

Kamwezi, G., 野田純希, 瀬野修一郎, Ronny, M., *小野田晃* 2025 年 3 月 28 日, 機械的特性を改善したキチン・キトサンバイオプラスチックの開発. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭*

Kato, M., Sarker, A. C., Zheng, J., Saito, F., Kawamura, M., Unuma, Y., *Yagi, I.* 2024 年 10 月 10 日, PtPdSn electrocatalysts for nitrous oxide reduction. Pacific Rim Meeting on Electrochemical & Solid-State Science 2024, アメリカ・ハワイ, 口頭

Kato, M., Zhuang, Y., Kato, Y., Iguchi, Y., Li, T., Tanioku, S., *Yagi, I.* 2024 年 10 月 9 日, Durability and structural transformation of Pt alloy nanowires and nanoparticles for the oxygen reduction reaction in acidic media. Pacific Rim Meeting on Electrochemical & Solid-State Science 2024, アメリカ・ハワイ, 口頭

Kojima, M., Noda, J., Martinez, R., *Onoda, A.* 2024 年 4 月 24 日, Evaluation of adhesive properties of composite materials containing chitosan and 3,4-dihydroxybenzaldehyde. ISBC2024 シンポジウム, 名古屋, 口頭

Liu, H., Liu, J., *Konishi, K.*, *Shichibu, Y.* 2024 年 7 月 20 日, Synthesis and characterization of hexanuclear Pt thiolate complexes with unique structures. 日本化学会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭

Ma, Z., *Kato, M.*, *Yagi, I.* 2024 年 9 月 6 日, Unveiling the electrocatalytic activity origin of copper complexes with 3,5-diamino-1,2,4-triazole ligands for N2O reduction. The 29th International SPACC Symposium ”Functional Materials and Complexes for a Sustainable Future", 札幌, ポスター

Ma, Z., *Kato, M.*, *Yagi, I.* 2025 年 3 月 18 日, High turnover frequency in the electrocatalytic reduction of nitrous oxide to dinitrogen on a binuclear copper complex. 電気化学会第 92 回大会, 小金井, 口頭

Maeda, I., Yasuda, T., *Onoda, A.* 2024 年 10 月 23 日, N-terminal modification of antibodies using triazolecarbaldehyde derivatives containing a fluorescent dye. The 8th ICReDD International Symposium, 札幌, ポスター

Maladan, A., *Biju, V.*, Ramesh, A., Sahu, P. K., Duvvuri, S., Subrahmanyam, C. 2024 年 12 月 10 日, Rod-shaped spinel Co_3O_4 and carbon nitride heterostructure modified fluorine-doped tin oxide electrode as an electrochemical transducer for efficient sensing of hydrazine. The 25th RIES - Hokudai International Symposium 緯, 札幌, ポスター

Maladan, A., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2025 年 3 月 27 日, Synthesis of titanium nitride semiconductor nanocrystals. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Quan, S., Navya, B., *Osuga, R.*, *Suganuma, S.*, Kato, H., *Nakajima, K.* 2025 年 1 月 21 日, Retro-

aldolization of glucose using mixed-metal oxide catalysts. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

Sari, I. N., *Umezawa, T.* 2024 年 6 月 28 日, Development of aldehyde-forming Nef reaction initiated by singlet oxygen. 第 124 回有機合成シンポジウム, 札幌, 口頭

Shuvo, M. S. R., *Onoda, A.* 2024 年 10 月 23 日, Enhancing enzymatic breakdown of polyethylene terephthalate by cutinase tethering hydrophobic moiety at N-terminus. The 8th ICReDD International Symposium, 札幌, ポスター

Shuvo, M. S. R., *Onoda, A.* 2024 年 6 月 11 日, Enhancing enzymatic breakdown of polyethylene terephthalate by cutinase tethering hydrophobic moiety at N-terminus. 24th Annual Meeting of Protein Science Society of Japan, 札幌, ポスター

Sl, A., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2024 年 12 月 10 日, Pi-stacking-induced self-assembly of $CsPbBr_3$ into supercrystals. The 25th RIES - Hokudai International Symposium 緯, 札幌, ポスター

Sl, A., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2025 年 3 月 27 日, Perovskite nanocrystal assembly formation by π–π stacking interaction of ligands. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Wang, T., Duan, L., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2024 年 12 月 10 日, Ultrafast photoluminescence blinking of $MAPbI_3$ quantum dots coupled with Au nanorods plasmon. The 25th RIES - Hokudai International Symposium 緯, 札幌, ポスター

Wang, T., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2024 年 9 月 4 日, Ultrafast photoluminescence blinking in $MAPbI_3$ perovskite quantum dots on gold nanoparticles. 2024 年光化学討論会, 福岡, ポスター

Wiesfeld, J. J., Iriba, K., *Osuga, R.*, *Suganuma, S.*, *Nakajima, K.* 2024 年 9 月 19 日, Phenol production from cashew nutshell-derived cardanol through zeolite-catalyzed dealkylation. 第 134 回触媒討論会, 名古屋, 口頭

Xia, Y., Khatun, M. F., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2024 年 12 月 10 日, Controlling anion exchange in lead halide perovskite heterojunction. The 25th RIES - Hokudai International Symposium 緯, 札幌, ポスター

Xia, Y., Khatun, M. F., *Okamoto, T.*, *Biju, V.* 2025 年 3 月 29 日, Stabilization of inter-halogen interfaces in heterojunction halide perovskites. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Xu, S., *Onoda, A.* 2024 年 10 月 23 日, Accurate and fast prediction of protein p*K*a by protein language model. The 8th ICReDD International Symposium, 札幌, ポスター

Xu, S., *Onoda, A.* 2024 年 6 月 11 日, Accurate prediction of intrinsically disordered protein by protein language models. 24th Annual Meeting of Protein Science Society of Japan, 札幌, ポスター

Yan, M., Namari, N. A. P., Arsyad, R., Suzuki, H., Nakamura, J., *Takeyasu, K.* 2024 年 11 月 3 日–8 日, Kinetic theory of mixed-potential-driven catalysis and the experimental proof. American Vacuum Society 70th International Symposium & Exhibition, アメリカ・タンパ, 口頭

Yoshida, K., Kawabata, T., Nakagawa, T., Suzuki, T., *Biju, V.*, *Takano, Y.* 2024 年 9 月 4 日, Organic molecular near-infrared photocatalyst based on sulfone-rosamine. 2024 年光化学討論会, 福岡, 口頭

Yutong, Y., *大須賀遼太*, *菅沼学史*, 加藤英樹, *中島清隆* 2024 年 5 月 29 日, 結晶性ニオブ酸化物を用いたキシロース脱水反応. 石油学会第 66 回年会, 東京, 口頭

Zhou, H., *Okamoto, T.*, *Takahashi, K.*, *Biju, V.* 2025 年 3 月 29 日, Defect-assisted emission of hybrid indium bromide single crystals. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

Zhou, H., *Okamoto, T.*, *Takahashi, K.*, *Takano, Y.*, *Biju, V.* P. 2024 年 12 月 10 日, Defect-assisted emission from $(C_{10}H_{22}N_2)_4In_4Br_{20}$ crystals. The 25th RIES - Hokudai International Symposium 緯, 札幌, ポスター

コノリー里沙, *小野田晃* 2025 年 2 月 15 日, アルキル基を N 末端修飾した緑色蛍光タンパク質のリポソーム表面への固定化とその評価. 第 1 回 SReP 領域公開シンポジウム, 東京, ポスター

コノリー里沙, *小野田晃* 2025 年 3 月 29 日, アルキル基を N 末端修飾した緑色蛍光タンパク質のリポソーム表面への固定化とその評価. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

羽田将人 2024 年 9 月 3 日, 輪軸型超分子カチオンの結晶内分子運動と負の熱膨張. 動的分子を機序にした分子固体化学の探究　第 4 回研究会, 熊本, 口頭

羽田将人, *高橋仁徳*, 蓮尾直洋, *黄瑞康*, *呉佳冰*, *薛晨*, *中村貴義* 2024 年 9 月 21 日, 2,2'-Oxybis(ethane-1-aminium)と[18]crown-6 誘導体からなる超分子カチオンを利用した結晶の熱膨張制御. 第 18 回分子科学討論会, 京都, 口頭

奥村日向, *諸角達也*, *梅澤大樹* 2024 年 7 月 20 日, ターボグリニア試薬を用いたビシナル及びジェミナルジブロモアルケンからのアルキン合成. 日本化学会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭

奥村日向, *梅澤大樹* 2024 年 7 月 13 日, ターボグリニア試薬を用いたビシナル及びジェミナルジブロモアルケンからのアルキン合成. 第 36 回万有札幌シンポジウム, 札幌, ポスター

加藤優, 岡紗雪, 大橋龍人, 松島永佳, 山口峻英, 菅井碧宙, 星野翔吾, *八木一三* 2025 年 3 月 10 日, ラッカーゼのアミノ酸修飾 Au(111)電極へのエナンチオ選択的吸着と酸素還元活性. 日本表面真空学会　東北・北海道支部令和 6 年度学術講演会, 札幌, 口頭

加藤優, 加藤優太, 庄宇, 齋藤駿, *八木一三* 2024 年 10 月 25 日, Pt 合金ナノワイヤにおけるカーボンナノ細孔反応場の活用と自己強化機能の付与. 第 15 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー, 三島, ポスター

吉村和也, Wiesfeld, J. J., *大須賀遼太*, *菅沼学史*, *中島清隆* 2025 年 1 月 21 日, 固体触媒を用いたバイオマス由来フラン化合物の Diels-Alder 反応による p-キシレン合成. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

許嵐, 森田空翔, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 3 月 26 日, 異種金属が導入されたサブナノ金クラスターの合成と光学特性. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

許嵐, 森田空翔, 村田千夏, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 9 月 18 日–20 日, 合金サブナノ金クラスターの合成と特性. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

金丸和矢, *高橋仁徳*, *黄瑞康*, *薛晨*, *呉佳冰*, *中村貴義* 2024 年 10 月 26 日, 結晶溶媒を含む[Ni(dmit)2] 塩における溶媒脱離に伴う構造変化と熱膨張の多段階変化. 第 32 回有機結晶シンポジウム, 東京, 口頭

原田由葵乃, 佐藤龍磨, 中島捷吾, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 10 月 23 日, 巨大ミセル内部に内包された金クラスターの自己組織化と凝集誘起型発光性の検討. 第 14 回 CSJ 化学フェスタ 2024, 東京, ポスター

原田由葵乃, 佐藤龍磨, 中島捷吾, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 11 月 15 日, 巨大ミセル内部に内包された金クラスターの自己組織化と凝集誘起型発光性の検討. 第 10 回錯体化学若手の会北海道支部勉強会, 札幌, ポスター

厳韶璟, *七分勇勝*, *大須賀遼太*, *中島清隆*, *小西克明* 2025 年 3 月 29 日, ホスフィン配位 Au_{13} を用いた光スイッチ型 NH_3BH_3 脱水素反応. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

厳韶璟, 中島朋隆, *七分勇勝*, *大須賀遼太*, *中島清隆*, *小西克明* 2024 年 11 月 15 日, ホスフィン配位金クラスターによる光誘起型アンモニアボラン分解反応の解析. 第 10 回錯体化学若手の会北海道支部勉強会, 札幌, ポスター

厳韶璟, 中島朋隆, *七分勇勝*, *大須賀遼太*, *中島清隆*, *小西克明* 2024 年 9 月 18 日–20 日, ホスフィン配位金クラスターによる光誘起型アンモニアボラン分解反応の解析. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

胡暁雨, 七分勇勝, *小西克明* 2024 年 9 月 27 日, 分子状金クラスターの自己組織化による独特な形状のナノ構造体の形成. 第 73 回高分子討論会, 新潟, ポスター

胡暁雨, *齋藤結大*, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 5 月 23 日, PEG 修飾 Au_{25} クラスターの自己組織化による巨大ナノオブジェクトの形成. ナノ学会第 22 回大会, 仙台, 口頭

五十嵐輝夫, 山本慎尋, *廣川淳* 2024 年 10 月 9 日, リモネン由来二次有機エアロゾル生成に対する添加剤の効果. 第 29 回大気化学討論会, 神戸, 口頭

工藤功士郎, *諸角達也*, *梅澤大樹* 2024 年 7 月 20 日, ブロモアルキンからのアセチリドの発生と付加反応への応用. 日本化学会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭

高野勇太, Akter, R., Kirkwood, N., Zaman, S., Wang, T., Mulvaney, P., *Biju, V.* 2024 年 9 月 4 日, 生体触媒ナノ粒子成形法による量子ドットおよびポルフィリン集合体の作製. 2024 年光化学討論会, 福岡, 口頭

佐々涼水, Sheet, N., *大須賀遼太*, *菅沼学史*, *中島清隆* 2024 年 11 月 28 日, バイオマス由来フラン化合物のフラン環の選択的水素化. 第 54 回石油・石油化学討論会, 広島, 口頭

佐藤龍磨, 大郷和暉, 中島捷吾, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 3 月 26 日, 金クラスターのナノ結晶化と光学応答. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

佐藤龍磨, 中島捷吾, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 9 月 27 日, 界面活性剤共存下での金クラスター集積構造の制御と光学応答. 第 73 回高分子討論会, 新潟, ポスター

佐藤龍磨, 中島捷吾, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 1 月 23 日, サブナノ金クラスターの自己集積化と AIE 挙動. 第 59 回北海道支部研究発表会, 札幌, 口頭

佐藤龍磨, 中島捷吾, 須田綾乃, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 5 月 23 日, 界面活性剤共存下での金クラスターのナノ集積構造と光学応答. ナノ学会第 22 回大会, 仙台, ポスター

山田幸司, 市村天, 井村朱里, 上江洲杏佳, *諸角達也* 2024 年 5 月 18 日, 環境に対して波長応答する蛍光性生体材料 FluoraBlocks の開発. 第 84 回分析化学討論会, 京都, 口頭

山田幸司, 前田渉希, *諸角達也* 2025 年 3 月 26 日, 環境応答性蛍光色素 FluoraBlocks で標識したアルギン酸ゲルの環境保全利用. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, ポスター

山田幸司, 木下博貴, 前田渉希, *諸角達也* 2024 年 7 月 20 日, 環境応答性蛍光色素 FluoraBlocks の効率的な合成法の開発. 化学系学協会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭*

山田侑奈, *諸角達也*, *梅澤大樹* 2024 年 7 月 20 日, Triproamide の合成研究. 日本化学会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭

山田侑奈, *諸角達也*, *梅澤大樹* 2024 年 9 月 5 日, Triproamide の合成研究. 第 66 回天然有機化合物討論会, 京都, ポスター

七分勇勝, 鈴木麟太郎, *小西克明* 2024 年 9 月 20 日, 金クラスターの配位子殻修飾と評価. 第 18 回分子科学討論会, 京都, 口頭

小島摩利子, Molla, M. I., *小野田晃* 2025 年 2 月 15 日, タンパク質 N 末端修飾技術を用いた機能性脂質ナノ粒子の開発. 第 1 回 SReP 領域公開シンポジウム, 東京, ポスター

小野田晃, Shuvo, M. S. R., Joel, M. 2024 年 9 月 18 日, 疎水部位を N 末端に連結したクチナーゼの PET 加水分解の評価. 第 134 回触媒討論会, 名古屋, 口頭

新井直 2024 年 9 月 6 日, 担持 Au 触媒を用いた酸化的エステル化反応による 2,5-フランジカルボン酸の合成. 触媒学会若手会「第 44 回夏の研修会」, 金沢, 口頭

新井直, Sheet, N., *大須賀遼太*, *菅沼学史*, 村山 徹, *中島清隆* 2024 年 5 月 29 日, HMF ジメチルアセタールの酸化的エステル化によるフランジカルボン酸メチルの合成. 石油学会第 66 回年会, 東京, 口頭

新井直, Sheet, N., *大須賀遼太*, *菅沼学史*, 村山徹, *中島清隆* 2024 年 9 月 19 日, コロイド固定化法により調製した担持 Au 触媒を用いたバイオマス由来フラン化合物の酸化的エステル化反応. 第 134 回触媒討論会, 名古屋, 口頭

前田渉希, *諸角達也*, *山田幸司* 2024 年 9 月 11 日, 環境応答性蛍光色素 FluoraBlocks で標識したアルギン酸ゲルの開発. 日本分析化学会第 73 年会, 名古屋, ポスター

前田渉希, *諸角達也*, *山田幸司* 2025 年 1 月 21 日, 環境応答性蛍光色素 FluoraBlocks で標識したアルギン酸ゲルの開発と評価. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

前田侑也, 安田貴信, 北口哲也, *小野田晃* 2025 年 2 月 15 日, トリアゾールカルボアルデヒド誘導体を用いて N 末端蛍光標識した抗体の調製と抗原結合能の評価. 第 1 回 SReP 領域公開シンポジウム, 東京, ポスター

前田侑也, 安田貴信, 北口哲也, *小野田晃* 2025 年 3 月 29 日, トリアゾールカルボアルデヒド誘導体を用いて N 末端蛍光標識した抗体の調製と抗原結合能の評価. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

宋雨濃, 佐藤加奈, *大友亮一*, *神谷裕一* 2025 年 1 月 21 日, 低温で亜酸化窒素を還元分解する担持イリジウム触媒へのニッケル添加効果. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

相内優里, 小島摩利子, Martinez, R., *小野田晃* 2025 年 3 月 28 日, N 末端修飾試薬 1*H*-1,2,3-トリアゾールカルボアルデヒド誘導体を用いたキトサナーゼ固定化レジンの調製と酵素活性評価. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, ポスター

大郷和暉, 中島捷吾, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 11 月 15 日, 界面活性剤共存下でナノ結晶化した金クラスターの形状と光学特性の相関. 第 10 回錯体化学若手の会北海道支部勉強会, 札幌, ポスター

大須賀遼太, Bhat, N. S., 石泉, 藪下瑞帆, *菅沼学史*, Hensen, E. J. M., *中島清隆* 2024 年 9 月 19 日, 反応場を分離したアセタール保護に基づくグルコースの逆アルドール反応生成物の高収率化. 第 134 回触媒討論会, 名古屋, 口頭

大須賀遼太, Bhat, N. S., 石泉, 藪下瑞帆, *菅沼学史*, Hensen, E. J. M., *中島清隆* 2025 年 3 月 19 日, ゼオライト触媒による in-situ アセタール保護に基づくグルコースの逆アルドール反応生成物の高収率化. 第 135 回触媒討論会, 豊中, 口頭

大須賀遼太, 袁俣瞳, *菅沼学史*, 加藤英樹, *中島清隆* 2024 年 11 月 28 日, キシロースの脱水反応における準安定なニオブ酸化物の触媒作用. 第 54 回石油・石油化学討論会, 広島, 口頭

中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 11 月 15 日, {Mo_{132}}球状クラスターへのゲスト閉じ込め機能. 第 10 回錯体化学若手の会北海道支部勉強会, 札幌, ポスター

中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 6 月 2 日, 固相・液相での中空型ポリ酸 {Mo_{132}} ホストへのゲスト閉じ込め. 第 21 回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム, 京都, ポスター

中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 9 月 18 日–20 日, {Mo_{132}}球状クラスターへのゲスト閉じ込め機能. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 3 月 27 日, かご状金属酸化物 {Mo_{132}}への有機ゲスト閉じ込め. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

中宿朱里, 申栽燮, 村田千夏, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 5 月 22 日, {Mo_{132}}ナノケージ内部空間への有機ゲストの物理的閉じ込め. ナノ学会第 22 回大会, 仙台, 口頭

張昶, 黄凱立, *大友亮一*, *神谷裕一* 2025 年 1 月 21 日, 水中過塩素酸イオン還元分解に活性を示す担持ルテニウム触媒へのイリジウムの添加効果. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

張晏, Badiruzzaman, M., *小野田晃* 2024 年 6 月 22 日, ビストリアゾールカルボアルデヒド誘導体による N 末端修飾を利用したバイオコンジュゲーション手法の開発. 第 50 回生体分子科学討論会, 横浜, ポスター

長岡佑哉, 長谷政彦, *小野田晃* 2025 年 3 月 26 日, タンパク質の特異的化学修飾を利用した次世代マイクロキャリアの開発. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

陳子豪, *大友亮一*, *神谷裕一* 2025 年 1 月 21 日, アミノシランを修飾したシリカへのパラジウムの担持と触媒利用. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

入場啓介, Wiesfeld, J., *大須賀遼太*, *菅沼学史*, *中島清隆* 2024 年 11 月 28 日, カルダノールのトランスアルキル化反応によるバイオマス由来フェノールの合成. 第 54 回石油・石油化学討論会, 広島, 口頭

八木一三, 岡紗雪, 吉本惣一郎, 西田優也, 新谷泰範, *加藤優* 2024 年 9 月 18 日, キラルアミノ酸修飾 Au 単結晶電極における生体分子のエナンチオ選択的吸着と触媒活性. 第 18 回分子科学討論会, 京都, 口頭

福原天音, 中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2024 年 11 月 15 日, {Mo_{132}}の外表面との有機物の相互作用の検討. 第 10 回錯体化学若手の会北海道支部勉強会, 札幌, ポスター

福原天音, 中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 1 月 22 日, {Mo_{132}}クラスター外表面と有機小分子の相互作用の検討. 化学系学協会北海道支部 2024 年冬季研究発表会, 札幌, ポスター

福原天音, 中宿朱里, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 3 月 27 日, {Mo_{132}}クラスター外表面と有機小分子の相互作用の検討. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

木下博貴, 上江洲杏佳, 楢本悟史, *諸角達也*, *山田幸司* 2024 年 9 月 12 日, 水溶性 FluoraBlocks を用いたシロイヌナズナの根の蛍光イメージング. 日本分析化学会第 73 年会, 名古屋, 口頭

木下博貴, 上江洲杏佳, 楢本悟史, *諸角達也*, *山田幸司* 2024 年 9 月 12 日, 水溶性 FluoraBlocks を用いたシロイヌナズナの根の蛍光イメージング. 日本分析化学会第 73 年会, 名古屋, 口頭

立石新, 陳ユン, 張雲雅, *齋藤結大*, *鄭キン*, *野呂真一郎* 2024 年 7 月 20 日, 光反応性配位子を有する Cd 配位高分子の合成と光二量化挙動. 日本化学会北海道支部 2024 年夏季研究発表会, 北見, 口頭*

林士琦, *七分勇勝*, *小西克明* 2025 年 3 月 26 日, BINAP 系配位子で保護された金クラスターの合成と光特性. 日本化学会第 105 春季年会, 吹田, 口頭

林士琦, 鈴木麟太郎, *小西克明*, *七分勇勝* 2024 年 9 月 18 日–20 日, キラルジホスフィン配位金クラスターの合成と光学特性. 錯体化学会第 74 回討論会, 岐阜, ポスター

鈴木幸四郎, *加藤優*, *八木一三* 2025 年 3 月 18 日, 4 元合金ナノ粒子電極触媒の亜酸化窒素還元活性. 電気化学会第 92 回大会, 小金井, 口頭

蓮見正仁, *大須賀遼太*, *菅沼学史*, *中島清隆* 2025 年 1 月 21 日, 固体触媒を用いたフランジカルボン酸メチルとエチレングリコールのトランスエステル化反応. 化学系学協会北海道支部 2025 年冬季研究発表会, 札幌, 口頭

16－4　受賞

環境起学専攻

Zhao, C., 2025 年 3 月 18 日, 第 72 回日本生態学会大会 Best English Presentation Award (Succession and regeneration)

イ　ウン, 2024 年 9 月 18 日, 応用生態工学会第 27 回大会 優秀ポスター発表賞

斎藤淳也, 2025 年 3 月 18 日, 第 72 回日本生態学会大会 ポスター発表優秀賞（生態系管理・生態学教育・普及）

崎山智樹, *Molinos, J. G.*, 2024 年 9 月 9 日, 日本哺乳類学会 2024 年度大会 最優秀ポスター賞

若尾和哉, 田村健太, *佐藤友徳*, 2025 年 3 月 26 日, 日本地球惑星科学連合 2024 年大会 学生優秀発表賞（固体地球科学セクション）

地球圏科学専攻

Lurette, C., 2024 年 9 月 26 日, 第 41 回有機地球化学シンポジウム 学生優秀発表賞

ビクムリナ ザリナ, 2024 年 5 月 28 日, 日本地球惑星科学連合 2024 年大会 学生優秀発表賞（地

球人間圏科学セクション）
久保悠, 2024 年 10 月 26 日，日本腐植物質学会第 40 回講演会 優秀口頭発表賞
権田拓弥, 2024 年 5 月 30 日，日本地球惑星科学連合 2024 年大会 学生優秀発表賞（地球人間圏科学セクション）
中田英太朗, 2024 年 12 月 19 日，日本気象学会 2024 年度秋季大会 松野賞

生物圏科学専攻

Haginouchi, T., Nishino, D., Zhang, Y., Gonzalez, J. M., *Gotoh, T.*, 2024 年 7 月 11 日, Joint AAAP & AAAS Aimal Production Congress 2024 Poster Award
Jia, W., *Koizumi, I.*, 2025 年 3 月 18 日，第 72 回日本生態学会大会 Excellent English Presentation Award (Conservation)
Jia, W., Tanaka, K., Konno, T., *Koizumi, I.*, 2024 年 9 月 20 日, The 24th Symposium of the International Association of Astacology Student Travel Award
Nomura, K., *Utsumi, S.*, 2024 年 11 月 16 日, The Joint Meeting of the 40th Annual Meeting of the Society of Population Ecology and the 7th the Taiwan-Japan Ecology Workshop Best poster award
Okuma, F., *Utsumi, S.*, 2024 年 11 月 16 日, The Joint Meeting of the 40th Annual Meeting of the Society of Population Ecology and the 7th the Taiwan-Japan Ecology Workshop Excellent poster award
Phomvisith, O., Muroya, S., Haginouchi, T., Nishino, D., *Gotoh, T.*, 2024 年 7 月 1 日, Joint AAAP & AAAS Aimal Production Congress 2024 Poster Award
岩城悠祐, 2024 年 7 月 1 日, 2024 年度公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金
津金響子, 2025 年 3 月 18 日，第 72 回日本生態学会大会 Excellent English Presentation Award (Animal community)
八重樫健吾, 2025 年 3 月 26 日，令和 7 年度漁業懇話会 奨励賞
浜中修也，坂井励，*小林真*，*内海俊介*, 2025 年 3 月 18 日，第 72 回日本生態学会大会 ポスター発表優秀賞（生物多様性）
武井陸, 2024 年 11 月 15 日, 7th International Conference on Duckweed Research and Application Best Poster Presentation Award
木立真凜，*内海俊介*, 2025 年 3 月 18 日，第 72 回日本生態学会大会 ポスター発表優秀賞（動物と植物の相互関係）
楊梓桐, 2024 年 12 月 13 日, 2024 年度北海道植物学会大会 ポスター優秀賞

環境物質科学専攻

Khatun, F. M., 2024 年 9 月 6 日，第 10 回北大・部局横断シンポジウム ベストポスター賞
Maladan, A., 2025 年 3 月 29 日，日本化学会第 105 春季年会 学生講演賞（物理化学関係）
Sl, A., 2024 年 12 月 10 日, The 25th RIES-HOKUDAI International Symposium Poster Awards
Sl, A., *Okamoto, T.*, *Biju, V.*, 2024 年 12 月 13 日, Indian Scientists Association in Japan Best Poster Awards

＜令和５年度報告書以前の記載漏れ＞
Quan, S., 2024 年 1 月 24 日，化学系学協会北海道支部 2024 年冬季研究発表会 優秀講演賞

１７　修了後の進路

１７－１　博士後期課程修了者

令和６年度修了者（令和７年５月１日現在）

就職先別統計

製造業５、学術研究、専門・技術サービス業４、教育、学習支援業 25、公務３

計　37

主な進路

環境起学専攻

北海道大学、京都大学、UMS Malaysia university（マレーシア）、Jahangirnagar University（バングラデシュ）、Jashore University of Science and Technology（バングラデシュ）、国立リモートセンシングセンター（ザンビア）

地球圏科学専攻

北海道大学

生物圏科学専攻

ナルックス株式会社、三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社、国立研究開発法人水産研究・教育機構、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、北海道大学、京都大学、兵庫県立大学、Huazhong Agricultural University（中国）、モンクット王工科大学（タイ王国）、Ministry of Agriculture and Forestly（ラオス）、Tanzania Official Seed Certification Institute（タンザニア）

環境物質科学専攻

イビデン株式会社、山陽色素株式会社、マイクロン・テクノロジー株式会社、技術研究組合 FC-Cubic、北海道大学、広島大学、Khulna University（バングラデシュ）

１７−２　修士（博士前期）課程修了者

令和６年度修了者（令和７年５月１日現在）

就職先別統計

進学 33、農業、林業２、建設業５、製造業 25、電気・ガス・熱供給・水道業５、情報通信業 12、運輸・郵便業２、卸売・小売業４、金融・保険業１、学術研究、専門・技術サービス業 17、宿泊業、飲食サービス業１、生活関連サービス業、娯楽業１、教育、学習支援業５、複合サービス事業２、サービス業１、公務４、その他２

計 122

主な進路

環境起学専攻

いであ株式会社、株式会社インタラック北日本、株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル、株式会社 NJS、川崎汽船株式会社、シャープ株式会社、デロイト トーマツ アクト株式会社、東洋製罐グループホールディングス株式会社、日揮グローバル株式会社、株式会社ニトリ、株式会

社日本総合研究所、日立ヴァンタラ株式会社、株式会社船井総合研究所、株式会社北海道技術コンサルタント、北海道旅客鉄道株式会社、モメンティブ･パフォーマンス･マテリアルズ･ジャパン合同会社、環境省、北海道庁、市川市、北海道当別高等学校、北海道幌加内高等学校、Shuifa Group Co Ltd（中国）、Longfor Group Holdings Limited（中国）、Oy Arbonaut Ltd（フィンランド）、WASH department of the municipality of Antananarivo（マダガスカル）

地球圏科学専攻
株式会社アカシック、伊藤忠商事株式会社、ENEOS 株式会社、株式会社岐阜新聞社、株式会社 CONSCIENCE、株式会社サンリオ、ＪＦＥシステムズ株式会社、株式会社神鋼環境ソリューション、住友電気工業株式会社、双日株式会社、損害保険ジャパン株式会社、株式会社 中辻金物、日本製鉄株式会社、富士通株式会社、北海道電力株式会社、株式会社リクルート

生物圏科学専攻
味の素株式会社、株式会社ウエスコ、NEC ソリューションイノベータ株式会社、株式会社 NTT ドコモ、株式会社 NHK エンタープライズ、株式会社 NTT データグループ、応用技術株式会社、京セラ株式会社、株式会社建設技術研究所、サティス株式会社、サミー株式会社、株式会社 JERA、住友林業株式会社、ゼブラ株式会社、タキイ種苗株式会社、東京電力エナジーパートナー株式会社、日本気象株式会社、日本データサービス株式会社、日本電気株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、パブリックコンサルタント株式会社、株式会社ヒューマニック、富士通株式会社、株式会社フレクト、北海道電力株式会社、みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社、三井化学株式会社、三菱重工業株式会社、雪印メグミルク株式会社、リニューアブル・ジャパン株式会社、株式会社リバネス、株式会社リンクアンドモチベーション、美瑛町農業協同組合、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、山形県教育委員会、学校法人共愛学園

環境物質科学専攻
株式会社ソフトウエア・サイエンス、太陽ホールディングス株式会社、DOWA ホールディングス 株式会社、日鉄ケミカル&マテリアル株式会社、日本曹達株式会社、ハイケム株式会社、本田技研工業株式会社、三菱マテリアル株式会社、よつ葉乳業株式会社

Ⅴ　補　　遺

１８　規程

○北海道大学大学院環境科学院規程

平成17年4月1日
海大達第49号

第1章　総則

(趣旨)

第1条　この規程は、国立大学法人北海道大学組織規則(平成16年海大達第31号)第27条の3第4項の規定に基づき、環境科学院(以下「本学院」という。)の教育課程等に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第1条の2　本学院は、自然科学に基礎をおき、地球規模の環境問題の解明と解決を目指す教育研究を行うとともに、これらの課題に取り組む研究者及び高度専門職業人の養成を目的とする。

第1章の2　専攻及び課程

(専攻)

第1条の3　本学院に、次の専攻を置く。

環境起学専攻
地球圏科学専攻
生物圏科学専攻
環境物質科学専攻

(課程)

第2条　本学院の課程は、博士課程とする。

第2章　入学、再入学、転学、所属変更及び転専攻

(入学)

第3条　本学院に入学することのできる者は、北海道大学大学院通則(昭和29年海大達第3号。以下「通則」という。)第4条第5項に規定する修士課程(以下「修士課程」という。)にあっては、通則第10条第1項各号のいずれかに、通則第4条第5項に規定する博士後期課程(以下「博士後期課程」という。)にあっては、通則第10条第2項各号のいずれかに該当する者とする。

2　前項に規定する者のうち、本学院の行う選考に合格した者については、教授会の議を経て、総長が入学を許可する。

(再入学及び転学)

第4条　通則第13条各号に該当する者が本学院に再入学又は転学を願い出た場合は、選考の上、教授会の議を経て、総長がこれを許可することがある。

(所属変更及び転専攻)

第4条の2　通則第13条の2第1号に該当する者が本学院に所属の変更を願い出た場合及び通則第13条の2第2号に該当する者が転専攻を願い出た場合は、選考の上、教授会の議を経て、学院長がこれを許可することがある。

第3章　授業科目、修了要件、履修方法及び試験

(授業科目及び単位)

第5条　各専攻の授業科目及び単位は、別表のとおりとする。

2　前項に規定する授業科目のほか、必要がある場合においては、教授会の議を経て、臨時の授業科目を設けることができる。

(単位数の計算の基準)

第5条の2　各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1)　講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2)　演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3)　実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

(課程の修了要件)

第6条　修士課程の修了要件は、大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、本学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

2　本学院において教育上有益と認めるときは、本学院の他の専攻、北海道大学(第10条において「本学」という。)の大学院の研究科、他の学院若しくは教育部の専攻の授業科目又は学部の授業科目若しくは北海道大学専門横断科目規程(平成31年海大達第50号)に定める専門横断科目を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができる。

3　本学院において教育上有益と認めるときは、北海道大学大学院共通授業科目規程(平成12年海大達第24号)に定める授業科目(次条において「共通授業科目」という。)を指定して履修させ、修士課程の単位とすることができる。

第7条　博士課程の修了要件は、大学院に5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、修士課程において30単位以上、博士後期課程において10単位以上をそれぞれ修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

2　前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「3年(修士課程における在学期間を含む。)」と読み替えて、前項の規定を適用する。

3　前2項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第156条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

4　本学院において教育上有益と認めるときは、共通授業科目を指定して履修させ、第1項の規定により修得すべき単位とすることができる。

(長期履修)

第8条　本学院において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、教授会の議を経て、その計画的な履修(以下「長期履修」という。)を認めることができる。

2　長期履修に関し通則第4条の2に定めるもののほか、本学院において必要な事項は、教授会の議を経て、学院長が別に定める。

(他大学の大学院等における履修等)

第9条　本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が他の大学の大学院の授業科目を履修し、又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(次条第1項において「国際連合大学」という。)において学修することを認めることができる。

2　前項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位又は学修の成果については、修士課程及び博士後期課程を通して15単位を超えない範囲において、教授会の議を経て第6条第1項又は第7条の規定により修得すべき単位の一部とみなすことができる。

3　本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学の大学院若しくは研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定及び在学年数の取扱い)

第10条　本学院において教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、新たに本学院に入学した学生が、入学前に本学若しくは他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に規定する科目等履修生として履修した授業科目について修得した単位を含む。)又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学において学修した成果を、本学院において修得した単位以外のものについては、修士課程及び博士後期課程を通して15単位を超えない範囲において、本学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、前条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて、修士課程及び博士後期課程を通して20単位を超えないものとする。

3　本学院は、第1項の規定により入学前に修得した単位又は学修の成果(学校教育法(昭和22年法律第26号)第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。)を本学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位又は学修の成果の修得により本学院の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲において、本学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。

(履修方法)

第11条　授業科目の履修方法の細目については、教授会の議を経て、学院長が定める。

(試験)

第12条　各授業科目の試験(以下「科目試験」という。)は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。ただし、やむを得ない事由があるときは、教授会の議を経て、臨時に実施することができる。

(成績の評価)

第13条　科目試験の成績は、秀、優、良、可及び不可の5種とし、秀、優、良及び可を合格とする。

(学位論文の提出期日)

第14条　修士課程及び博士課程の学位論文は、本学院の定める期日までに提出しなければならない。

第4章　課程修了の認定

(課程修了の認定)

第15条　修士課程及び博士課程の修了は、当該課程の修了要件を満たした者について、教授会の議を経て、総長がこれを認定する。

第5章　特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生

(特別聴講学生)

第16条　本学院において特定の授業科目を履修し、単位を修得しようとする他の大学の大学院又は外国の大

学の大学院の学生があるときは、教授会の議を経て、特別聴講学生としてこれを許可することができる。
2　特別聴講学生は、学期又は学年ごとに許可する。
3　特別聴講学生に係る試験及び成績の評価については、第12条及び第13条の規定を準用する。
（特別研究学生）
第17条　本学院において研究指導を受けようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは、教授会の議を経て、特別研究学生としてこれを許可することができる。
第18条　削除
（外国人留学生）
第19条　通則第47条の規定による外国人留学生の入学については、教授会の議を経て、総長がこれを許可することがある。

附　則

1　この規程は、平成17年4月1日から施行する。
2　北海道大学大学院通則の一部を改正する規則（平成17年海大達第45号）附則第2項に規定する地球環境科学研究科の地圏環境科学専攻、生態環境科学専攻、物質環境科学専攻又は大気海洋圏環境科学専攻に在学する者（以下「地球環境科学研究科在学者」という。）に係る教育課程の実施及び課程修了の認定は、同附則第4項の規定に基づき環境科学院が行うものとし、当該地球環境科学研究科在学者に係る教育課程、課程修了の要件その他教育に関し必要な事項は、環境科学院において別に定める。
3　北海道大学大学院地球環境科学研究科規程（平成5年海大達第15号）は、廃止する。

附　則（平成18年4月1日海大達第95号）

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附　則（平成19年4月1日海大達第140号）

1　この規程は、平成19年4月1日から施行する。
2　平成19年3月31日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成19年12月26日海大達第285号）

この規程は、平成19年12月26日から施行する。

附　則（平成20年4月1日海大達第83号）

1　この規程は、平成20年4月1日から施行する。
2　平成20年3月31日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成22年4月1日海大達第95号）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附　則（平成23年4月1日海大達第121号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附　則（平成27年4月1日海大達第128号）

1　この規程は、平成27年4月1日から施行する。
2　平成27年3月31日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成28年4月1日海大達第92号）

1　この規程は、平成28年4月1日から施行する。
2　平成28年3月31日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の北海道大学大学院環境科学院規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則(平成29年4月1日海大達第120号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附　則(平成31年4月1日海大達第101号)

1　この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2　平成31年3月31日に本学大学院に在学する者(以下この項において「在学者」という。)及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則(令和2年4月1日海大達第90号)

1　この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2　令和2年3月31日に本学大学院に在学する者(以下この項において「在学者」という。)及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則(令和3年4月1日海大達第73号)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附　則(令和4年4月1日海大達第95号)

1　この規程は、令和4年4月1日から施行する。

2　令和4年3月31日に本学大学院に在学する者(以下この項において「在学者」という。)及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則(令和5年4月1日海大達第89号)

1　この規程は、令和5年4月1日から施行する。

2　令和5年3月31日に本学大学院に在学する者(以下この項において「在学者」という。)及び同年4月1日以降に在学者の属する年次に入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表(第5条関係)

環境起学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程		修士課程の修了要件 必修科目12単位を含み、合計30単位以上を修得すること。
(必修科目)		
環境起学論文講読Ⅰ	4	
環境起学特別研究Ⅰ	8	
(選択科目)		
環境科学基礎論	2	
国際環境保全学総論	2	
環境汚染比較特論	2	
地生態資源学特論	2	
気候変動影響特論	2	
自然環境学総論	2	
再生可能エネルギー総論	2	
水循環学特論	2	
環境情報地理学特論	2	
水資源学特論	2	
流域環境学特論	2	
環境保全学特論	2	
寒冷陸圏環境学特論	2	
応用生態学特論	2	

環境解析法演習Ⅰ	2	
環境解析法演習Ⅱ	2	
山岳環境観測法実習	4	
統合自然環境調査法実習	2	
統合環境地理調査法実習	4	
環境適応学総論	2	
環境適応学特論	2	
環境計量学特論	2	
統合環境分析法実習	4	
環境起学基礎演習	1	
実践環境科学総論Ⅰ	2	
実践環境科学総論Ⅱ	2	
実践環境科学特論	2	
実践環境科学演習Ⅰ	1	
実践環境科学演習Ⅱ	1	
実践環境科学実習Ⅰ	1	
実践環境科学実習Ⅱ	1	
実践環境科学インターンシップⅠ	2	
実践環境科学インターンシップⅡ	2	
国際科学コミュニケーション法特論	2	
環境起学特別講義Ⅰ	2	
環境起学特別講義Ⅱ	2	
環境起学特別講義Ⅲ	2	
環境科学英語ライティング特論	2	
博士後期課程		
(必修科目)		
環境起学論文講読Ⅱ	4	
環境起学特別研究Ⅱ	8	

地球圏科学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程		修士課程の修了要件
(必修科目)		必修科目12単位を含み、合計30単位以上を修得すること。
地球圏科学論文講読Ⅰ	4	
地球圏科学特別研究Ⅰ	8	
(選択科目)		
古環境学基礎論	2	
地球雪氷学基礎論	2	
大気海洋物理学基礎論	2	
大気海洋化学基礎論	2	
古気候学特論	2	
生物地球化学基礎論	2	

北極域総論	2	
化学海洋学特論	2	
海洋生物地球化学特論	2	
生態系環境科学特論	2	
生態系物質循環学特論	2	
氷河・氷床学特論	2	
雪氷水文学特論	2	
寒冷圏気象・気候学特論	2	
理論雪氷学特論	2	
大気環境科学特論	2	
極域海洋学特論	2	
大気力学特論	2	
海洋力学特論	2	
気候変動特論	2	
気候モデリング特論	2	
地球流体力学特論	2	
大気海洋解析法特論	2	
遠隔情報学特論	2	
地球圏科学特別講義Ⅰ	2	
地球圏科学特別講義Ⅱ	2	
地球圏科学特別講義Ⅲ	2	
地球圏科学特別講義Ⅳ	2	
地球圏科学演習Ⅰ	4	
地球圏科学演習Ⅱ	4	
地球圏科学実習Ⅰ	4	
地球圏科学実習Ⅱ	4	
地球雪氷学実習Ⅰ	2	
地球雪氷学実習Ⅱ	2	
博士後期課程		
(必修科目)		
地球圏科学論文講読Ⅱ	4	
地球圏科学特別研究Ⅱ	8	

生物圏科学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程		修士課程の修了要件
(必修科目)		必修科目12単位を含み、合計30単位以上を修得すること。
生物圏科学論文講読Ⅰ	4	
生物圏科学特別研究Ⅰ	8	
(選択科目)		
多様性生物学基礎論	2	
生態学基礎論	2	

分子生物学基礎論	2	
海洋生物環境学基礎論	2	
フィールド科学基礎論	2	
北方生態系の生物多様性基礎論	2	
生物生産学基礎論	2	
植物生態・多様性生物学特論Ⅰ	2	
植物生態・多様性生物学特論Ⅱ	2	
生態遺伝学特論Ⅰ	2	
生態遺伝学特論Ⅱ	2	
環境分子生物学特論Ⅰ	2	
環境分子生物学特論Ⅱ	2	
動物生態学特論Ⅰ	2	
動物生態学特論Ⅱ	2	
海洋生物圏環境科学特論Ⅰ	2	
海洋生物圏環境科学特論Ⅱ	2	
水圏科学特論Ⅰ	2	
水圏科学特論Ⅱ	2	
森林圏科学特論Ⅰ	2	
森林圏科学特論Ⅱ	2	
森林圏科学特論Ⅲ	2	
森林圏科学特論Ⅳ	2	
耕地圏科学特論Ⅰ	2	
耕地圏科学特論Ⅱ	2	
生物圏科学特別講義Ⅰ	2	
生物圏科学特別講義Ⅱ	2	
生物圏科学実習Ⅰ	4	
生物圏科学実習Ⅱ	4	
フィールド科学特別実習Ⅰ	1	
フィールド科学特別実習Ⅱ	1	
博士後期課程		
(必修科目)		
生物圏科学論文講読Ⅱ	4	
生物圏科学特別研究Ⅱ	8	

環境物質科学専攻

授業科目	単位	備考
修士課程		修士課程の修了要件
(必修科目)		必修科目18単位、選択必修科目
環境物質科学論文講読Ⅰ	4	から8単位以上を含み、合計30単位
環境物質科学特別研究Ⅰ	8	以上を修得すること。ただし、環境
環境物質科学基礎論Ⅰ	2	物質科学実習Ⅰ及び環境物質科学
環境物質科学基礎論Ⅱ	2	実習Ⅱの単位は、修了に必要な単

環境物質科学基礎論Ⅲ	2	位数に算入することができない。
(選択必修科目)		
分子環境学特論Ⅰ	2	
生体物質科学特論Ⅰ	2	
生体物質科学特論Ⅱ	2	
ナノ環境材料化学特論Ⅰ	2	
ナノ環境材料化学特論Ⅱ	2	
ナノ環境材料化学特論Ⅲ	2	
光電子科学特論Ⅰ	2	
光電子科学特論Ⅱ	2	
環境触媒化学特論Ⅰ	2	
環境触媒化学特論Ⅱ	2	
(選択科目)		
分子環境学特論Ⅱ	2	
分子環境学特論Ⅲ	2	
環境物質科学特別講義Ⅰ	1	
環境物質科学特別講義Ⅱ	1	
環境物質科学特別講義Ⅲ	1	
環境物質科学特別講義Ⅳ	1	
環境物質科学実習Ⅰ	4	
環境物質科学実習Ⅱ	4	
博士後期課程		
(必修科目)		
環境物質科学論文講読Ⅱ	4	
環境物質科学特別研究Ⅱ	8	

環境科学院共通科目

授業科目	単位	備考
修士課程		
(選択科目)		
環境科学総論	2	
環境科学研究基礎論	1	
国際環境科学実習Ⅰ	1	
国際環境科学実習Ⅱ	1	
国際環境科学研究Ⅰ	2	
国際環境科学研究Ⅱ	2	
博士後期課程		
(選択科目)		
国際環境科学特別研究Ⅰ	2	
国際環境科学特別研究Ⅱ	2	
国際環境科学特別研究Ⅲ	2	

１９　予算

年度	（単位：千円）
	運営費交付金
令和６年度	９，７５７

２０　安全管理

実施項目	防災訓練
実施日	１０月４日
実施内容：総合訓練	
実施項目	安全教育
実施時期	４月～６月
実施内容：「安全の手引き」，「安全の手引き DVD 版」，「化学薬品の取扱いについて」，「安全マニュアル　環境科学院」を活用して安全教育を各研究室等単位で実施	
実施項目	職場巡視
実施時期	１１月
実施内容：各研究室・実験室等における労働災害等を未然に防止し，省エネルギーの意識を高めるために実験室・居室等を対象に実施	

２１　国際交流協定

部局間交流協定

	国・地域名	機関名	締結日	備考
1	アメリカ合衆国	イリノイ大学大学院シカゴ校 UIC Graduate College, The University of Illinois at Chicago	平成5年7月14日 （更新：平成30年3月31日）	
2	インドネシア共和国	パランカラヤ大学 University of Palangka Raya	平成7年3月16日 （更新：平成9年12月13日） （更新：平成15年11月21日） （満了：平成18年8月25日）	※
3	英国（イギリス）	ノッティンガム大学 University of Nottingham	平成8年2月9日 （廃止：平成14年2月6日）	
4	ネパール連邦民主共和国	トリブバン大学科学技術研究科 Institute of Science and Technology, Tribhuvan University	平成9年10月17日 （更新：平成12年10月17日） （更新：平成16年1月20日） （満了：平成22年10月23日）	※
5	中華人民共和国	蘭州大学資源環境学院 School of Earth and Environmental Sciences, Lanzhou University	平成9年11月17日 （更新：平成14年11月17日） （更新：平成19年11月17日） （満了：平成22年4月9日）	※
6	マレーシア	マレーシア・サバ大学科学技術研究科 School of Science and Technology, Universiti Malaysia Sabah	平成10年1月16日 （廃止：平成15年1月15日）	
7	中華民国（台湾）	国立成功大学永続環境科技研究センター 国立成功大学環境工程学系 Sustainable Environment Research Center, National Cheng Kung University Department of Environmental Engineering, National Cheng Kung University	平成22年9月2日 （廃止：平成28年3月31日）	※
8	ドイツ連邦共和国	GEOMAR ヘルムホルツ キール海洋研究センター GEOMAR | Helmholtz Centre for Ocean Research Kiel	平成24年5月31日 （更新：平成29年11月10日）	
9	中華民国（台湾）	国立東華大学環境学院 College of Environmental Studies, National Dong Hwa University	平成24年6月25日 （満了：平成30年3月19日）	※
10	アメリカ合衆国	ユタ大学大学院・ナノ研究所 Graduate School/ Nano Institute of Utah, University of Utah	平成25年1月22日 （更新：平成30年1月22日）	
11	マレーシア	マレーシア・サバ大学熱帯生物保全研究所 Institute for Tropical Biology and Conservation, Universiti Malaysia Sabah	平成26年2月5日 （更新：平成31年2月5日）	※
12	中華民国（台湾）	国立台湾大学 工学院 College of Engineering, National TAIWAN University	平成26年3月6日	
13	マレーシア	マレーシア大学テレンガヌ校海洋科学・環境科学部 School of Marine Science and Environment, Universiti Malaysia Terengganu	平成26年9月29日	
14	ノルウェー王国	オスロ大学地球科学科 Department of Geosciences, University of Oslo	平成27年2月16日 （更新：令和5年2月16日）	
15	中華人民共和国	香港科技大学理学院 School of Science, The Hong Kong University of Science and Technology	平成27年12月28日	
16	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリプス海洋研究所 The Regents of the University of California on behalf of its San Diego campus's Scripps Institution of Oceanography	平成28年3月17日 （更新：令和4年5月2日）	
17	ノルウェー王国	オスロ大学数学・自然科学部 The Faculty of Mathematics and Natural Science, University of Oslo	平成29年7月13日 （満了：令和5年8月10日）	
18	中華人民共和国	華東師範大学地球科学部 Faculty of Earth Sciences, East China Normal University	平成29年10月23日	
19	イタリア共和国	トリノ大学農学，森林科学及び食品科学部 Department of Agricultural, Forest and Food Science, University of Turin	平成29年10月26日	

	国・地域名	機関名	締結日	備考
20	インドネシア共和国	イスラム大学数学・自然科学部 Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Islamic University of Indonesia	平成30年2月27日 （満了：学部統合に伴う新規締結のため　№24参照）	
20	ロシア連邦	北東連邦大学 North-Eastern Federal University	平成30年7月26日 （廃止：令和2年4月15日）	
21	中華人民共和国	武漢紡織大学化学・化学工学院 College of Chemistry and Chemical Engineering, Wuhan Textile University	令和元年10月15日	
22	タイ王国	ヴィデャシリメディ科学技術大学 Vidyasirimedhi Institute of Science and Technology	令和2年2月27日	
23	インドネシア共和国	ハサヌディン大学数学自然科学部 Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Hasanuddin University	令和6年1月5日	
24	インドネシア共和国	イスラム大学数学・自然科学部および土木工学・計画学部 Faculty of Civil Engineering and Planning / Mathematics and Natural Sciences, Islamic University of Indonesia	令和6年1月18日	
25	ベトナム社会主義共和国	ベトナム国家大学ホーチミン校自然科学大学物理・工学物理学部 Physics and Engineering Physics Faculty, Viet Nam National University Ho Chi Minh City - University of Science	令和6年5月9日	
26	中華民国（台湾）	国立中央大学工学院及び理学院 College of Engineering and College of Sicnece, National Central Univeristy	令和6年11月5日（参画）	
27	中華人民共和国	大連理工大学化工学院 School of Chemical Engineering, Dalian University of Technology	令和6年11月12日	

※後日大学間交流締結

大学間交流協定

	国・地域名	機関名	締結日	備考
1	大韓民国	ソウル大学校 Seoul National University	平成9年10月1日 （更新：平成14年10月1日） （更新：平成19年10月1日） （更新：平成24年10月1日） （更新：平成29年10月1日）	
2	大韓民国	釜慶大学校 Pukyong National University	平成12年10月25日 （更新：平成17年10月25日） （更新：平成22年10月25日） （更新：平成27年10月25日）	
3	フィンランド共和国	オウル大学 University of Oulu	平成13年12月11日 （参画：平成24年1月） （更新：平成28年12月11日）	
4	アメリカ合衆国	ハワイ大学マノア校 University of Hawaii at Manoa	平成15年6月30日 （参画：平成22年10月） （更新：平成25年6月30日）	
5	中華人民共和国	南開大学 Nankai University	平成18年5月11日 （更新：平成23年5月11日） （更新：平成28年5月11日）	
6	インドネシア共和国	パランカラヤ大学 University of Palangka Raya	平成18年8月26日 （更新：平成23年8月26日） （更新：平成28年8月26日）	※
7	スイス連邦	スイス連邦工科大学 Swiss Federal Institute of Technology Zurich (ETH)	平成19年6月13日 （更新：平成23年5月30日） （更新：平成28年7月21日） （更新：平成30年6月13日） （更新：令和2年11月5日）	※

	国・地域名	機関名	締結日	備考
8	ロシア連邦	極東連邦総合大学 Far Eastern Federal University （現　極東連邦大学 Far Eastern Federal University）	平成19年11月12日 （更新：平成26年9月25日）	
9	オーストラリア連邦	タスマニア大学 University of Tasmania	平成21年1月9日 （更新：平成26年1月9日）	
10	ドイツ連邦共和国	ブレーメン大学 Universität Bremen	平成22年2月11日 （更新：平成27年2月11日）	
11	中華人民共和国	蘭州大学 Lanzhou University	平成22年4月9日 （更新：平成27年4月9日）	
12	ネパール連邦民主共和国	トリブバン大学 Tribhuvan University	平成22年10月24日 （更新：平成27年10月24日）	※
13	中華人民共和国	東南大学 Southeast University	平成22年10月29日 （更新：平成27年10月29日）	※
14	中華人民共和国	厦門大学 Xiamen University	平成22年11月25日 （更新：平成27年11月25日）	
15	中華人民共和国	中国海洋大学 Ocean University of China	平成23年2月3日 （更新：平成28年2月3日）	
16	中華人民共和国	西北農林科技大学 Northwest A&F University	平成23年10月13日 （更新：平成28年10月13日）	
17	中華民国（台湾）	国立中興大学 National Chung Hsing University	平成24年3月14日 （更新：平成29年3月14日）	
18	ロシア連邦	北東連邦大学 North-Eastern Federal University	平成24年4月2日 （更新：平成29年4月2日）	
19	大韓民国	成均館大学校 Sungkyunkwan University	平成24年12月27日 （更新：平成29年12月27日）	
20	中華民国（台湾）	国立成功大学 National Cheng Kung University	平成25年1月23日 （更新：平成30年1月23日）	
21	インドネシア共和国	バンドン工科大学 Institut Teknologi Bandung	平成26年3月20日	
22	フィリピン共和国	フィリピン大学 The University of The Philippines	平成26年7月16日 （改訂：令和3年7月16日）	※
23	オランダ王国	アムステルダム自由大学 Vrije Universiteit Amsterdam	平成28年1月18日	
23	マレーシア	マレーシア・サバ大学 Universiti Malaysia Sabah	平成28年4月12日	※
24	中華民国（台湾）	国立東華大学 National Dong Hwa University	平成29年6月7日	※
25	インド	インド工科大学ボンベイ校 Indian Institute of Technology Bombay	平成30年1月15日	
26	インド	インド工科大学マドラス校 Indian Institute of Technology Madras	平成30年3月26日	
27	インド	インド工科大学ハイデラバード校 Indian Institute of Technology Hyderabad	平成30年4月2日	

※：責任部局として参画

大学院環境科学院

年　次　報　告　書

令和６年度

令和８年６月発行
令和８年１０月改訂
発行者　北海道大学大学院環境科学院
〒060-0810
札幌市北区北１０条西５丁目
TEL 011-706-2202
URL http://www.ees.hokudai.ac.jp/